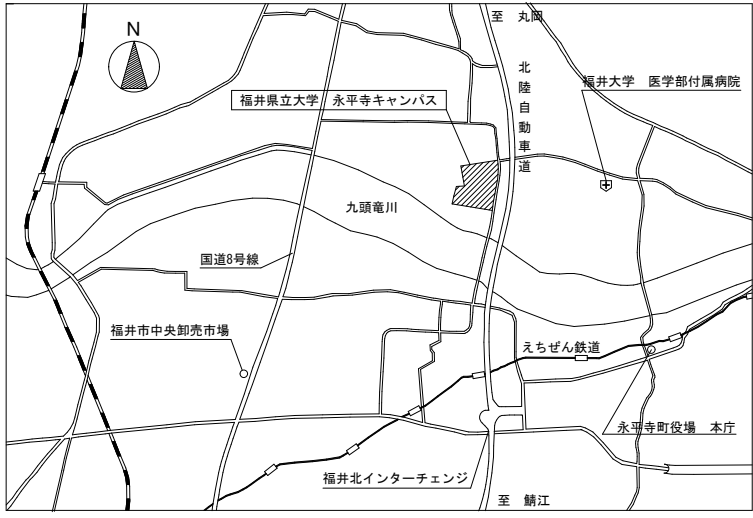
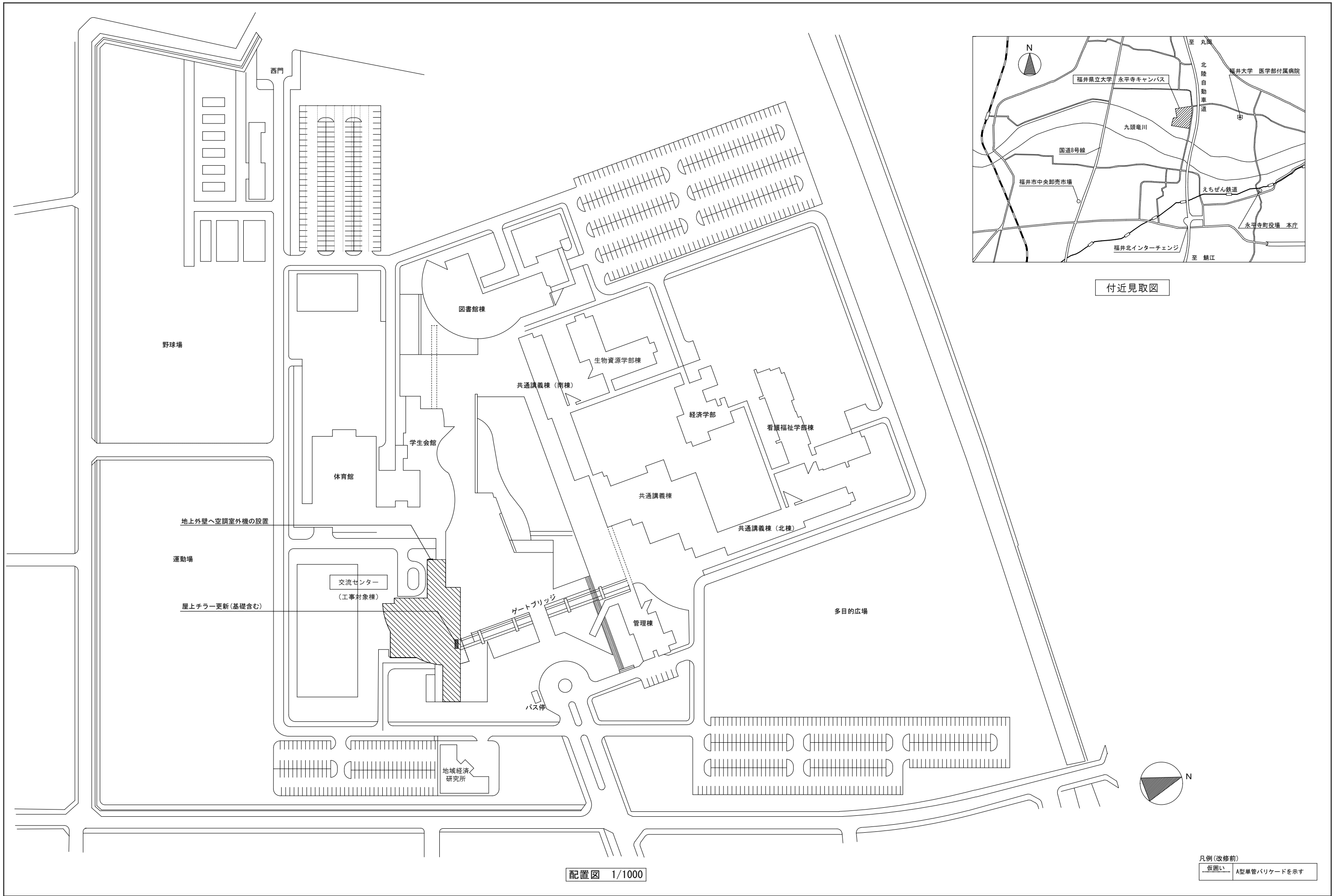


# 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事

図面番号		図面名称	図面番号		図面名称
01	L-00	表紙図面目録	21	E-02	電気設備工事特記仕様書2
02	M-01	機械設備工事特記仕様書1	22	E-03	電気設備 1階平面図(西側)(改修前)
03	M-02	機械設備工事特記仕様書2	23	E-04	電気設備 1階平面図(西側)(改修後)
04	M-03	配置図、付近見取図	24	E-05	電気設備 1階平面詳細図(東側)(改修後)
05	M-04	空調設備 機器表(改修前)	25	E-06	電気設備 2階平面詳細図(西側)(改修前・後)
06	M-05	空調設備 機器表(改修後)	26	E-07	電気設備 2階平面詳細図(東側)(改修後)
07	M-06	空調設備 1階平面図(改修前)	27	E-08	電気設備 R階平面詳細図(改修前・後)
08	M-07	空調設備 1階平面図(改修後)	28	A-01	建築改修工事特記仕様書1
09	M-08	空調設備 3階平面図(改修前)	29	A-02	建築改修工事特記仕様書2
10	M-09	空調設備(配管) 2階平面詳細図(西側)(改修前・後)	30	A-03	建築改修工事特記仕様書3
11	M-10	空調設備(ダクト) 2階平面詳細図(西側)(改修前・後)	31	A-04	建築改修工事特記仕様書4
12	M-11	給排水設備 2階平面詳細図(西側)(改修前・後)	32	A-05	建築改修工事特記仕様書5
13	M-12	空調設備 R階平面詳細図(改修前・後)	33	A-06	建築改修工事特記仕様書6
14	M-13	自動制御設備 計装図	34	A-07	建築改修工事特記仕様書7
15	M-14	自動制御設備 3階平面図(改修後)	35	A-08	1階平面図
16	M-15	自動制御設備 R階平面詳細図(改修前・後)	36	A-09	2階平面図
17	M-16	空調設備 機器表【その2】	37	A-10	3階平面図【参考】
18	M-17	機械設備 1階平面図詳細図(東側)(改修後)【その2】	38	A-11	R階平面詳細図、部分詳細
19	M-18	機械設備 2階平面図詳細図(東側)(改修後)【その2】	39	A-12	仮設計画図
20	E-01	電気設備工事特記仕様書1			



<p>●屋外埋設配管</p> <p>標準仕様書第2編 2.7.1 または改修標準仕様書第2編 2.5.1 による。</p> <p>(1) 埋設深度は、次のとおりとする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。 ※地表面（舗装がある場合は、舗装下面（路盤））から 300mm 以上 ※車両道路（構内車両道路程度） 地表面から 600mm 以上 ○ 地表面から mm 以上</p> <p>(2) 配管下端（管底-100mm）および配管上端（管頂+100mm）に砂地業（山砂類または再生材）を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。</p> <p>(3) 管を埋戻す場合は、土被り150mm程度の深さに埋設表示用アルミテープまたはポリエチレンテープ等を埋設する。ただし、排水管は不要とする。</p> <p>(4) 曲りおよび分岐部には地中埋設標を打込むこと。</p> <p>●屋内埋設配管</p> <p>(1) 給水、ガスおよび消火配管は、土間コンクリート直下の地業部分に配管し、周囲を砂で埋戻す。</p> <p>(2) 排水管も上記に準じ、配管上部の地業は砂に置き換える。</p> <p>(3) 配管は原則として、土間コンクリートより吊りボルトにて吊り下げる。吊り間隔は屋内配管に準ずる。</p> <p>●保温および塗装</p> <p>(1) 標準仕様書において、ロックウール保温材、グラスウール保温材及びポリスチレンフォーム保温材が併記されている箇所は、いずれかを使用する。</p> <p>(2) 屋外露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は次による。 ●ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板</p> <p>(3) 屋内露出配管（冷媒管を除く）の保温外装材は、原則、合成樹脂製カバー1とする。</p> <p>(4) 弁・ストレーナなどの金属製カバーおよびタンク類の保温外装材の種類は、次による。 ●ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○アルミニウム板 ○アルミニウム板</p> <p>(5) 車庫に露出のダクトおよび配管の保温は、機械室による。</p> <p>(6) 各場所に出露の保温を施さないダクトおよび配管の塗装は以下による。 外壁廻り ※要 ○不要 書庫・倉庫 ○要 ※不要 屋上階 ○要 ※不要 機械室 ○要 ※不要 車庫 ○要 ※不要 一般居室 ※要 ○不要 倉庫 ○要 ○不要 ○図示</p> <p>(7) 合成樹脂製支持受 ※硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの</p> <p>●吹出口および吸込口ボックス</p> <p>ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は JIS A 4009（空気調和および換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ 0.6mm 以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとす。</p> <p>ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。なお大気温度空調等の場合は吹出口ボックス内に露出となる吊りボルトに結露対策すること。</p> <p>○エポキシ樹脂ライニング ※加熱乾燥 ○常温乾燥</p> <p>●電線類および電線管</p> <p>電線類および電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による。</p> <p>電線類は原則としてEM電線およびEMケーブルを使用する。</p> <p>●ボックス</p> <p>樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。</p> <p>●容量等の表示</p> <p>機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 但し、電動機の出力、燃料消費量および圧力損失は表示された数値以下とする。</p> <p>○誘導電動機</p> <p>電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JIS C 4213（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランジスタモーター）による。</p> <p>●スリーブ</p> <p>柱、梁および耐震壁以外の箇所、開口補強が必要、かつ、スリーブ径が200φ以下の部分に付する場合は、紙製板を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ配管施工前に板栓を必ず取り除く。</p> <p>●鋼材工事</p> <p>機器付属金物および配管、ダクトの支持金物は標準仕様書第2編第4章第6節または改修標準仕様書第2編第7章第5節による。</p> <p>●はつり及び穴開け</p> <p>○防塵ダンパーおよび防火防塵ダンパー</p> <p>復旧方法は ※遠方復旧式 ○手動復旧式</p> <p>○消音内貼</p> <p>ダクトおよびチャンパー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は次による。</p> <p>(1) 消音内貼り部分の外部保温は ○要 ※不要</p> <p>(2) チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 （但し、ダクトおよび消音エルボは、内形寸法を示す。）</p> <p>(3) 空気調和機に取付けるサブライチャンパー、レタンチャンパーおよびダクト系で消音内貼したチャンパーには、内貼り仕様または断熱戸の点検口を設ける。</p> <p>○防火区画貫通部等の処理</p> <p>(1) 標準仕様書第2編2.8.1(1) または改修標準仕様書第2編2.6.1(1) による。</p> <p>(2) 大臣認定を受けた工法で施工する場合は、認定書の写しを提出し、監督職員の承諾を受けるとともに、認定工法の表示を行う。</p> <p>○取付枠</p> <p>防火区画部に取付付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。</p> <p>○防火区画 ○平面階 ○図示 ○</p> <p>○掲示板</p> <p>機械室に操作順序、注意事項、連絡先および系統図などを記入した掲示板を設ける。</p> <p>●機器名称等の表示</p> <p>標準仕様書第1編第1章第7節1.7.4または改修標準仕様書第1編第1章第8節1.8.5によるほか、機器に表示する内容は監督職員の指示による。</p> <p>●他工事との取り合い</p> <p>図面に特記なき場合は、表-2「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>●総合調整</p> <p>下記の項目について調整する。</p> <table border="1"> <tr> <td>●空気調和設備</td> <td>●風量調整（測定共） ○水量調整（測定共）</td> </tr> <tr> <td>●換気設備</td> <td>●室内外空気の温湿度測定 ○室内気流およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認</td> </tr> <tr> <td>○排煙設備</td> <td>○風量調整（測定共） ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共）</td> </tr> <tr> <td>○給水設備</td> <td>○飲料水の水质の測定（測定項目は以下による） ○水質基準に関する省令 ○建築物における衛生的環境の確保に関する法律（以下、「ビル管法」という）施行規則第四条第一項イ ※厚生労働大臣告示119号 第二の一の（4） ○雑用水の水质の測定 ※ビル管法施行規則第四条の二による</td> </tr> </table>	●空気調和設備	●風量調整（測定共） ○水量調整（測定共）	●換気設備	●室内外空気の温湿度測定 ○室内気流およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認	○排煙設備	○風量調整（測定共） ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共）	○給水設備	○飲料水の水质の測定（測定項目は以下による） ○水質基準に関する省令 ○建築物における衛生的環境の確保に関する法律（以下、「ビル管法」という）施行規則第四条第一項イ ※厚生労働大臣告示119号 第二の一の（4） ○雑用水の水质の測定 ※ビル管法施行規則第四条の二による	<p>●方式</p> <p>●全空気方式（●中央 ○各階ユニット） ●ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式</p> <p>●設計時の温湿度条件</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">場所</th> <th colspan="2">屋外</th> <th colspan="4">屋内（調整目標値）</th> </tr> <tr> <th>温度(D B)</th> <th>湿度(R H)</th> <th>一般居室</th> <th>○ ○ 居室</th> <th>○ ○ 居室</th> <th>湿度(R H)</th> </tr> <tr> <td>時期</td> <td>温度(D B)</td> <td>湿度(R H)</td> <td>温度(D B)</td> <td>湿度(R H)</td> <td>温度(D B)</td> <td>湿度(R H)</td> </tr> <tr> <td>夏期</td> <td>35.4℃</td> <td>55.3%</td> <td>28℃</td> <td>50%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬期</td> <td>-1.0℃</td> <td>81.4%</td> <td>19℃</td> <td>40%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>○ダクトの種類 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト</p> <p>○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法） （ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分）</p> <p>○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式</p> <p>●保温および塗装（図面特記部分は除く） 1) 冷媒管の保温外装は次による。</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">屋内</th> <th>単独配管</th> <td>隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示</td> </tr> <tr> <th>集合配管</th> <td>隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">屋外</th> <th>単独配管</th> <td>○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○図示</td> </tr> <tr> <th>集合配管</th> <td>○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製●ステンレス鋼板製） ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○図示 ○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製○ステンレス鋼板製）</td> </tr> </table> <p>屋外における保温化粧ケースの下部カバーは ○要 ※不要 とする。 保温化粧ケースを用いる場合は管部にずれ止め固定を施す。</p> <p>2) 弁・ストレーナなどの金属製カバー外装種別は、次による。</p> <table border="1"> <tr> <th>屋内</th> <td>※カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム板</td> </tr> <tr> <th>屋外</th> <td>○カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ※ステンレス鋼板 ○アルミニウム板</td> </tr> </table> <p>3) エアー抜き管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また保温を行う範囲はエアークロスまでとする。</p> <p>4) 油管の地中埋設管は標準仕様書第2編第2章第7節2.7.3(3)による。</p> <p>5) 保温を施す膨張タンク等のふたおよびネック部分の保温は ※要 ○不要 とする。</p> <p>6) 暗渠内（ピット内を含む）の空調用パイプは保温（○有 ※無）とする。</p> <p>7) 下記部分の冷却水配管は、保温（防露）を行い、仕様は温水管の項による。</p> <p>8) 廻りダクトの保温は、保温厚さ25mmとし、範囲は図示による。</p> <p>9) 外気ダクトの保温は、保温厚さ25mmとする。</p> <p>○温度計</p> <p>温度計は（※工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○）とし、取付部は下記による。</p> <p>○冷凍機の冷水管（送り、返り）および冷却水管（送り、返り） ○直置き吸収冷水水機冷水管（送り、返り）および冷却水管（送り、返り） ○パイラの温水管（返り） ○空気調和機の冷水管（送り、返り）および三方弁装置後の冷水管（返り） ○熱交換器の温水管（送り、返り） ○冷水水ヘッダー（柱）および冷水水ヘッダーの各返り管 ○空気調和機（パッケージ形を含む）のサブライチャンパー、レタンダクト、外気取入れダクトおよびレタンチャンパー</p> <p>●圧力計</p> <p>取付部は下記による。</p> <p>○冷凍機の冷水管（送り、返り）および冷却水管（送り、返り） ○空気調和機の冷水管（送り、返り） ○直置き吸収冷水水機冷水管（送り、返り）および冷却水管（送り、返り） ○熱交換器の温水管（送り、返り）</p> <p>○瞬間流量計</p> <p>ピトー管方式によるもので止水コック付とし、形式および取付部は下記による。 なお、着脱形支持部は（○40A用 個 ○100A用 個 ○250A用 個） 附属とする。</p> <p>○冷凍機の冷水管および冷却水管（送りまたは返り）に（○固定形 ○着脱形）を設ける。 ○直置き吸収冷水水機冷水管および冷却水管（送りまたは返り）に（○固定形 ○着脱形）を設ける。 ○冷水水ヘッダーの（○送り管 ○各返り管）に（○固定形 ○着脱形）を設ける。</p> <p>○鋼板製煙道</p> <p>厚さ ※図示</p> <p>○ばい煙濃度計</p> <p>○設けない ○設ける（電源はボイラー制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む） ※ファン付き ○ファンなし</p> <p>○ばいじん量測定口</p> <p>煙道の直線部に80φ以上のフランジ付きの検査口を設ける。</p> <p>●空調用ドレン管</p> <p>空調用ドレン管は通水試験を行う。</p> <p>●ダクトの種類 ※低圧ダクト ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト</p> <p>○ダクトの工法 ○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法） （ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分）</p> <p>○ダクトの分岐方法 給気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気用ダクト ○割込み方式 ○直付け方式</p> <p>○厨房排気ダクトの板厚</p> <p>厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は次による。</p> <table border="1"> <tr> <th>ダクトの長辺</th> <th>板厚</th> </tr> <tr> <td>450mm以下</td> <td>0.6mm</td> </tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td> <td>0.8mm</td> </tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td> <td>1.0mm</td> </tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td> <td>1.2mm</td> </tr> </table> <p>○排気ダクトのシール</p> <p>標準仕様書第3編 2.2.1 によるものとし、施工箇所は下記とする。 ○厨房系統 ○浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統</p> <p>○消音ボックス付送風機</p> <p>標準仕様書第3編 1.11.3 の当該事項による。</p>	場所	屋外		屋内（調整目標値）				温度(D B)	湿度(R H)	一般居室	○ ○ 居室	○ ○ 居室	湿度(R H)	時期	温度(D B)	湿度(R H)	温度(D B)	湿度(R H)	温度(D B)	湿度(R H)	夏期	35.4℃	55.3%	28℃	50%	℃	%	冬期	-1.0℃	81.4%	19℃	40%	℃	%	屋内	単独配管	隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示	集合配管	隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示	屋外	単独配管	○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○図示	集合配管	○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製●ステンレス鋼板製） ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○図示 ○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製○ステンレス鋼板製）	屋内	※カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム板	屋外	○カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ※ステンレス鋼板 ○アルミニウム板	ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0.6mm	450mmを超え1200mm以下	0.8mm	1200mmを超え1800mm以下	1.0mm	1800mmを超えるもの	1.2mm	<p>○排気フード</p> <p>排気フードの補強、支持金物、接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は次による。 ※ステンレス鋼板（補強共）</p> <p>●保温</p> <p>浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温 ※要 ○不要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について） ※要 ○不要 全熱交換器までの室外側ダクトの保温（空調を行っている室について） ※要 ○不要 全熱交換器以降の室内側ダクトの保温（空調を行っている室について） ●要 ※不要 上記以外で外気取入ダクトに保温を行う室： ※図示による 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。</p> <p>○排煙対象部分 ○廊下 ○事務室 ○図示 最大面積 m<sup>2</sup></p> <p>○ダクトの種類 ○高圧1ダクト ○高圧2ダクト</p> <p>○ダクトの工法 ※アングルフランジ工法</p> <p>○ダクトの材料 ※亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製</p> <p>○排煙口</p> <p>(1) 形状 ○スリット フェンス形 ○パネル形 ○ダンパー形 (2) 排煙口の開放 ○手動（○機械式 ○電気式） ○煙感知器連動 (3) 復帰装置 ○手元復帰式（○手動式 ○電気式） ○遠方復帰式 (4) ダンパー本体および操作箱との渡り配線は本工事とする。</p> <p>○保温</p> <p>床下および暗渠内の保温 ○要（図示） ※不要</p> <p>○取付高さ</p> <p>洗面器の取付高さ（床面より前縁上端まで）は次による。ただし、身体障害者用器具は除く。 洗面器 ※800mm ○750mm 「標準図」による</p> <p>○給水方式</p> <p>○水道直結方式 ○高置タンク方式 ○ポンプ直送方式 ○増圧ポンプ方式</p> <p>○弁類 ○飲料水系統の弁類は厚生労働省基準に準じた鉛レスとする。</p> <p>○水栓柱</p> <p>○合成樹脂製（70×70×1800H） ○ステンレス製（ ） 特記なき場合、水栓の取付け高さは約600mmとする。 ○要（○本工事 ○別途工事） ○不要 ○既存量水器使用 名称：</p> <p>○排水方式</p> <p>汚水と雑排水 【屋内】 ○分流式 ○合流式 汚水・雑排水と雨水 【屋外】 ○分流式 ○合流式 ポンプ排水 ○無し ○汚物 ○汚水 ○浄化槽2次側</p> <p>○放流先</p> <p>(1) 汚水 ○直放流下水管 ○浄化槽 (2) 雑排水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ○別途樹（建築工事） (3) 雨水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝（建築工事） ○雨水樹（建築工事） (4) 湧水ポンプアップ ○直放流下水管 ○雨水側溝（建築工事） ○雨水樹（建築工事）</p> <p>○負担金</p> <p>○要（○本工事 ○別途工事） ○不要 ○既存公設あり 名称：</p> <p>○給湯方式</p> <p>○中央式 ○局所式</p> <p>○保温</p> <p>(1) 膨張管・補給水管の保温は冷水水管に準ずる。 (2) ガス湯沸器の排気管の断熱層の保温は、標準仕様書第2編 3.1.5 の表2.3.5による。</p> <p>○消火設備の種類</p> <p>○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火（ ） ○連結給水管 ○連結放水 ○フード等用簡易自動消火装置 ○屋外消火栓 ○消防用水</p> <p>○保温</p> <p>消火用充水タンクの保温を ※施工する（膨張タンクによる） ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ※施工しない ○施工する（膨張タンクによる） 屋外露出部の保温を ※施工する（給水管の保温仕様による） ○施工しない</p> <p>○ガスの種類</p> <p>○液化石油ガス（※50kg ○20kg） ○都市ガス（発熱量 KJ/m<sup>2</sup>(N)）</p> <p>○土中埋設管の接合方法 ○ネジ接合 ○SGM工法 ○PE工法</p> <p>○ビット内施工法 ※溶接接合</p> <p>○負担金</p> <p>○要（○本工事 ○別途工事） ○不要</p> <p>●工事範囲 ●配管 ●配線 ●機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付</p> <p>●監視方式 ○警報装置 ○簡易形監視制御装置 ●中央監視制御装置</p>	<p>表-1「配管材料区分」</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">空調配管</th> <th colspan="2">用途</th> <th rowspan="2">名称・種類</th> </tr> <tr> <td>冷水水管・膨張管・エア抜き管・膨張タンクより、</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボイラー室への補給水管</td> <td>※配管用炭素鋼管(SGP白)</td> <td>○ステンレス鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水管</td> <td>○耐熱性ライニング鋼管</td> <td>○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気給気管</td> <td>※配管用炭素鋼管(SGP白)</td> <td>○ステンレス鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気遠送管</td> <td>※配管用炭素鋼管(SGP白)</td> <td>○ステンレス鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>油管（一般配管）</td> <td>※配管用炭素鋼管(SGP黒)</td> <td>○耐熱性ライニング鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>"（地中配管）</td> <td>※ポリエチレン被覆鋼管</td> <td>○ステンレス鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>空調用給水管</td> <td>※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)</td> <td>○ステンレス鋼管(SUS304)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>空調用排水管</td> <td>※排水用硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td>○配管用炭素鋼管(SGP白)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒管</td> <td>※断熱材被覆鋼管</td> <td>○鋼管</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パッケージ形空調和機の2次側配線の仕様は製造者の標準仕様とする。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水配管</td> <td>一般配管</td> <td>※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)</td> <td>○ポリ粉体ライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地中配管</td> <td>○ステンレス鋼管(SUS316)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）</td> <td>○水道用ポリエチレン層管（呼び径50以下）</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○水道配水用ポリエチレン管(JMVA K144(継手は電気融着式))（呼び径75以上）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水配管</td> <td>屋内雑排水管</td> <td>※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td>○排水用塩ビライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（地中埋設部）</td> <td>○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋内汚水管</td> <td>※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td>○排水用塩ビライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td></td> <td>（地中埋設部）</td> <td>○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋外汚水・雑排水管</td> <td>※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管(VU)</td> </tr> <tr> <td>通気管</td> <td></td> <td>※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○排水用塩ビライニング鋼管</td> <td>○配管用炭素鋼管(SGP白)</td> </tr> <tr> <td>ポンプアップ排水管</td> <td></td> <td>【汚水・雑排水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)</td> <td>○コーティング鋼管</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>継手は圧送排水鋼管用可とう接手(JPF MDJ 003)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>【湧水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)</td> <td>○配管用炭素鋼管(SGP白)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>継手はフランジまたはハウジング形継手とする。 （ただし汚水・雑排水槽内は塩ビライニング鋼管(SGP-FVD)とする。）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>（地中埋設部）</td> <td>【屋外】 ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>配管材においてリサイクル材料が指定された場合、規格サイズがないものについては、リサイクル材料を使用しなくてもよい。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>給湯配管</td> <td>※鋼管（壁または床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。）</td> <td>○ステンレス鋼管(SUS304)</td> <td>○ステンレス鋼管(SUS316)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>（呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火配管</td> <td>一般配管</td> <td>※配管用炭素鋼管(SGP黒)</td> <td>○圧力配管用炭素鋼管(STPG白)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地中配管</td> <td>【屋内および屋外】 ※消防用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>特殊消火管</td> <td>※圧力配管用炭素鋼管(STPG370 白 Sch80)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス管</td> <td>屋内配管</td> <td>※配管用炭素鋼管(白)</td> <td>○ポリエチレン被覆鋼管(ピット内)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋外配管</td> <td>※ポリエチレン管</td> <td>○被覆鋼管(PS)</td> </tr> </table> <p>注 図面特記部分は除く。</p>	空調配管	用途		名称・種類	冷水水管・膨張管・エア抜き管・膨張タンクより、		ボイラー室への補給水管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管		冷却水管	○耐熱性ライニング鋼管	○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)		蒸気給気管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管		蒸気遠送管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管		油管（一般配管）	※配管用炭素鋼管(SGP黒)	○耐熱性ライニング鋼管		"（地中配管）	※ポリエチレン被覆鋼管	○ステンレス鋼管		空調用給水管	※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)	○ステンレス鋼管(SUS304)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）		空調用排水管	※排水用硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○配管用炭素鋼管(SGP白)		冷媒管	※断熱材被覆鋼管	○鋼管		パッケージ形空調和機の2次側配線の仕様は製造者の標準仕様とする。				給水配管	一般配管	※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)	○ポリ粉体ライニング鋼管		地中配管	○ステンレス鋼管(SUS316)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）	○水道用ポリエチレン層管（呼び径50以下）			○水道配水用ポリエチレン管(JMVA K144(継手は電気融着式))（呼び径75以上）		排水配管	屋内雑排水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○排水用塩ビライニング鋼管		（地中埋設部）	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)			屋内汚水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○排水用塩ビライニング鋼管		（地中埋設部）	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)			屋外汚水・雑排水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○硬質ポリ塩化ビニル管(VU)	通気管		※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)				○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)				○排水用塩ビライニング鋼管	○配管用炭素鋼管(SGP白)	ポンプアップ排水管		【汚水・雑排水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)	○コーティング鋼管			継手は圧送排水鋼管用可とう接手(JPF MDJ 003)				【湧水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)	○配管用炭素鋼管(SGP白)			継手はフランジまたはハウジング形継手とする。 （ただし汚水・雑排水槽内は塩ビライニング鋼管(SGP-FVD)とする。）			（地中埋設部）	【屋外】 ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)				※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)				○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)				配管材においてリサイクル材料が指定された場合、規格サイズがないものについては、リサイクル材料を使用しなくてもよい。		給湯配管	※鋼管（壁または床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。）	○ステンレス鋼管(SUS304)	○ステンレス鋼管(SUS316)			（呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合）		消火配管	一般配管	※配管用炭素鋼管(SGP黒)	○圧力配管用炭素鋼管(STPG白)		地中配管	【屋内および屋外】 ※消防用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)			特殊消火管	※圧力配管用炭素鋼管(STPG370 白 Sch80)		ガス管	屋内配管	※配管用炭素鋼管(白)	○ポリエチレン被覆鋼管(ピット内)		屋外配管	※ポリエチレン管	○被覆鋼管(PS)	<p>表-2「工事区分表」</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">設備</th> <th colspan="2">工事内容</th> <th rowspan="2">建築</th> <th rowspan="2">電気</th> <th rowspan="2">機械</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設備基礎等</td> <td>屋内基礎</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>屋上基礎</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">設備用開口部</td> <td>架台、アンカーボルト</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>特記した基礎</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">その他</td> <td>下地補強</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S・SRC造梁の貫通部</td> <td>補強</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>スリーブ</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>RC造梁・床・壁の貫通部</td> <td>補強</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>スリーブ</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽量鉄骨下地天井・壁の開口部</td> <td>型枠</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>補強を要する切込み</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>補強を要しない切込み</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>貫通部・開口部の穴埋め補修</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>貫通部・開口部の差出し</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他</td> <td>床、天井点検口</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防油堤</td> <td>オイルサービスタンの防油堤</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外部取付ガラリ</td> <td>ダクト、チャンパーの接続用フランジ含む</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">電気配管配線</td> <td>雨水排水</td> <td>配管、樹、蓋</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>汚水、雑排水</td> <td>配管、樹、蓋</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器等へ直接接続する配管配線</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td></td> <td>機器付属の制御盤への電源供給配管配線</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td></td> <td>機器と専用操作スイッチの渡り配管配線</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td></td> <td>パッケージ形空調和機の2次側配管配線（接地共）</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> </table>	設備	工事内容		建築	電気	機械			設備基礎等	屋内基礎		●	●	●	屋上基礎		●	●	●	設備用開口部	架台、アンカーボルト		●	●	●	特記した基礎		●	●	●	その他	下地補強		●			S・SRC造梁の貫通部	補強	●				スリーブ	●			RC造梁・床・壁の貫通部	補強	●				スリーブ	●			軽量鉄骨下地天井・壁の開口部	型枠	●				補強を要する切込み	●				補強を要しない切込み	●			貫通部・開口部の穴埋め補修		●	●	●	貫通部・開口部の差出し		●	●	●	その他	床、天井点検口		●			防油堤	オイルサービスタンの防油堤	●			外部取付ガラリ	ダクト、チャンパーの接続用フランジ含む	●			電気配管配線	雨水排水	配管、樹、蓋	●			汚水、雑排水	配管、樹、蓋	●			機器等へ直接接続する配管配線		●	●	●	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●	●	●		機器付属の制御盤への電源供給配管配線		●	●	●		機器と専用操作スイッチの渡り配管配線		●	●	●		パッケージ形空調和機の2次側配管配線（接地共）		●	●	●
	●空気調和設備	●風量調整（測定共） ○水量調整（測定共）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	●換気設備	●室内外空気の温湿度測定 ○室内気流およびじんあいの測定 ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共） ○停電・復電動作確認																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○排煙設備	○風量調整（測定共） ○騒音の測定（屋内外、敷地境界共）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	○給水設備	○飲料水の水质の測定（測定項目は以下による） ○水質基準に関する省令 ○建築物における衛生的環境の確保に関する法律（以下、「ビル管法」という）施行規則第四条第一項イ ※厚生労働大臣告示119号 第二の一の（4） ○雑用水の水质の測定 ※ビル管法施行規則第四条の二による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	場所	屋外		屋内（調整目標値）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		温度(D B)	湿度(R H)	一般居室	○ ○ 居室	○ ○ 居室	湿度(R H)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	時期	温度(D B)	湿度(R H)	温度(D B)	湿度(R H)	温度(D B)	湿度(R H)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	夏期	35.4℃	55.3%	28℃	50%	℃	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	冬期	-1.0℃	81.4%	19℃	40%	℃	%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
屋内	単独配管	隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	集合配管	隠ぺい部 ※不要 ○要 ○保温化粧ケース（樹脂製） ○合成樹脂製カバー1 ○図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
屋外	単独配管	○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○図示																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	集合配管	○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製●ステンレス鋼板製） ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○図示 ○保温化粧ケース（○樹脂製○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板製○ステンレス鋼板製）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
屋内	※カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム板																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
屋外	○カラ—亜鉛鉄板 ○溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ※ステンレス鋼板 ○アルミニウム板																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
ダクトの長辺	板厚																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
450mm以下	0.6mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
450mmを超え1200mm以下	0.8mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
1200mmを超え1800mm以下	1.0mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
1800mmを超えるもの	1.2mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
空調配管	用途		名称・種類																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	冷水水管・膨張管・エア抜き管・膨張タンクより、																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
ボイラー室への補給水管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
冷却水管	○耐熱性ライニング鋼管	○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
蒸気給気管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
蒸気遠送管	※配管用炭素鋼管(SGP白)	○ステンレス鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
油管（一般配管）	※配管用炭素鋼管(SGP黒)	○耐熱性ライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
"（地中配管）	※ポリエチレン被覆鋼管	○ステンレス鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
空調用給水管	※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)	○ステンレス鋼管(SUS304)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
空調用排水管	※排水用硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○配管用炭素鋼管(SGP白)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
冷媒管	※断熱材被覆鋼管	○鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
パッケージ形空調和機の2次側配線の仕様は製造者の標準仕様とする。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
給水配管	一般配管	※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)	○ポリ粉体ライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	地中配管	○ステンレス鋼管(SUS316)（呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合）	○水道用ポリエチレン層管（呼び径50以下）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		○水道配水用ポリエチレン管(JMVA K144(継手は電気融着式))（呼び径75以上）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
排水配管	屋内雑排水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○排水用塩ビライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	（地中埋設部）	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	屋内汚水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○排水用塩ビライニング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	（地中埋設部）	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	屋外汚水・雑排水管	※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○硬質ポリ塩化ビニル管(VU)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
通気管		※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		○排水用塩ビライニング鋼管	○配管用炭素鋼管(SGP白)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ポンプアップ排水管		【汚水・雑排水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)	○コーティング鋼管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		継手は圧送排水鋼管用可とう接手(JPF MDJ 003)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		【湧水】 ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA)	○配管用炭素鋼管(SGP白)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		継手はフランジまたはハウジング形継手とする。 （ただし汚水・雑排水槽内は塩ビライニング鋼管(SGP-FVD)とする。）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	（地中埋設部）	【屋外】 ○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		配管材においてリサイクル材料が指定された場合、規格サイズがないものについては、リサイクル材料を使用しなくてもよい。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
給湯配管	※鋼管（壁または床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。）	○ステンレス鋼管(SUS304)	○ステンレス鋼管(SUS316)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		（呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
消火配管	一般配管	※配管用炭素鋼管(SGP黒)	○圧力配管用炭素鋼管(STPG白)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	地中配管	【屋内および屋外】 ※消防用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	特殊消火管	※圧力配管用炭素鋼管(STPG370 白 Sch80)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
ガス管	屋内配管	※配管用炭素鋼管(白)	○ポリエチレン被覆鋼管(ピット内)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	屋外配管	※ポリエチレン管	○被覆鋼管(PS)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
設備	工事内容		建築	電気	機械																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
設備基礎等	屋内基礎		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	屋上基礎		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
設備用開口部	架台、アンカーボルト		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	特記した基礎		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
その他	下地補強		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	S・SRC造梁の貫通部	補強	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		スリーブ	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	RC造梁・床・壁の貫通部	補強	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		スリーブ	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	軽量鉄骨下地天井・壁の開口部	型枠	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		補強を要する切込み	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		補強を要しない切込み	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	貫通部・開口部の穴埋め補修		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	貫通部・開口部の差出し		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
その他	床、天井点検口		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	防油堤	オイルサービスタンの防油堤	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	外部取付ガラリ	ダクト、チャンパーの接続用フランジ含む	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
電気配管配線	雨水排水	配管、樹、蓋	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	汚水、雑排水	配管、樹、蓋	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	機器等へ直接接続する配管配線		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	機器と専用操作スイッチの渡り配管配線		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	パッケージ形空調和機の2次側配管配線（接地共）		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
年度別	福井県立大学			KMR 株式会社 木村建築事務所		工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事		図面番号	M-02																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
R8	第一分額	第二分額	第三分額	1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村圭一		設計	一級建築士 第356628号 高澤 徹		図面名称	機械設備 工事特記仕様書2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
令和8年7月	分額	分額	分額			縮尺	N.S																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													



付近見取図

配置図 1/1000

凡例(改修前)  
 仮囲い A型単管バリケードを示す

年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学				株式会社 木村建築事務所 <small>1級建築士事務所 福井県(L)115号          管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一</small>	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号 M-03
	令和 8年 7月	第一分科	第二分科	第三分科		設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	図面名称 配置図・付近見取図

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図

機器表

記号	名称	機器性能	電圧	動力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(Kw)			
R-1	空冷ヒートポンプデラ	冷房能力：26500kcal/h (外気DB 35°C)			2	屋上	型番:CAH-100J
		暖房能力：31500kcal/h (外気DB 7°C)					
		冷温水量：1200L/min					
		出入口温度(冷水7°C-12°C)(温水45°C-40°C)					
		圧縮機	3-200	37×2			
		送風機	3-200	5.5×2			
		OS防振装置共					
P-1	冷温水1次ポンプ	100φ×1200L/min×15m OS防振装置共	3-200	5.5	2	屋上	撤去
P-2	冷温水2次ポンプ	50φ×40φ×400L/min×25m OS防振装置共	3-200	3.7	6	屋上	撤去
T-1	冷温水槽	密閉形 ステンレス製 有効容量：8000L			1	屋上	既設のまま
H-1	サプライヘッダー(1)	寸法：300φ×3500L			1	屋上	既設のまま
H-2	サプライヘッダー(2)	寸法：300φ×3500L			1	屋上	既設のまま
H-3	サプライヘッダー(3)	寸法：300φ×1850L			1	屋上	既設のまま
H-4	レターンヘッダー	寸法：300φ×2300L			1	屋上	既設のまま
AC-4	空調和機	1階交流ホール系統(2) 冷房能力：14200kcal/h 暖房能力：7100kcal/h 冷温水量：48L/min 風量：SA=4200m3/h OA=0m3/h 送風機：サプライ 4200m3/h×30mmH2O (機外静圧) 有効加湿量：0kg/h	3-200	1.5		1階機械室	既設のまま
AC-5	空調和機	1階講堂系統 冷房能力：293500kcal/h 暖房能力：22600kcal/h 冷温水量：979L/min 風量：SA=52000m3/h OA=8000m3/h 送風機：サプライ 52000m3/h×40mmH2O (機外静圧) レターン 52000m3/h×30mmH2O (機外静圧) 有効加湿量：62.4kg/h 高圧水噴霧加湿器	3-200	22.0		2階天井内	既設のまま
AC-6	空調和機	3階講堂系統 冷房能力：62400kcal/h 暖房能力：52500kcal/h 冷温水量：208L/min 風量：SA=8000m3/h OA=3000m3/h 送風機：サプライ 8000m3/h×35mmH2O (機外静圧) レターン 8000m3/h×30mmH2O (機外静圧) 有効加湿量：22.1kg/h 高圧水噴霧加湿器	3-200	3.7		1階機械室	既設のまま
AC-7	空調和機	3階多目的ホール 冷房能力：49500kcal/h 暖房能力：47000kcal/h 冷温水量：165L/min 風量：SA=7600m3/h OA=1800m3/h 送風機：サプライ 7600m3/h×25mmH2O (機外静圧) レターン 7600m3/h×15mmH2O (機外静圧) 有効加湿量：11.9kg/h 高圧水噴霧加湿器	3-200	3.7		3階機械室	既設のまま

記号	名称	機器性能	電圧	動力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(Kw)			
HP-1	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー 床置形 夏期 室外35°C(DB)			3	事務室	撤去
		冷房能力：2180kcal/h 暖房能力：2060kcal/h 室内26°C(DB)					
		圧縮機 冬期 室外 0°C(DB)	3-200	0.75			
		室内送風機(風量：480m3/h) 室内22°C(DB)	3-200	0.01			
		室外送風機	3-200	0.1			
		運転タイマー付					
HP-2	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー 床置形			5	事務室	撤去
		冷房能力：3500kcal/h 暖房能力：3200kcal/h 室外35°C(DB)					
		圧縮機 室内26°C(DB)	3-200	1.1			
		室内送風機(風量：660m3/h) 冬期 室外 0°C(DB)	3-200	0.03			
		室外送風機 室内22°C(DB)	3-200	0.2			
		運転タイマー付					
HP-4	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー カセット形 夏期 室外35°C(DB)			3	準備室	撤去
		冷房能力：3060kcal/h 暖房能力：3300kcal/h 室内26°C(DB)					
		圧縮機 冬期 室外 0°C(DB)	3-200	1.1			
		クランクヒーター 室内22°C(DB)	3-200	0.02			
		室内送風機(風量：480m3/h)	3-200	0.07			
		室外送風機	3-200	0.1			
		運転タイマー付					

ファンコイルユニット (表中( )で示された数値は、カセット形のみ適用)

記号	冷房能力 (kcal/h)		暖房能力	水量	風量	入力値	台数	備考
	顕熱	全熱	(kcal/h)	(L/min)	(m3/h)	(VA)		
FC-2	910	1150	1360	4	280	60	FCL-2×6台 FCHR-2×2台	
FC-3	1380	1750	2040	6	420	65(80)		
FC-4	1820	2300	2720	8	560	70(85)	FCHR-4×5台	FCHR-4×1台 撤去
FC-6	2730	3450	4070	12	840	100(120)	FCL-6×13台 FCHR-6×2台	(場所:旧小会議室)
FC-8	3640	4600	5430	16	1120	140(170)	FCL-8×7台 FCHR-8×11台	FCHR-8×4台 撤去 (場所:旧会議室,旧小会議室)

ファンコイルユニット条件 冷房時26°C 50% 入口水温 7°C 暖房時22°C 55% 入口水温 45°C  
 FCL=床置ローボーイ形  
 FCHR=天井隠ぺい形(ファンチャンパー付)  
 付属品：ファンコイルバルブ、運転表示灯及び操作スイッチ、その他標準付属品

パッケージエアコン

記号	名称	仕様	電圧	消費電力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(kW)			
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	壁掛形	3-200	2.17(冷房)	2	2階	室内機:PKH-RP80KAL10
		冷房能力：7.1kW 暖房能力：8.0kW		2.26(暖房)			旧会議室
		付属品：ワイヤレスリモコン、他標準付属品一式 高置架台(H=500,溶融垂鉛メッキ)					旧小会議室
							冷媒:R410A(3.4kg) ※2組共撤去→引き渡し

換気設備

記号	名称	仕様	電圧	消費電力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(kW)			
HEAR-4	全熱交換換気ユニット (天井埋込形)	風量：440m3/h×6mmAq ダクトサイズ：φ200	1-100	0.158	2	2階	撤去
							旧会議室
							旧小会議室

機器表

記号	名称	機器性能	電圧	動力	台数	設置場所	備考	
			(φ-V)	(Kw)				
R-1	空冷ヒートポンプチラー	冷房能力：26500kcal/h (外気DB 35℃)			1	屋上	既設のまま	
		暖房能力：31500kcal/h (外気DB 7℃)						
		冷温水量：1200L/min						寸法：5480×1995×2350H
		出入口温度(冷水7℃-12℃)(温水45℃-40℃)						重量：4210kg
		圧縮機	3-200	37×2				冷媒：R-22
		送風機	3-200	5.5×2				
		OS防振装置共						
R-2	空冷ヒートポンプチラー	冷房能力：360kW(180kW+180kW)	3-200	52.94×2	1組	屋上	新設	
		暖房能力：360kW(180kW+180kW)			(2台)			※参考寸法(1台あたり)
		冷温水量：1032L/min(516L/min+516L/min)		46.99×2				寸法：3040×1080×2350H
		出入口温度(冷水7℃-12℃)(温水45℃-40℃)		(暖房)				重量：1410kg
		付属品：アクティブフィルター、防雪フード(吹出・吸込共)						冷媒：R-32
		スプリング防振架台、他、標準付属品一式						
P-1	冷温水1次ポンプ	80φ×65φ×1050L/min×15m	3-200	5.5	2	屋上	新設	
		付属品：圧力計、相フランジ、防振架台、他標準付属品一式						
P-2	冷温水2次ポンプ	50φ×40φ×300L/min×25m	3-200	3.7	6	屋上	新設	
		付属品：圧力計、相フランジ、防振架台、他標準付属品一式						
T-1	冷温水槽	密閉形 ステンレス製			1	屋上	既設のまま	
		有効容量：8000L						
H-1	サブライヘッダー(1)	寸法：300φ×3500L			1	屋上	既設のまま	
H-2	サブライヘッダー(2)	寸法：300φ×3500L			1	屋上	既設のまま	
H-3	サブライヘッダー(3)	寸法：300φ×1850L			1	屋上	既設のまま	
H-4	レターンヘッダー	寸法：300φ×2300L			1	屋上	既設のまま	
AC-4	空調和機	1階交流ホール系統(2)			1	1階機械室	既設のまま	
		冷房能力：14200kcal/h 暖房能力：7100kcal/h						
		冷温水量：48L/min						
		風量：SA=4200m3/h OA=0m3/h						
		送風機：サブライ 4200m3/h×30mmH2O (機外静圧)	3-200	1.5				
		有効加湿量：0kg/h						
AC-5	空調和機	1階講堂系統			1	2階天井内	既設のまま	
		冷房能力：293500kcal/h 暖房能力：22600kcal/h						
		冷温水量：979L/min						
		風量：SA=52000m3/h OA=8000m3/h						
		送風機：サブライ 52000m3/h×40mmH2O (機外静圧)	3-200	22.0				
		レターン 52000m3/h×30mmH2O (機外静圧)	3-200	15.0				
有効加湿量：62.4kg/h 高圧水噴霧加湿器								
AC-6	空調和機	3階講堂系統			1	1階機械室	既設のまま	
		冷房能力：62400kcal/h 暖房能力：52500kcal/h						
		冷温水量：208L/min						
		風量：SA=8000m3/h OA=3000m3/h						
		送風機：サブライ 8000m3/h×35mmH2O (機外静圧)	3-200	3.7				
		レターン 8000m3/h×30mmH2O (機外静圧)	3-200	2.2				
有効加湿量：22.1kg/h 高圧水噴霧加湿器								
AC-7	空調和機	3階多目的ホール			1	3階機械室	既設のまま	
		冷房能力：49500kcal/h 暖房能力：47000kcal/h						
		冷温水量：165L/min						
		風量：SA=7600m3/h OA=1800m3/h						
		送風機：サブライ 7600m3/h×25mmH2O (機外静圧)	3-200	3.7				
		レターン 7600m3/h×15mmH2O (機外静圧)	3-200	1.5				
有効加湿量：11.9kg/h 高圧水噴霧加湿器								

記号	名称	機器性能	電圧	動力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(Kw)			
HP-1	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー 床置形	3-200	0.69(冷房)	3	事務室	新設
		冷房能力：2.2kW(1.1~2.5) 暖房能力：2.5kW(0.8~2.8)		0.69(暖房)			
		圧縮機：0.75kW					
		送風機：0.02kW(内)、0.11kW(外)					
		付属品：					
HP-2	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー 床置形	3-200	1.33(冷房)	5	事務室	新設
		冷房能力：3.6kW(1.8~4.0) 暖房能力：4.0kW(1.4~4.3)		1.13(暖房)			
		圧縮機：1.1kW					
		送風機：0.03kW(内)、0.11kW(外)					
		付属品：					
HP-4	空冷ヒートポンプエアコン	ウォールスルー カセット形	3-200	1.31(冷房)	3	準備室	新設
		冷房能力：3.2kW(1.5~4.0) 暖房能力：4.0kW(1.4~4.5)		1.29(暖房)			
		圧縮機：0.9kW					
		送風機：0.20kW(内)、0.20kW(外)					
		付属品：					

※冷房能力及び電気特性は、室内側吸込空気27℃(DB)、室外側吸込空気35℃(DB)の値とする。  
 ※暖房能力及び電気特性は、室内側吸込空気20℃(DB)、室外側吸込空気7℃(DB)の値とする。

ファンコイルユニット (表中( )で示された数値は、カセット形のみ適用)

記号	冷房能力 (kcal/h)		暖房能力	水量	風量	入力値	台数	備考
	顕熱	全熱	(kcal/h)	(L/min)	(m3/h)	(VA)		
FC-2	910	1150	1360	4	280	60	FCHR-2×2台	
FC-3	1380	1750	2040	6	420	65(80)		
FC-4	1820	2300	2720	8	560	70(85)	FCHR-4×4台	
FC-6	2730	3450	4070	12	840	100(120)	FCL-6×4台 FCHR-6×2台	
FC-8	3640	4600	5430	16	1120	140(170)	FCL-8×7台 FCHR-8×7台	

ファンコイルユニット条件 冷房時26℃ 50% 入口水温 7℃ 暖房時22℃ 55% 入口水温 45℃  
 FCL=床置ローボーイ形  
 FCHR=天井隠ぺい形(ファンチャンパー付)  
 付属品：ファンコイルバルブ、運転表示灯及び操作スイッチ、その他標準付属品

パッケージエアコン

記号	名称	仕様	電圧	消費電力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(kW)			
PAC-1	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット形4方向	3-200	2.17(冷房)	3	2階	新設
		冷房能力：10.0kW 暖房能力：11.2kW 低温暖房能力：13.2kW		2.22(暖房)			
		圧縮機：2.1kW		4.40(低暖)			
		送風機：0.12kW(内)、0.06kW×2(外)					
		付属品：標準パネル、ワイヤードリモコン、壁掛ブラケット架台、					
		転倒防止金具、他標準付属品一式					

特記事項

- 1) 冷暖房能力及び電気特性はJIS標準条件による。
- 2) 冷房能力及び暖房能力は表示数値以上とし消費電力は表示数値と同程度とする。
- 3) パッケージエアコンはグリーン購入法調達基準および2015年省エネ基準適合品とする。
- 4) 1次側電源は電気設備工事とし、2次側配線(室外機~室内機間)及びリモコン配線は本工事とする。

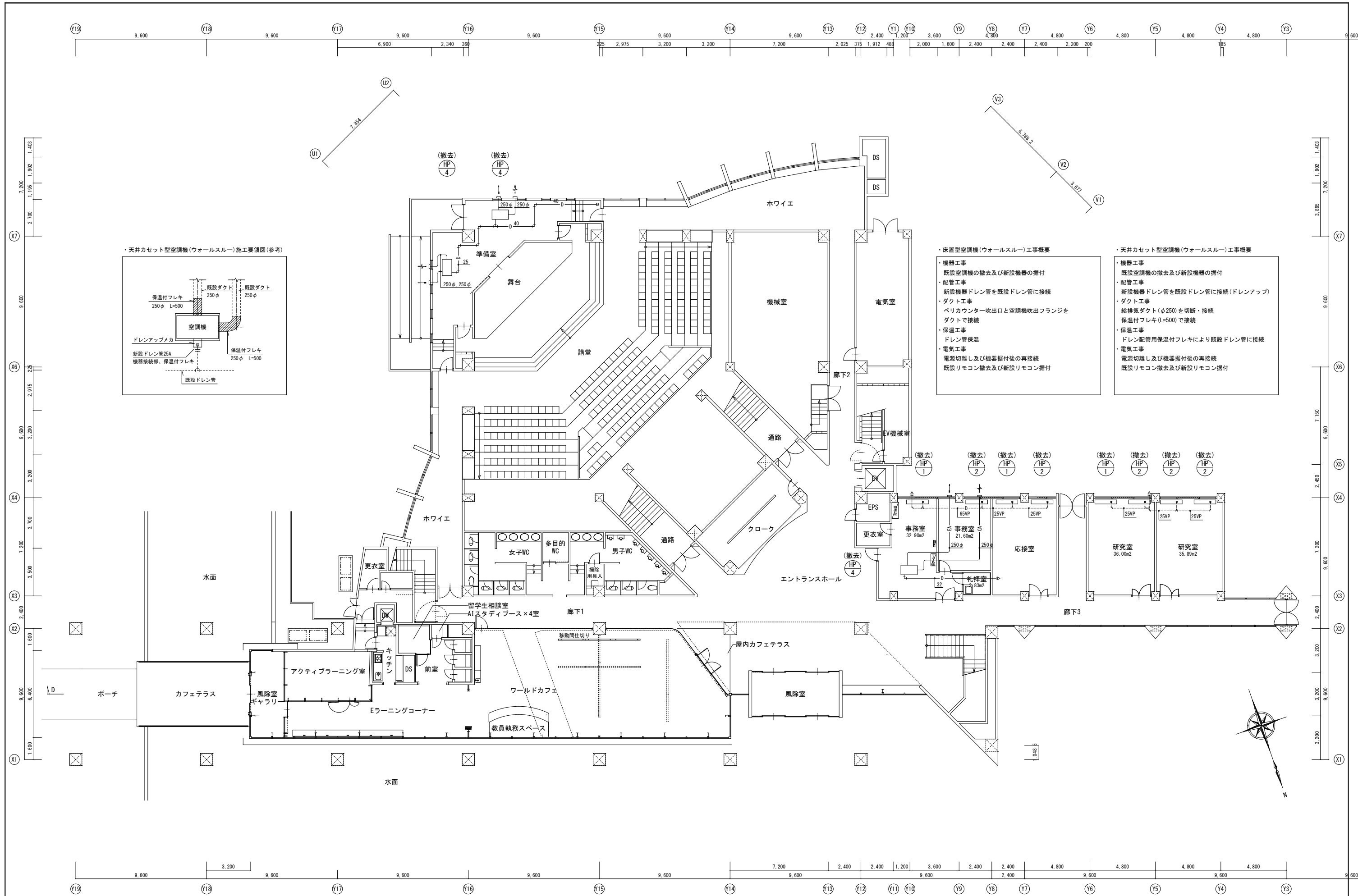
換気設備

記号	名称	仕様	電圧	消費電力	台数	設置場所	備考
			(φ-V)	(kW)			
HEX-1	全熱交換換気ユニット	風量：450m3/h×140Pa ダクトサイズ：φ200	1-100	0.298	3	2階	新設
		(天井埋込形)					
		24時間換気機能付					
		付属品：給排気グリル(消音形)、ワイヤードリモコン、					
		丸形防風板付VC200φ(SUS・防虫網付)、他標準付属品一式					

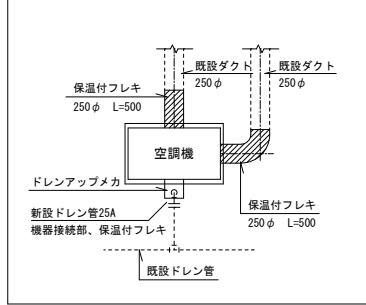
特記事項

- 1) 1次側電源は電気設備工事とし、リモコン配線は本工事とする。

年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号 M-05
令和 8年 7月	設計 第一分科 第二分科 第三分科 審 査	図面名称 空調設備 機器表(改修後)	縮尺
		設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	
		管理建築士 一級建築士 第167899号 木村 重一	



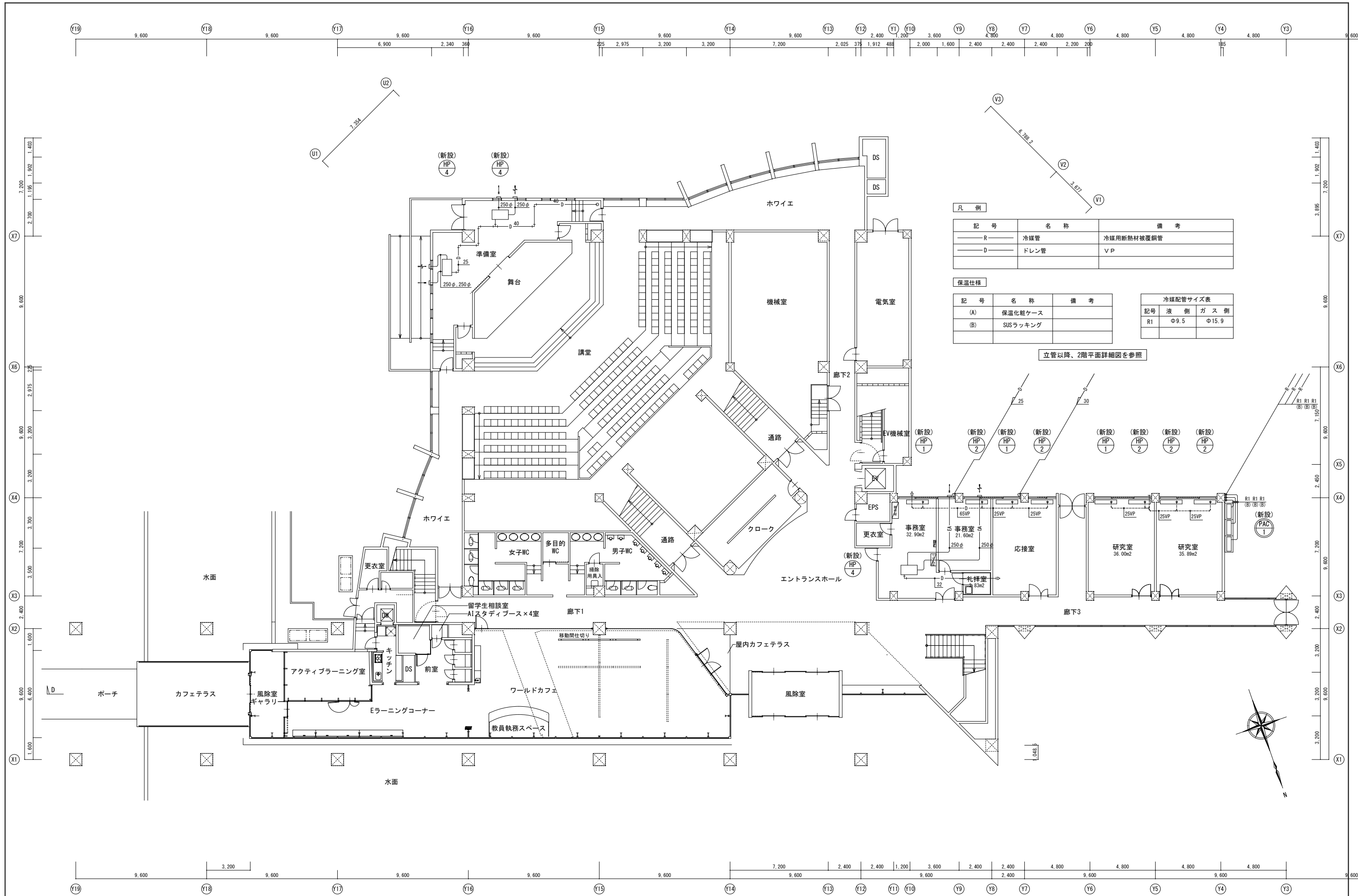
・天井カセット型空調機(ウォールスルー)施工要領図(参考)



- ・床置き型空調機(ウォールスルー)工事概要
- ・機器工事  
既設空調機の撤去及び新設機器の据付
  - ・配管工事  
新設機器ドレン管を既設ドレン管に接続
  - ・ダクト工事  
ペリカウンター吹出口と空調機吹出フランジをダクトで接続
  - ・保温工事  
ドレン管保温
  - ・電気工事  
電源切離し及び機器据付後の再接続
  - 既設リモコン撤去及び新設リモコン据付

- ・天井カセット型空調機(ウォールスルー)工事概要
- ・機器工事  
既設空調機の撤去及び新設機器の据付
  - ・配管工事  
新設機器ドレン管を既設ドレン管に接続(ドレンアップ)
  - ・ダクト工事  
給排気ダクト(φ250)を切断・接続
  - 保温付フレキ(L=500)で接続
  - ・保温工事  
ドレン配管用保温付フレキにより既設ドレン管に接続
  - ・電気工事  
電源切離し及び機器据付後の再接続
  - 既設リモコン撤去及び新設リモコン据付

A1: 原寸  
A3: 50%縮小



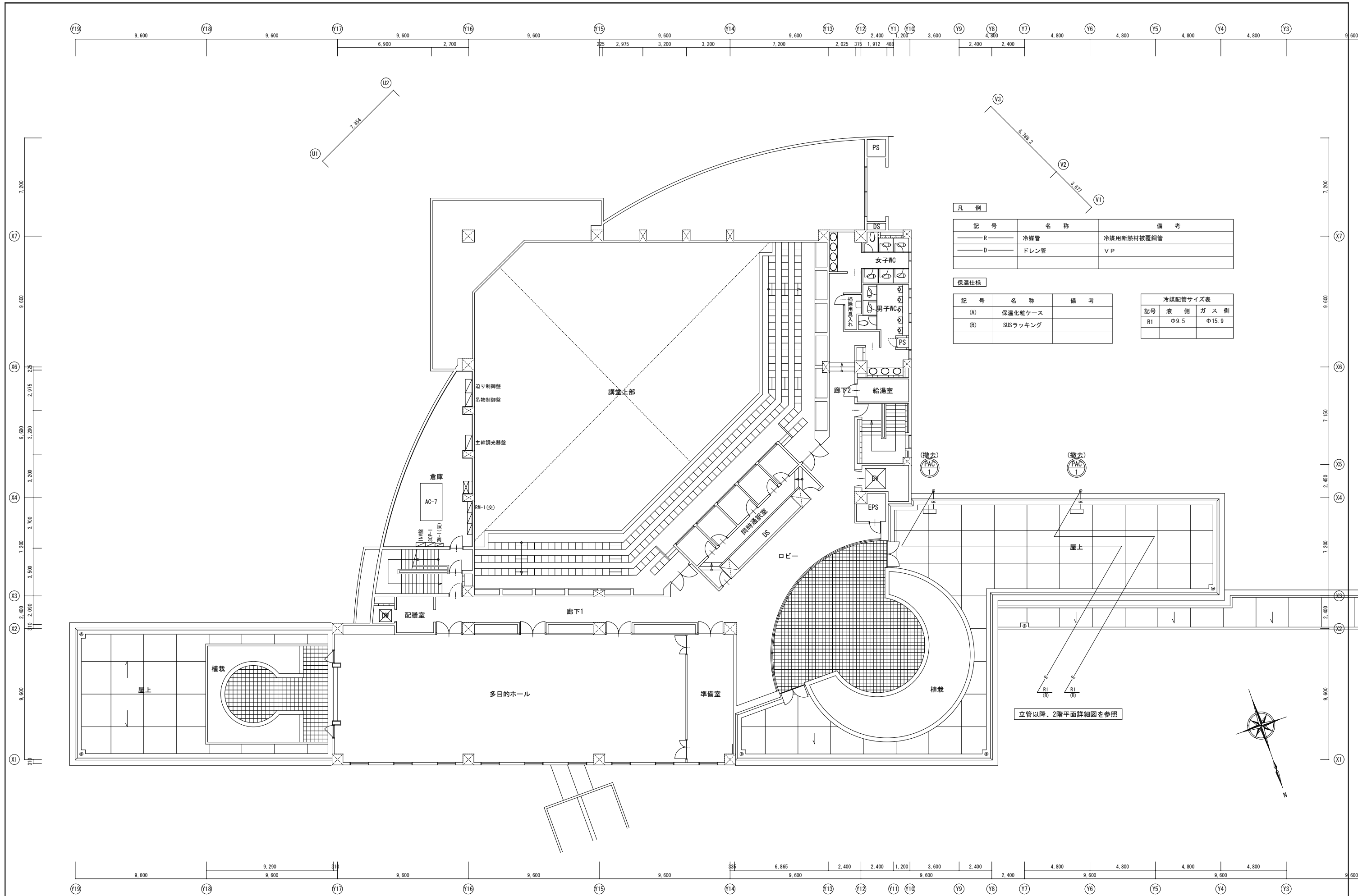
凡例		
記号	名称	備考
R	冷媒管	冷媒用断熱材被覆銅管
D	ドレン管	V P

保温仕様		
記号	名称	備考
(A)	保温化粧ケース	
(B)	SUSラッキング	

冷媒配管サイズ表		
記号	液側	ガス側
R1	φ9.5	φ15.9

立管以降、2階平面詳細図を参照

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



凡例

記号	名称	備考
R	冷媒管	冷媒用断熱材被覆銅管
D	ドレン管	V P

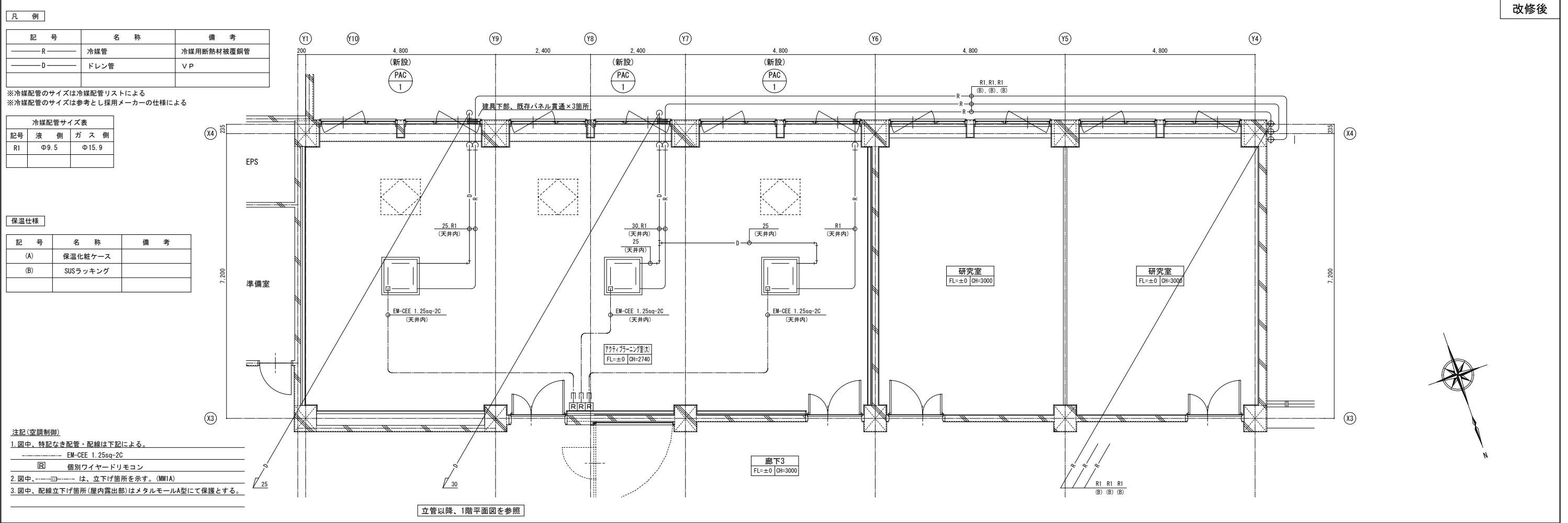
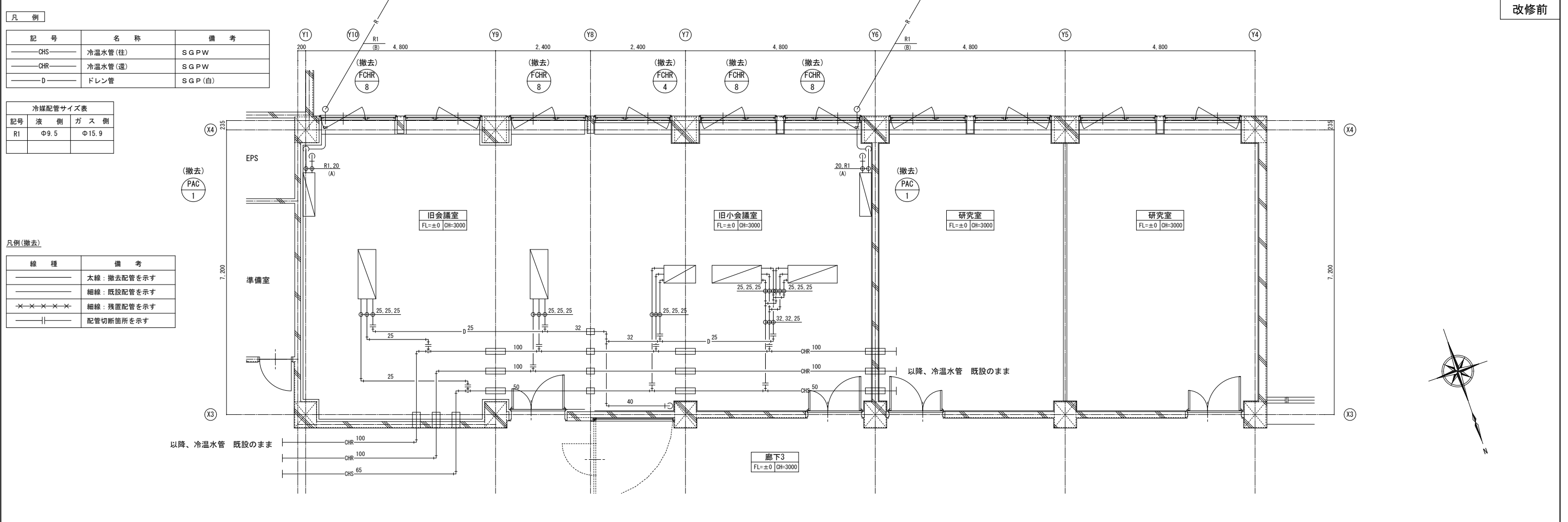
保温仕様

記号	名称	備考
(A)	保温化粧ケース	
(B)	SUSラッキング	

記号	液側	ガス側
R1	Φ9.5	Φ15.9

立管以降、2階平面詳細図を参照

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



凡例	記号	名称	備考
○	OA	外気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	EA	排気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	SA	給気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	RA	還気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
☒	☒	制気口(吹出、吸込)	

(撤去)

記号	名称	数量
OA	VHS350×350 (BOX共)	1
EA	HS350×350 (BOX共)	1
SA	BL 5000L (BOX共)	2
RA	BL 5000L (BOX共)	2

(撤去)

記号	名称	数量
OA	VHS350×350 (BOX共)	1
EA	HS350×350 (BOX共)	1
SA	HS 4800×150 (BOX共)	1
RA	H 4800×150 (BOX共)	1

(撤去)

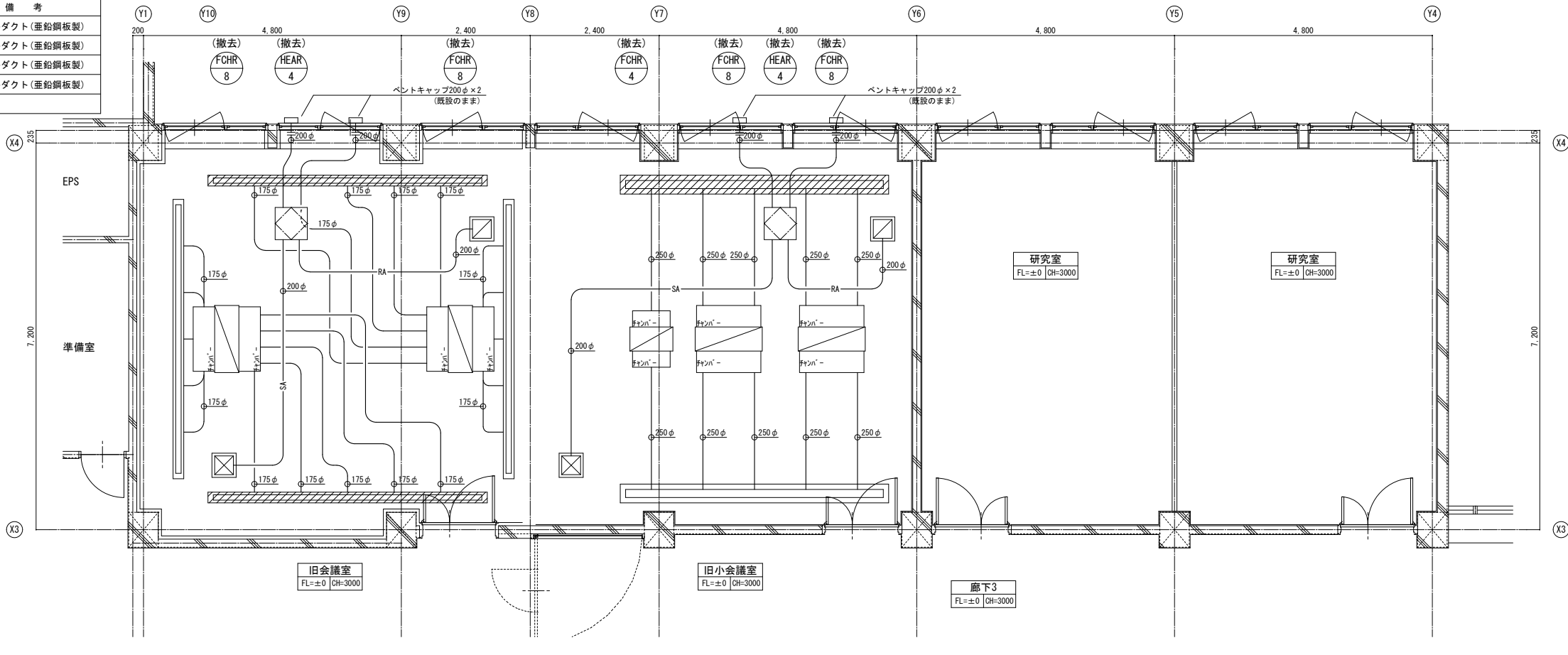
記号	名称	数量
旧会議室 (FCHR-8)		
	チャンパーBOX (吹出) 1200×400×250	1
	チャンパーBOX (吸込) 1200×300×250	1
	× 2組	

(撤去)

記号	名称	数量
旧小会議室 (FCHR-8)		
	チャンパーBOX (吹出) 1200×400×350	1
	チャンパーBOX (吸込) 1200×400×350	1
	× 2組	

(撤去)

記号	名称	数量
旧小会議室 (FCHR-4)		
	チャンパーBOX (吹出) 700×300×350	1
	チャンパーBOX (吸込) 700×300×350	1
	× 1組	



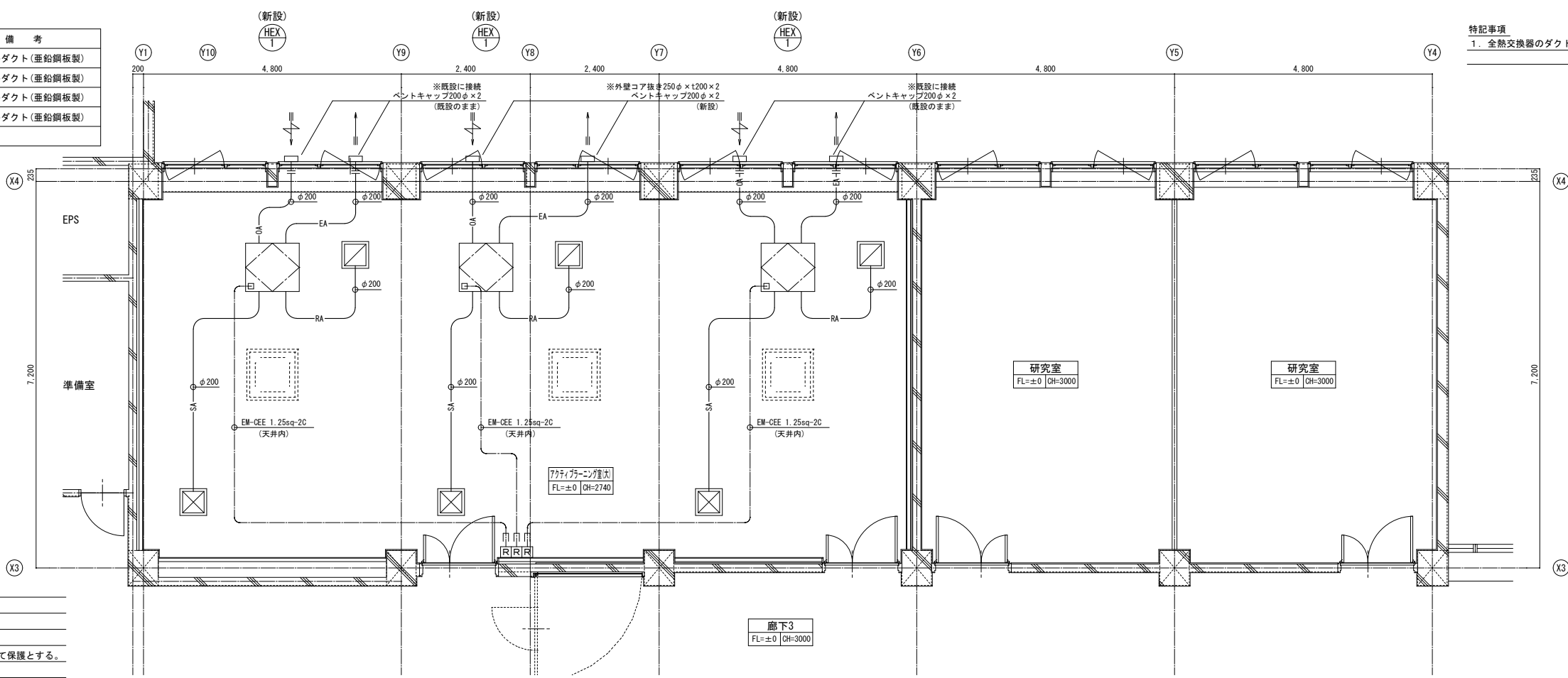
凡例	記号	名称	備考
○	OA	外気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	EA	排気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	SA	給気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
○	RA	還気ダクト	スパイラルダクト(亜鉛鋼板製)
☒	☒	制気口(吹出、吸込)	

(新設)

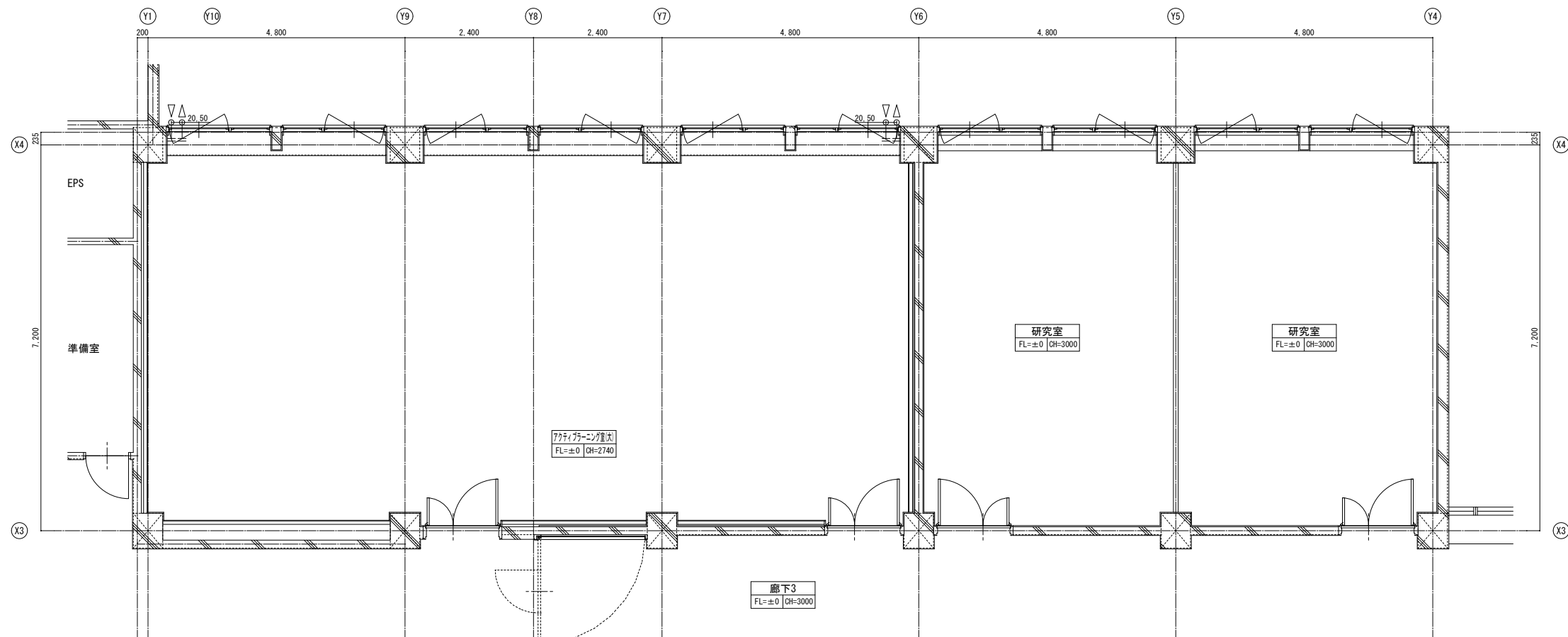
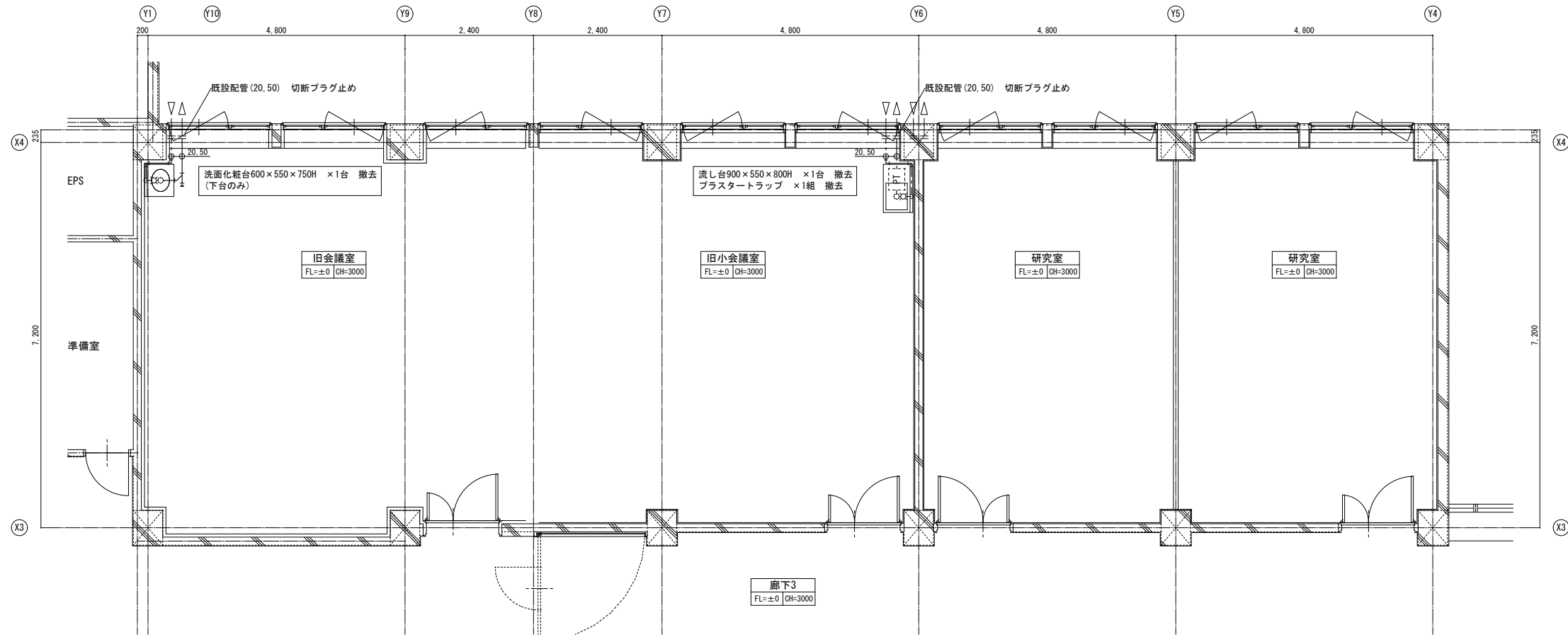
記号	名称	数量
アクティブラーニング室(大)		
SA	500m <sup>3</sup> /h	3
給排気グリル(ボックス共)		
RA	500m <sup>3</sup> /h	3
給排気グリル(ボックス共)		

注記(空調制御)

1. 図中、特記なき配管・配線は下記による。  
 EM-OEE 1.25sq-2C  
 個別ワイヤードリモコン
2. 図中、---は、立下げ箇所を示す。(MMIA)
3. 図中、配線立下げ箇所(屋内露出部)はメタルモールA型にて保護とする。



特記事項  
 1. 全熱交換器のダクトはSA, OA, EAを断熱保温施工 (GW25) とする。



凡例

記号	名称	備考
—CHS—	冷温水管(往)	SGPW
—CHR—	冷温水管(還)	SGPW
—D—	ドレン管	SGP(白)
⊙	温度計	
⊙	圧力計	

凡例(撤去)

線種	備考
—	太線: 撤去配管を示す
—	細線: 既設配管を示す
×××××	細線: 残置配管を示す
	配管切断箇所を示す

冷温水2次ポンプ P-2

吐出側	機種	数量	撤去処分
吐出側	FJ(ゴム)50, CV50, BV50	6	撤去処分
吸込側	FJ(ゴム)50, BV50	6	"

サプライヘッダー(1) H-1

計器	数量	撤去処分
圧力計	1	撤去処分
温度計	1	撤去処分

サプライヘッダー(2) H-2

計器	数量	撤去処分
圧力計	1	撤去処分
温度計	1	撤去処分

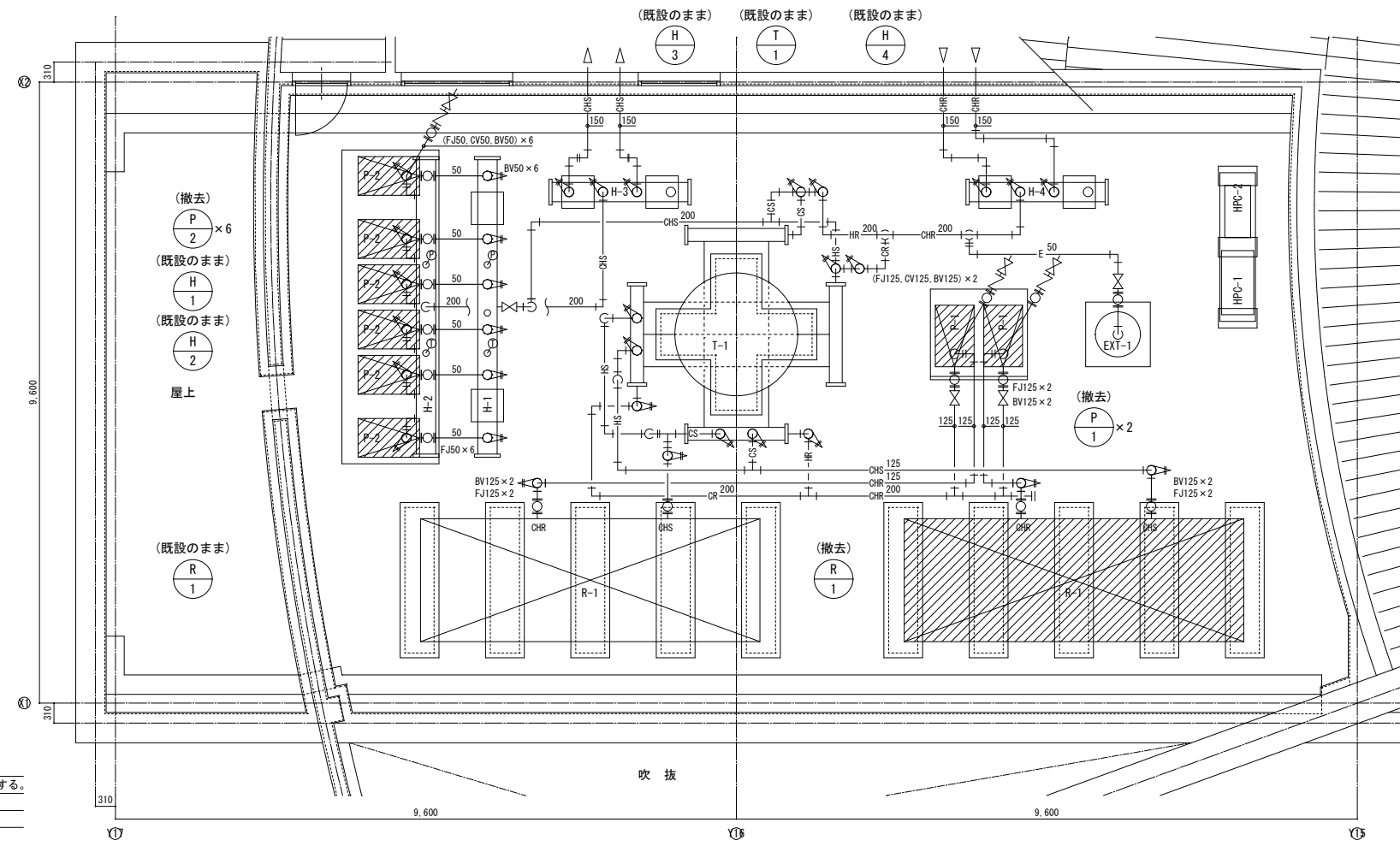
冷温水1次ポンプ P-1

吐出側	機種	数量	撤去処分
吐出側	FJ(ゴム)125, CV125, BV125	2	撤去処分
吸込側	FJ(ゴム)125, BV125	2	"

空冷ヒートポンプチラー R-1

冷温水	機種	数量	撤去処分
冷温水(往)	FJ(ゴム)125, BV125	1	撤去処分
冷温水(還)	FJ(ゴム)125, BV125	1	撤去処分

- (注記)
1. 改修にあたり現況を十分に確認してから施工を行うこと。
  2. 配管切断接続および機器・計器類更新に伴う配管保温撤去部は本工事にて補修を行うものとする。
  3. 図面に記載なくとも軽微なはつり補修は本工事に含む。



凡例

記号	名称	備考
—CHS—	冷温水管(往)	SGPW
—CHR—	冷温水管(還)	SGPW
—D—	ドレン管	SGP(白)
⊙	温度計	
⊙	圧力計	

凡例(改修)

線種	備考
—	太線: 新設配管を示す
—	細線: 既設配管を示す
×××××	細線: 残置配管を示す
	配管接続箇所を示す

冷温水2次ポンプ P-2

吐出側	機種	数量	新設
吐出側	FJ(ゴム)50, CV50, BV50	6	新設
吸込側	FJ(ゴム)50, BV50	6	"

サプライヘッダー(1) H-1

計器	数量	新設
圧力計	1	新設
温度計	1	新設

サプライヘッダー(2) H-2

計器	数量	新設
圧力計	1	新設
温度計	1	新設

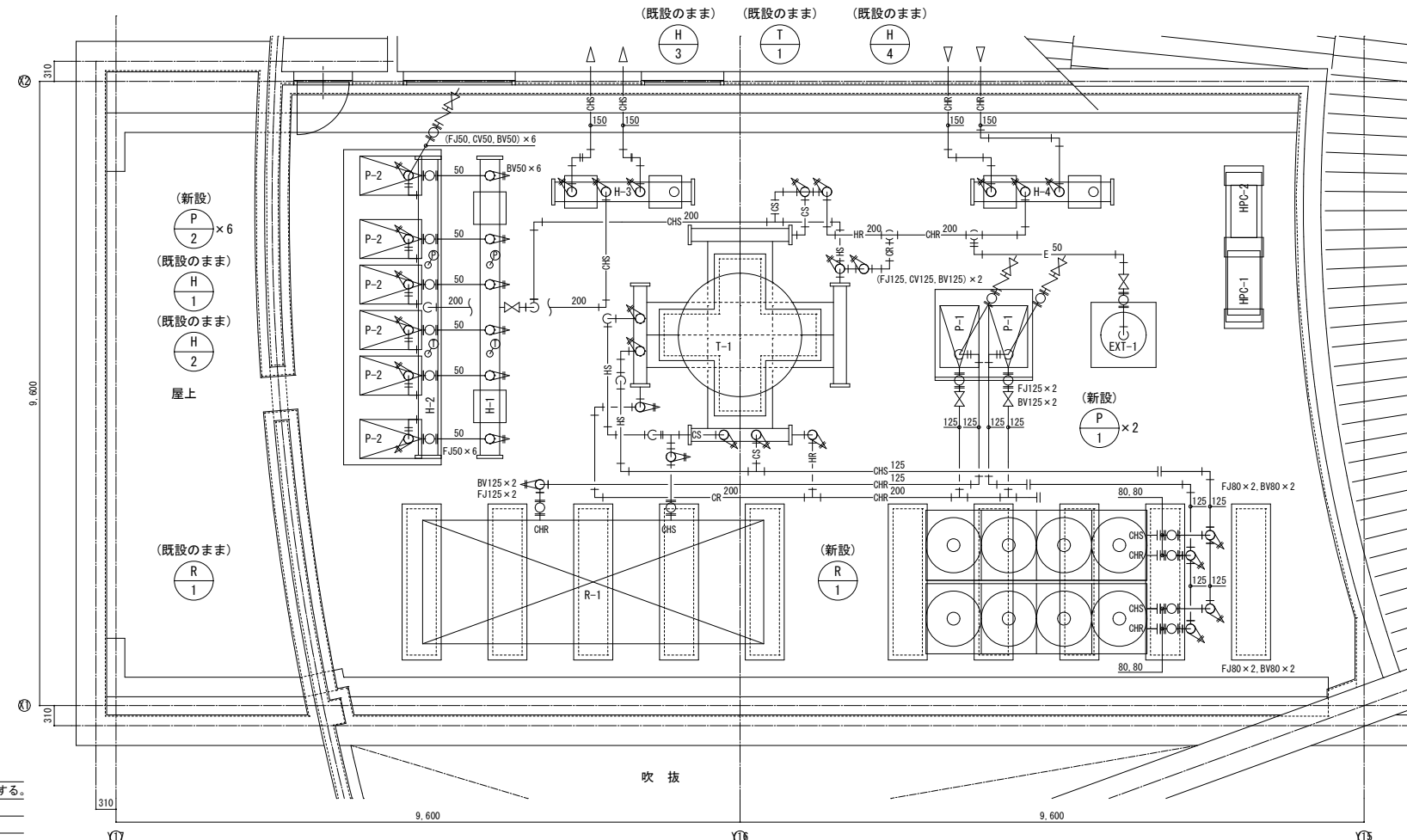
冷温水1次ポンプ P-1

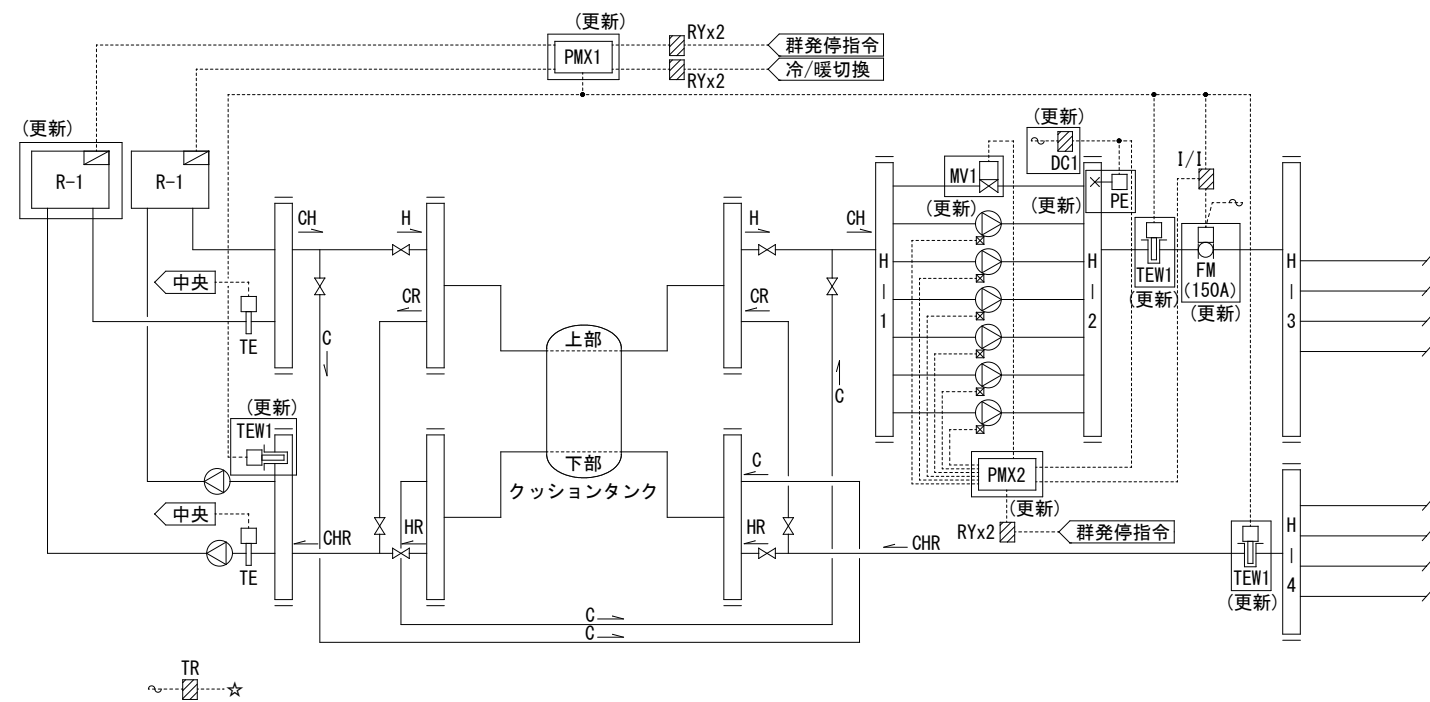
吐出側	機種	数量	新設
吐出側	FJ(ゴム)125, CV125, BV125	2	新設
吸込側	FJ(ゴム)125, BV125	2	"

空冷ヒートポンプチラー R-2

冷温水	機種	数量	新設
冷温水(往)	FJ(ゴム)80, BV80	2	新設
冷温水(還)	FJ(ゴム)80, BV80	2	新設

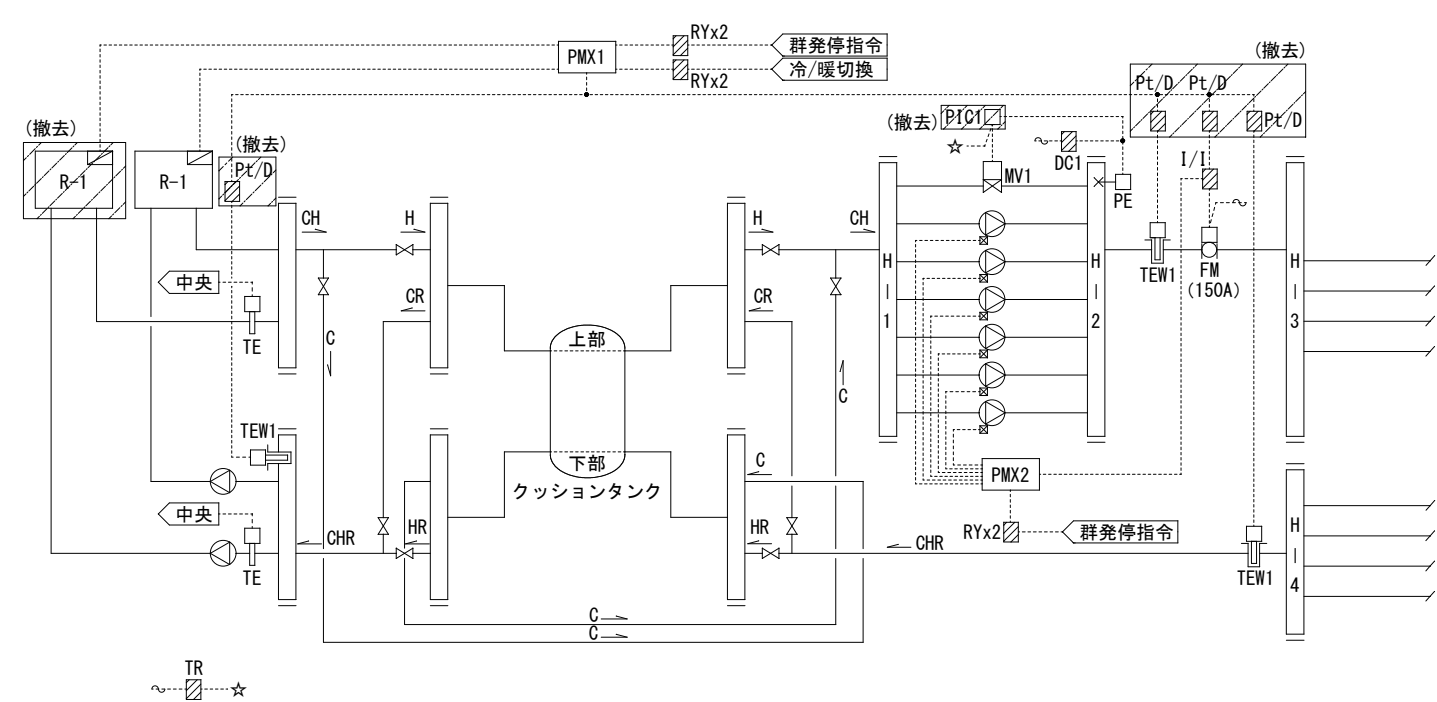
- (注記)
1. 改修にあたり現況を十分に確認してから施工を行うこと。
  2. 配管切断接続および機器・計器類更新に伴う配管保温撤去部は本工事にて補修を行うものとする。
  3. 図面に記載なくとも軽微なはつり補修は本工事に含む。





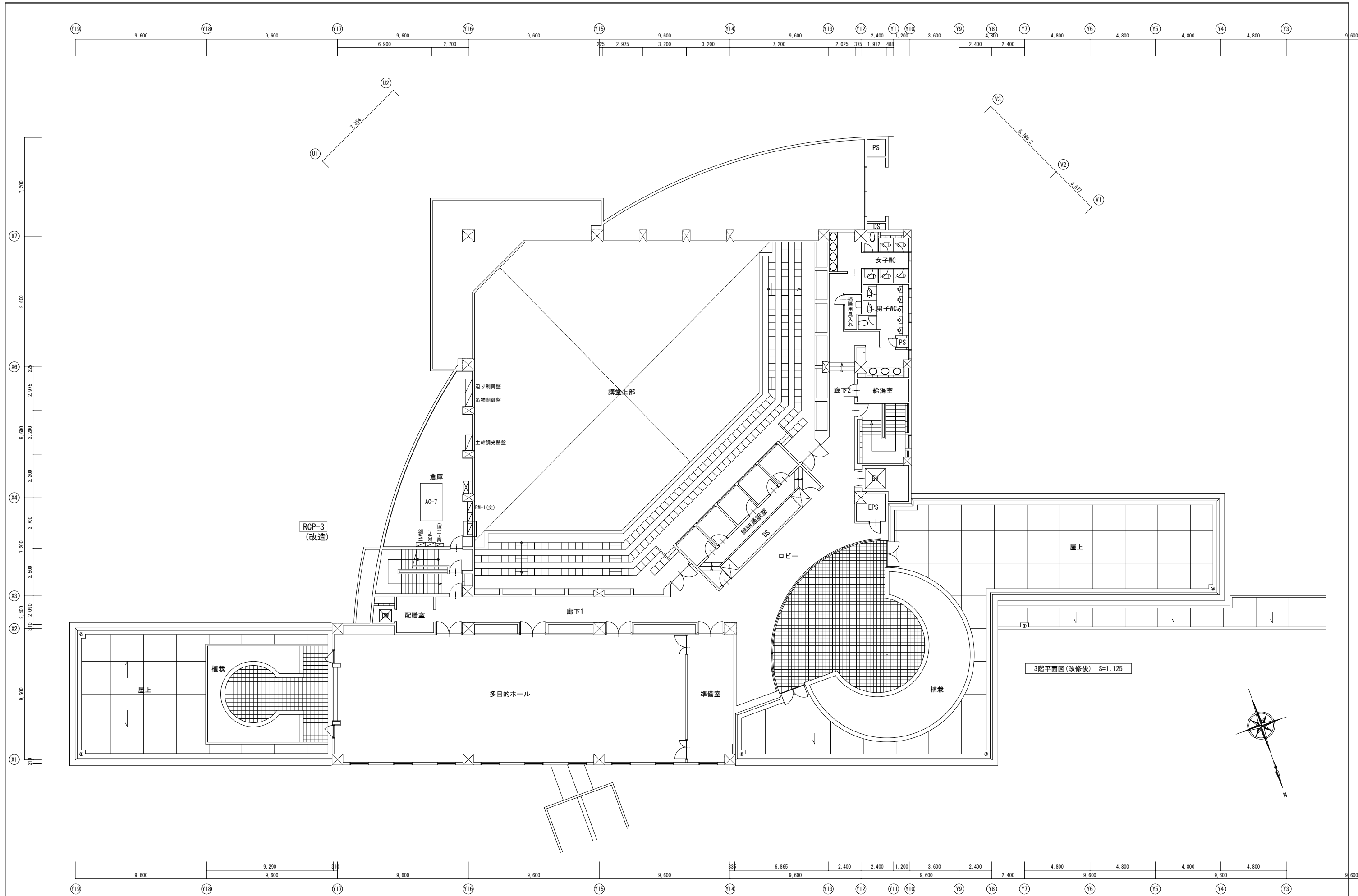
制御項目

1. 往・還水温度差と負荷側流量にて負荷熱量を演算し、その演算値にて、チラー2台を台数制御する。  
また、負荷熱量に見合った台数であっても往水温度にて、強制増段、還水1次ヘッダー内温度にて強制減段を行う。
2. 負荷側流量にて、2次ポンプ6台を台数制御する。
3. 2次ポンプ吐出圧にて、バイパス2方弁と比例制御する。
4. 中継盤から外気温度条件にて、凍結防止の為、2次ポンプを強制起動させる。



制御項目

1. 往・還水温度差と負荷側流量にて負荷熱量を演算し、その演算値にて、チラー2台を台数制御する。  
また、負荷熱量に見合った台数であっても往水温度にて、強制増段、還水1次ヘッダー内温度にて強制減段を行う。
2. 負荷側流量にて、2次ポンプ6台を台数制御する。
3. 2次ポンプ吐出圧にて、バイパス2方弁と比例制御する。
4. 中継盤から外気温度条件にて、凍結防止の為、2次ポンプを強制起動させる。



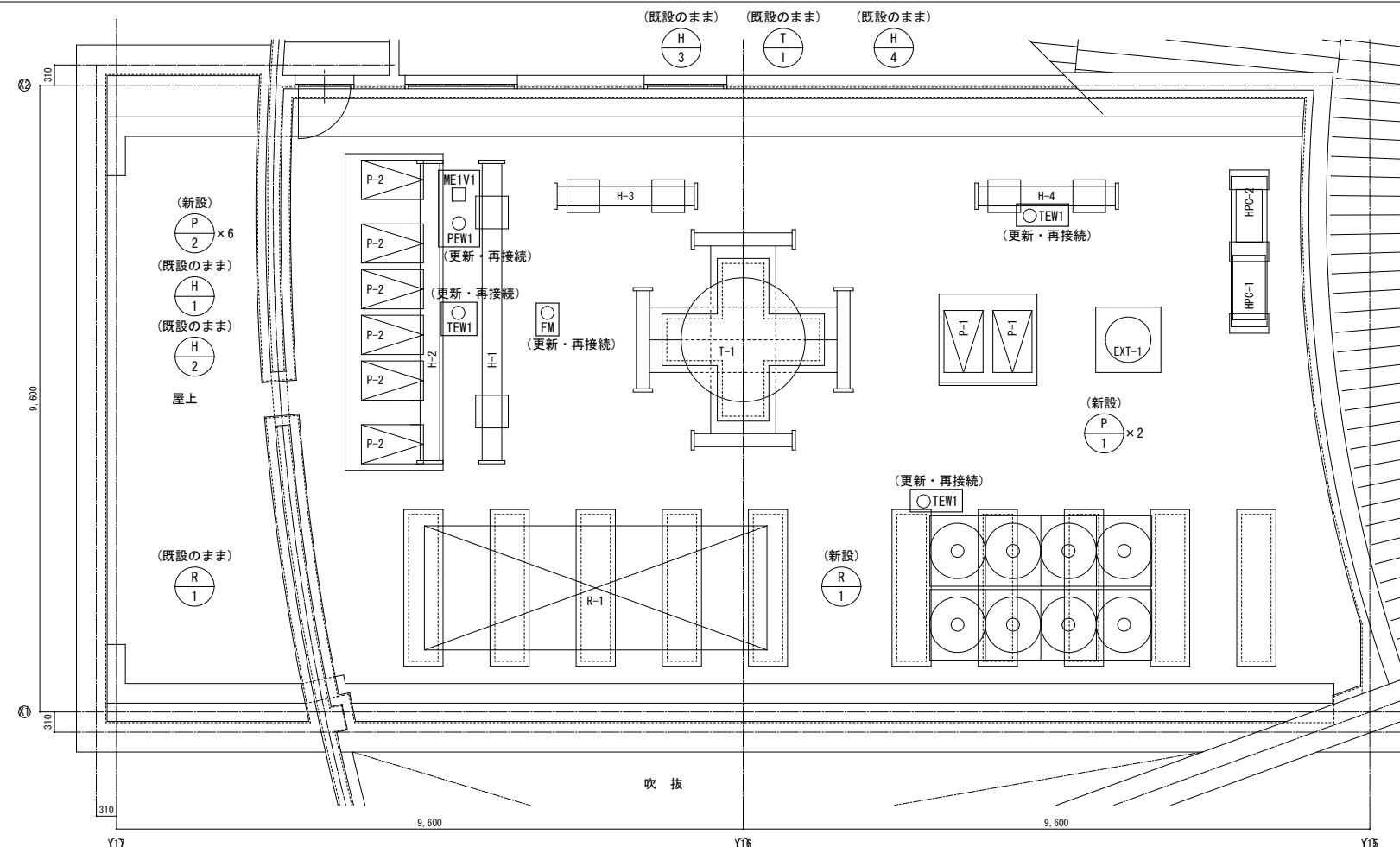
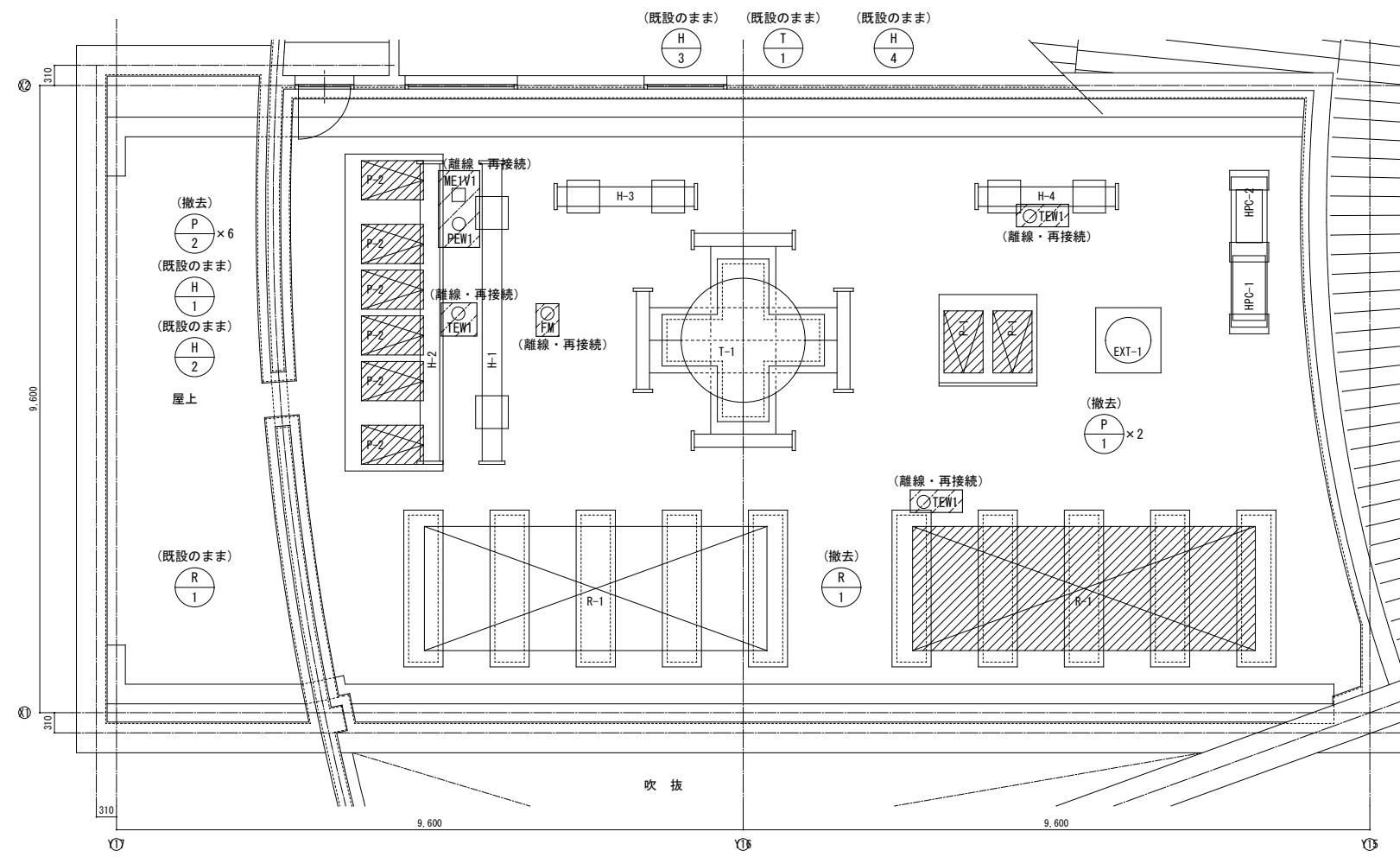
年度別	R8
分類番号	第一分類 第二分類 第三分類 審
令和 8年 7月	審

公立大学法人 福井県立大学 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一
---

KMR 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一
---

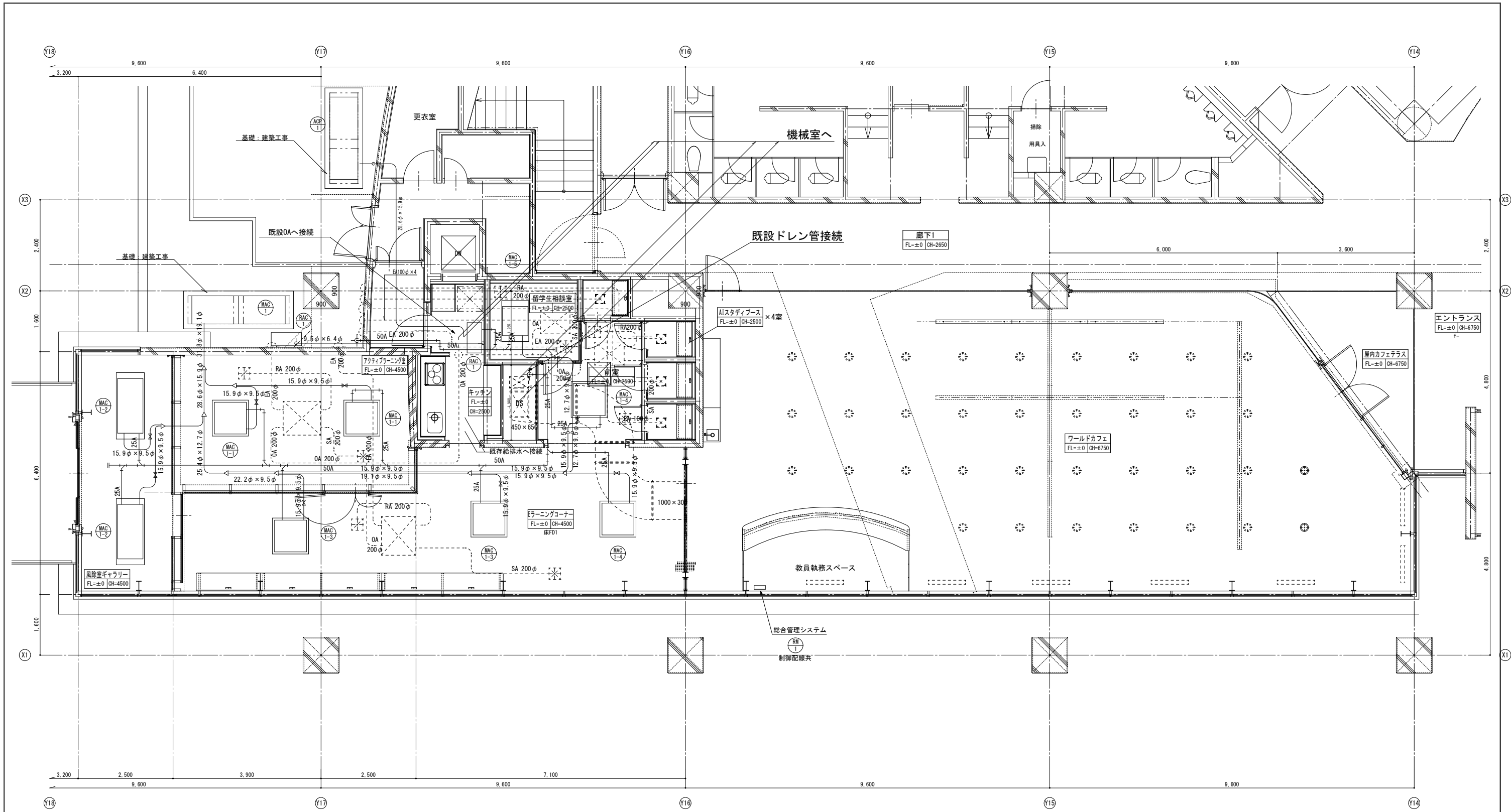
工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事 図面名称 自動制御設備 3階平面図 (改修後)	図面番号 M-14 縮尺 1:125
---	-----------------------------

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



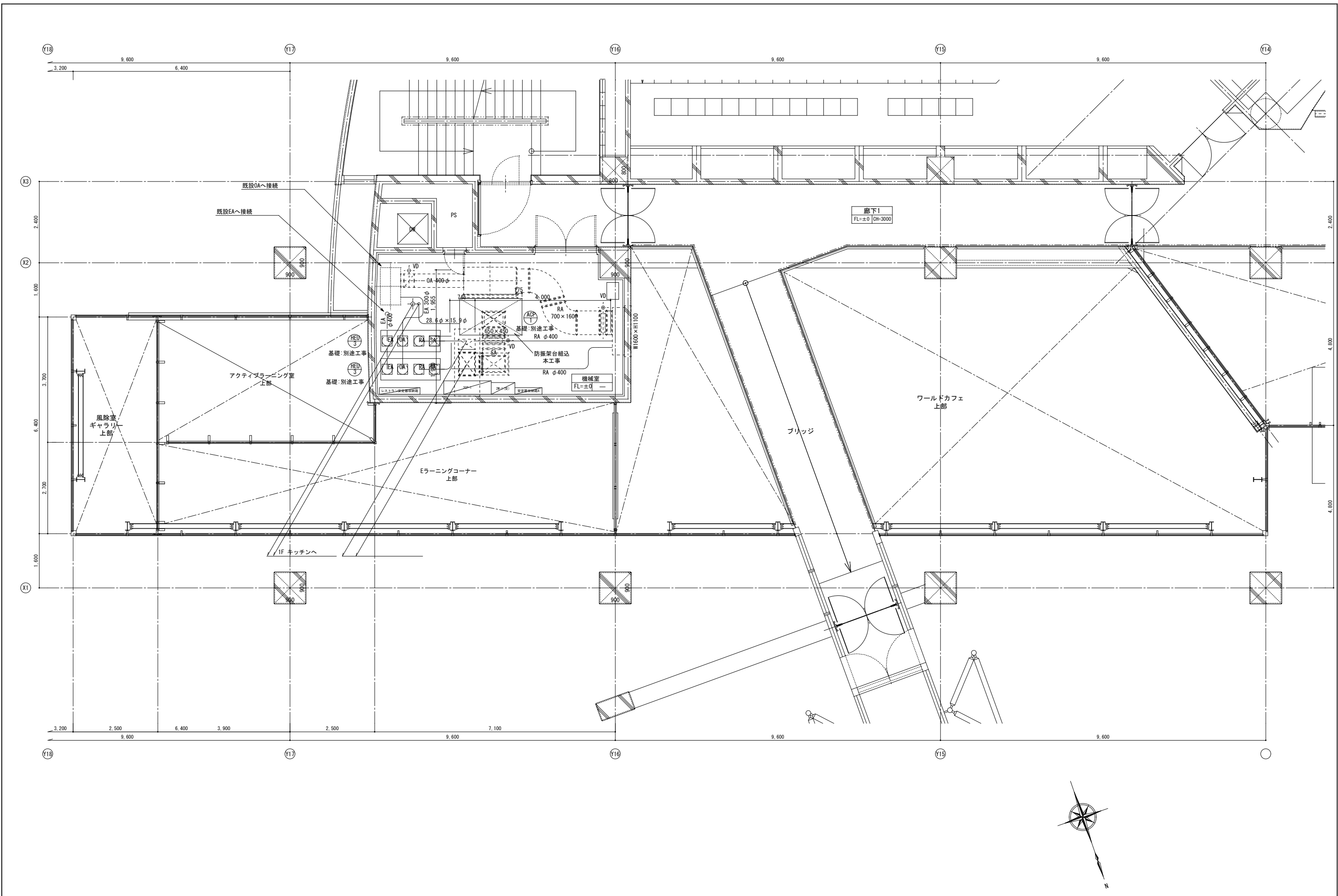
記号	品名	機器仕様	参考消費電力			電動機出力		設計参考型番	1階	2階	合計	備考 (設置場所)
			電源相	冷房 定格 KW	暖房 定格 KW (低温)	圧縮機 送風機 室外 kw	送風機 室内 kw					
		※室外機の基礎は建築工事とする ※記入型番は参考とし、同等品以上を選定すること。										
MAC 1	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室外機	高効率パナソニック仕様 冷房能力：85.0kw 暖房能力：95.0kw 冷媒管：(Φ19.05/Φ31.75)、分岐管キット、制御線工事、高周波対策7ヶ所取付 SUS製フード(吹出・吸込側付)取付、高置架台500H(溶融亜鉛鍍処理)	3Φ 200v	(冷) 24.8 (暖) 25.1 (低温) 23.3		9.48 11.1	0.56 0.77	PUHY-EMP850FM	1		1	屋外
MAC 1-1	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室内機	4方向吹き天井吊り型 冷房：9.0kw 暖房：10.0kw、遮断弁キット 風量：(25-21-17-14)m3/min、化粧パネル、ワイヤードリフト、ドレンアップ機能 冷媒管：(Φ9.52/Φ15.88)、制御線工事 人感センサー付化粧パネル	1Φ 200v	(冷) 0.04 (暖) 0.04				PLFY-MP90HM	2		2	7ヶ所クリーニング室
MAC 1-2	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室内機	2方向吹き天井吊り型 冷房：11.2kw 暖房：12.5kw、遮断弁キット 風量：(24-21-19-16)m3/min、化粧パネル、ワイヤードリフト 冷媒管：(Φ9.52/Φ15.88)、制御線工事	1Φ 200v	(冷) 0.10 (暖) 0.10				PLFY-MP112LM	2		2	風除室キャリー
MAC 1-3	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室内機	4方向吹き天井吊り型 冷房：11.2kw 暖房：12.5kw、遮断弁キット 風量：(34-30-25-20)m3/min、化粧パネル、ワイヤードリフト 冷媒管：(Φ9.52/Φ15.88)、制御線工事 人感センサー付化粧パネル	1Φ 200v	(冷) 0.07 (暖) 0.07				PLFY-MP112HM	2		2	Eラーニングコーナー
MAC 1-4	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室内機	4方向吹き天井吊り型 冷房：7.1kw 暖房：8.0kw、遮断弁キット 風量：(22-19-16-14)m3/min、化粧パネル、ワイヤードリフト 冷媒管：(Φ9.52/Φ15.88)、制御線工事 人感センサー付化粧パネル	1Φ 200v	(冷) 0.03 (暖) 0.03				PLFY-MP71HM	2		2	Eラーニングコーナー
MAC 1-5	空冷ヒートポンプ式 ビル用マルチエアコン 室内機	2方向吹き天井吊り型 冷房：2.8kw 暖房：3.2kw、遮断弁キット 風量：(9.1-7.9-7.4-6.5)m3/min、化粧パネル、ワイヤードリフト 冷媒管：(Φ6.35/Φ12.7)、制御線工事	1Φ 200v	(冷) 0.05 (暖) 0.05				PLFY-MP28LM	1		1	留学生相談室
ACP 1	空冷ヒートポンプ式 設備用パッケージエアコン	床置型外置室内機 冷房能力：63.0kw 暖房能力：63.0kw 風量：210m3/min 冷媒管：(Φ15.88/Φ28.58)、制御線工事、高周波対策7ヶ所取付、温度センサー、ダクトフランジ、(SA/RA)ファン-共 SUS製フード(吹出・吸込側付)取付、高置架台500H(溶融亜鉛鍍処理)、防振架台組込(室内機)	3Φ 200v	(冷) 19.6 (暖) 16.9		14.7 7.5		PFHV-P670DMJ3		1	1	機械室
RAC 1	ルームエアコン	壁掛型 冷房：2.2kw 暖房：2.5kw 冷媒管：(Φ6.35/Φ9.52)、室内外連絡線冷媒管共巻、集中リフト用接続7ヶ所組込 SUS製フード(吹出・吸込側付)取付、高置架台500H(溶融亜鉛鍍処理)	1φ 100v	(冷) 0.46 (暖) 0.46 (低温) 1.40		0.6 0.03		MSZ-ZXV2226-W	1		1	キッチン
RM 1	空調冷熱総合管理システム	高精度・高解像度12.1インチ液晶タッチパネル 最大50台の室内ユニット管理 空調機使用電力量や運転時間の管理						AE-CZJ	1		1	教員執務スペース

記号	名称	機器仕様	定格標準消費電力 (参考)			設計参考型番	1階	2階	合計	備考
HEU 3	熱交換型換気扇	設備用床置型 専用リフト、制御線工事 スリリング式防振架台	Φ250×800 m3/h - 100Pa	3Φ	200V	1,270 w		2	2	機械室



年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学			株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事		図面番号	M-17
	令和8年7月	第一分画	第二分画		第三分画	設計	第一級建築士 第356628号 高澤 徹	図面名称	

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学				株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(イ)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号	M-18	
	令和 8年 7月	第一分科	第二分科	第三分科		審	設計	一級建築士 第356628号 高澤 徹	図面名称	機械設備 2階平面図詳細図(東側)(改修後)【その2】

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



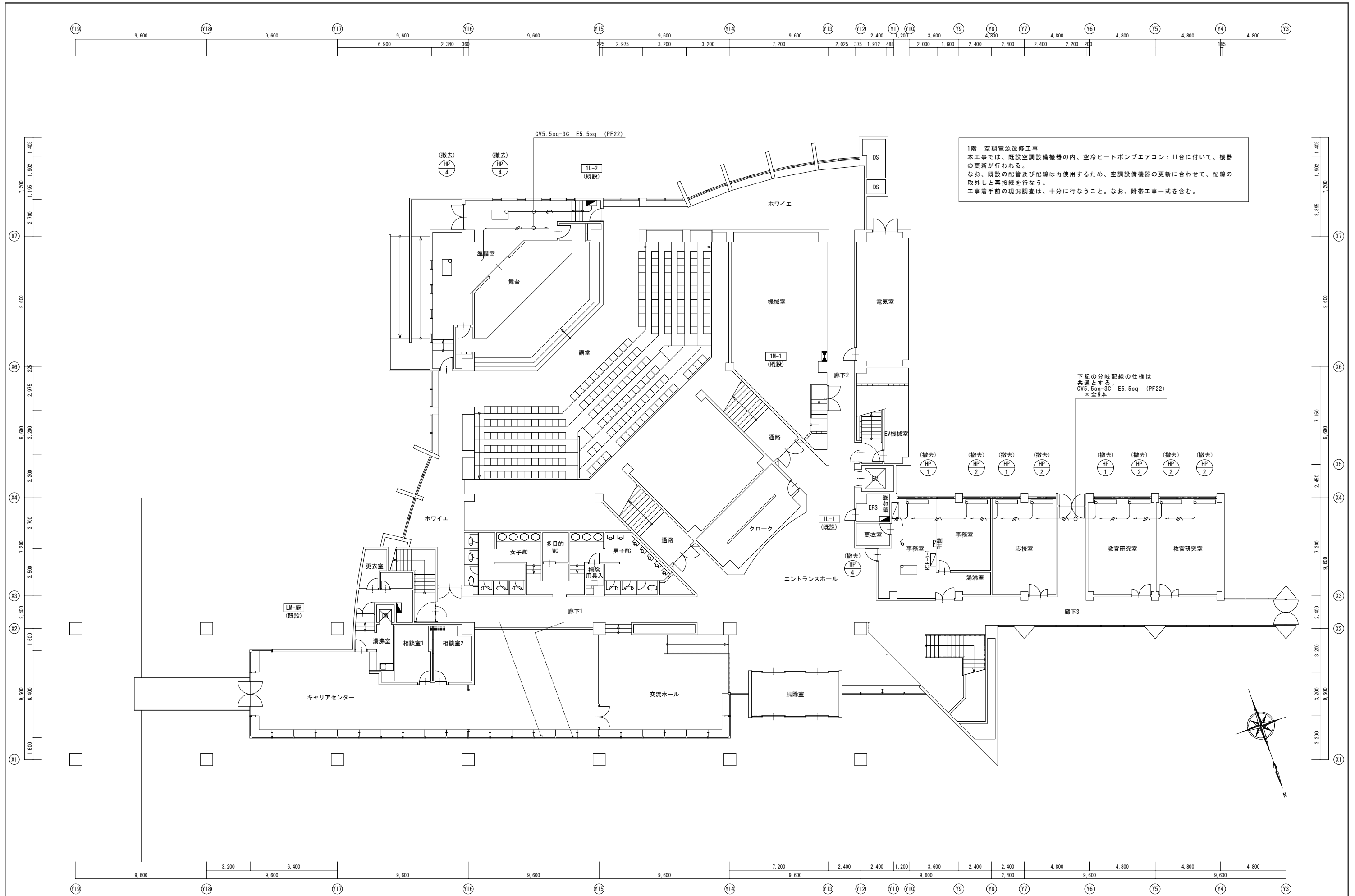
共通 適用 事項	●電線管 (埋込配管・露出配管)	(1) 電線管表示(19)(25)～(75)で特記なき場合は、ねじなし電線管とする。 (2) 梁の中に配管する場合は、主筋に近接して沿わせない。また、梁面より100mm以上の間隔をあけてふ設する。 (3) 最上階天井スラブ(塵上スラブ)には、原則として埋込配管を行わない。 (4) コンクリート埋込配管は、(PF22)以下、(E25)以下とし、スラブ厚の1/4を超える外径の配管は埋込まない。 (5) P F 管を使用する場合は、管相互との離隔および平行する配筋との離隔は30mm以上とする。 (6) 分電盤、端子盤の2次側配線で配線が10本以上集束する場合は、第1ボックスまで鋼製電線管で施工する。 (7) 屋内の露出配管は以下による。 ※ねじなし電線管 ○図示	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	●屋外露出配管	屋外の露出配管は以下による。(図面特記のあるものを除く) ※厚鋼電線管(溶融亜鉛めっき 亜鉛付着量300g/m <sup>2</sup> 以上) ●二種金属製可とう電線管	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	●電線本数・管路等	(1) 電線の収容本数は内線規程による。 (2) 分電盤2次側以降の配線、制御盤、端子盤等の制御用配線および各通信機器間の配線(幹線部分を除く)において、配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は設備機器の機能を充分満足するよう施工する。 (3) 1区間の配線の恒長が30m以上の場合、施工上必要な場合には、ジャンクションボックスを設ける。 (4) 増設用予備配管の管端は外壁面から100mm程度内側に止め、キャップ等を使用して雨水の進入を防止する。 (5) 機械室等の床配管は図面上P F 管等で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。 (6) 分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	●位置ボックス等	(1) 天井隔べいの位置ボックスは、ケーブル配線で端となる所には設けなくてよい。 (2) 結露するおそれのある外壁に埋込む場合は、結露防止断熱カバーを取付ける。 (3) 盤類取付ポルトは必要以上に壁内に入さないようにする。また、耐震壁および外壁には盤を埋込まない。 (4) 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。 (耐火間仕切部(軽量鉄骨下地)は図示による)	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○予備配管	(1) 分電盤の予備の配線用遮断器が4個以下の場合(25)を1本、5個以上の場合(25)を2本天井内まで立上げる。 (2) 端子盤の立上げ予備配管は、50Pを超えるものについては、50P毎に(25)を1本天井内まで立上げる。 (3) ケーブルラックの防火区画貫通部に、(51)を1本以上設ける。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○フラッシュプレート	※金属製(ステンレス、新金属も含む) ○樹脂製	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○床用配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。(図面特記のあるものを除く) 二重床 ※インナー形 ○飛び出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 二重床以外 ※飛び出し形 ○引出し形 ○内部固定形 ○外部固定形 (フロアベースは水平高低調整式(空転防止付リング付) ※砲金製 ○アルミ製 とする)	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○機器取付高さ	図面に特記なき場合は、表-1「機器標準取付高さ」による。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○図示寸法	盤その他機器類について図示した寸法は参考値とする。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○地中埋設管	(1) 埋設深度は、次のとおりとする。 ※地表面(舗装がある場合は、舗装下面(路盤))から 300mm 以上 ○引込管・高圧線路・車両道路等 地表面から 600mm 以上 (2) 管径は200mm以下とする。 (3) 配管下端(管底-100mm)および配管上端(管頂+100mm)に砂地業(山砂類または再生材)を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。 (4) 埋設表示 標識シート(中間) ※高圧 ※低圧 ※データ回線等 埋設標 ※高圧 ○低圧 ○データ回線等	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-1「機器標準取付高さ」
	○接地工事	接地埋設標は文字刻印式とする。 分電盤等の接地線は屋外にて埋設し、接地埋設表示を行う。 接地極の材料は、図面に特記なき場合は、表-2「接地極一覧表」による。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-2「接地極一覧表」
	○鋼材および防錆処理	(1) 配管等の支持金物・鋼製架台・機器付属金物 ○一般部 ※SS400 ○屋外部 ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZT49 ○HDZT70 ○HDZT77) ○ステンレス鋼製(SUS 304) 屋外部のボルト、ナット材質は上記に準ずる。 (2) 屋外の盤類・開閉器箱・地絡方向継電装置箱・プルボックスまたは鋼板製プレート ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZT49 ○HDZT70 ○HDZT77) ○ステンレス鋼製(SUS 304) (3) 屋内部分で湿気、水気のある部分の鋼板製面または鋼板製プレート ※SS400(溶融亜鉛めっき(JIS H 8641) ※HDZT49 ○HDZT70 ○HDZT77) ○ステンレス鋼製(SUS 304)	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-3「工事区分表」
	○塗装工事	図面に特記がない場合、機器および盤類は製造者の標準仕様とする。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-3「工事区分表」
	○他工事との取り合い	表-3「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-3「工事区分表」
	●総合調整	関連工事と連携し総合調整を行う。停電・復電時の動作確認を行う。	○工事範囲 ○照明制御装置	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	表-3「工事区分表」

名称	測点	取付高(mm)	名称	測点	取付高(mm)
電引用計器	地上～窓中心	1,800～2,000	壁掛形時計	床上～中心	1,500
引込開閉器	地上～中心	1,800～2,000	子時計	天井高×0.9	(上端1,900以下)
分電盤	床上～中心	1,500	壁掛形スピーカ	天井高×0.9	(上端1,900以下)
スイッチ	〃	1,300	壁付アッテネータ	〃	1,300
人感センサ操作スイッチ	〃	1,800～2,000	表示盤	〃	天井高×0.9
コンセント(一般)	〃	300	壁付発信機	〃	1,300
〃(和室)	〃	300	ベル・ブザー・チャイム	〃	2,300
〃(台上)	台上～中心	150～200	壁付押しボタン(一般)	〃	1,300
〃(土間)	床上～中心	800～1,300			
〃(車椅子用)	〃	900	外部受用インターホン(子機)	標準図による	
ブラケット(一般)	〃	2,100～2,300	壁付インターホン(上記以外)	床上～中心	1,300
〃(踊場)	〃	2,000～2,500	壁付アウトレット(一般)	〃	300
〃(鏡上)	鏡上端～下端	50	〃(和室)	〃	150
			壁付押しボタン(多目的トイレ)	〃	900
壁掛形制御盤	床上～中心	1,500	機器収容箱	天井下～上端	200
力開閉器	〃	1,500	テレビ端子(一般)	床上～中心	300
操作スイッチ	〃	1,300	〃(和室)	〃	150
端子盤(室内)	床上～下端	300	受信機・副受信機	床上～中心	800～1,500
集合保安装置	天井下～上端	200	発信機	〃	800～1,500
壁付アウトレット(一般)	床上～中心	300	ベル	〃	2,300
〃(踊場)	〃	150	表示灯	〃	2,100
			液化石油ガス用検知機	床上～上端	300

注、天井高3,000mm以上の場合および機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。

接地の種類	記号	接地抵抗	接地極の規格・数量
○共同接地	E <sub>A,B,C,D</sub>	Ω以下	E P - 0.9 x
○共同接地	E <sub>A,C,D</sub>	Ω以下	E P - 0.9 x
○A種接地	E <sub>A</sub>	10 Ω以下	E P - 0.9 x
○B種接地	E <sub>B</sub>	Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 1 組
○C種接地	E <sub>C</sub>	10 Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 1 組
○D種接地	E <sub>D</sub>	100 Ω以下	E B (D=10, L=1000またはW=30, L= 900) × 1
○D種接地	E <sub>D</sub>	Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 1 組
○高圧避雷器	E <sub>LH</sub>	10 Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 2 組
○低圧避雷器	E <sub>LL</sub>	10 Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 2 組
○常備保護設備	E <sub>LA</sub>	10 Ω以下	○E P - 0.6 × 2 ○E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 2 連- 2 組
○交換機用	E <sub>L</sub>	Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 1 組
○通信用	E <sub>AL</sub>	10 Ω以下	E B (D=14, L=1500またはW=40, L=1200) × 3 連- 2 組
○通信用	E <sub>DL</sub> およびE <sub>DL</sub>	100 Ω以下	E B (D=10, L=1000またはW=30, L= 900) × 1
○測定用	E <sub>O</sub>		E B (D=10, L=1000またはW=30, L=1200) × 1

設備機器基礎	工事内容	建築	電気	機械	
設備用開口部	屋内基礎	●	●	●	
	屋上基礎	●	●	●	
	屋外基礎	●	●	●	
	架台・アンカーボルト	●	●	●	
	特記した基礎	●	●	●	
	下地補修	●	●	●	
	S・S R C造梁の貫通部	補強	●	●	●
	R C造梁・床・壁の貫通部	スリーブ	●	●	●
	軽量鉄骨下地天井・壁の開口部	補強	●	●	●
		型枠	●	●	●
その他	貫通部・開口部の穴埋め補修	●	●	●	
	貫通部・開口部の差出し	●	●	●	
	床、天井点検口	●	●	●	
	防油堤	オイルサービスタンクの防油堤	●	●	●
	外部取付ガラリ	ダクト、チャンバーの接続用フランジ含む	●	●	●
	雨水排水	配管、樹、蓋	●	●	●
	汚水、雑排水	配管、樹、蓋	●	●	●
	別途機器等へ直接接続する配管配線		●	●	●
	別途機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)		●	●	●
	別途機器付属の制御盤への電源供給配管配線		●	●	●
別途機器と専用操作スイッチの選り配管配線		●	●	●	
パッケージ型空調機との2次側配管配線(接地共)		●	●	●	

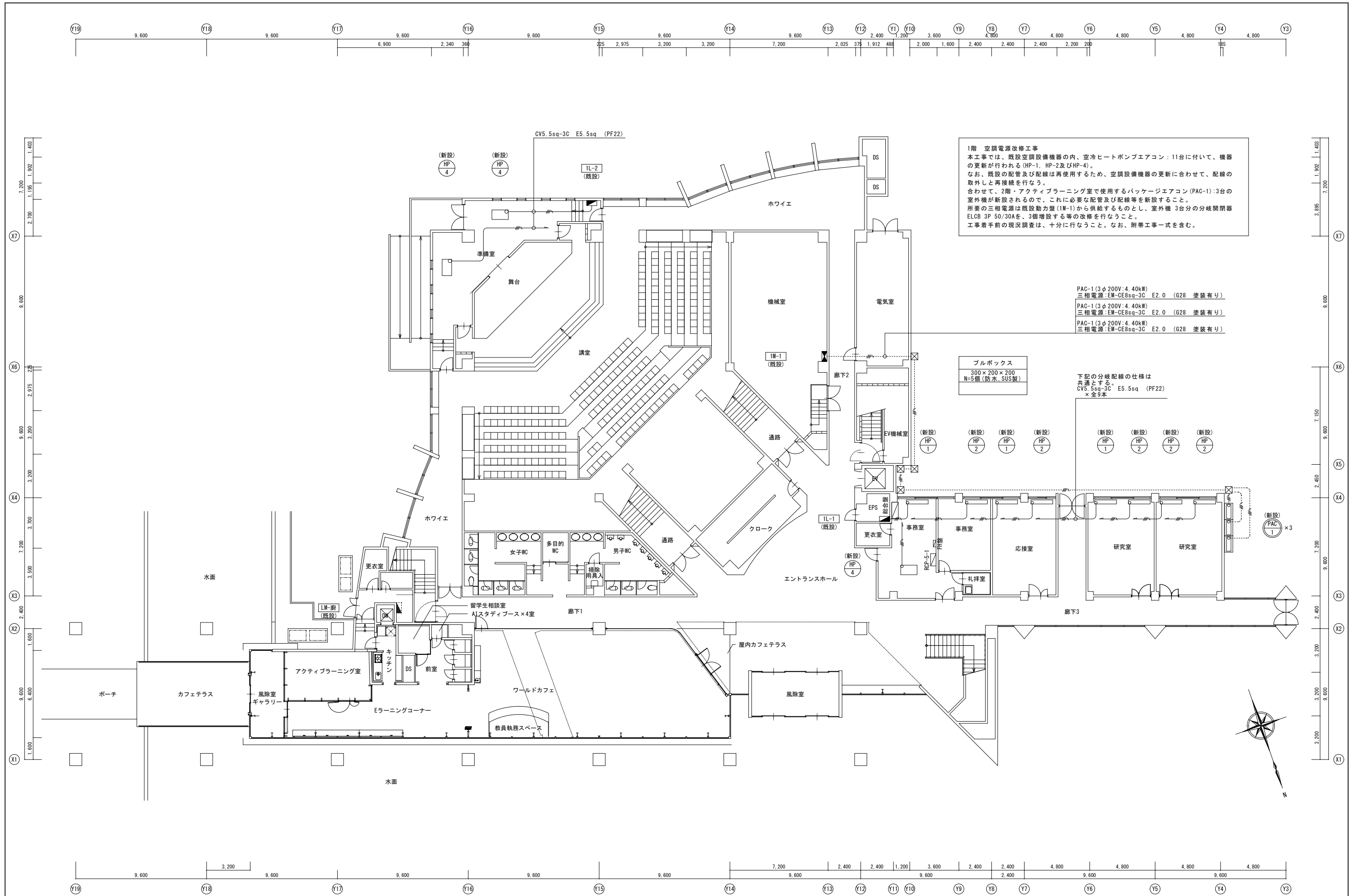


1階 空調電源改修工事  
 本工事では、既設空調設備機器の内、空冷ヒートポンプエアコン：11台に付いて、機器の更新が行われる。  
 なお、既設の配管及び配線は再使用するため、空調設備機器の更新に合わせて、配線の取外しと再接続を行なう。  
 工事着手前の現況調査は、十分に行なうこと。なお、附帯工事一式を含む。

下記の分岐配線の仕様は  
 共通とする。  
 CV5.5sq-3C E5.5sq (PF22)  
 ×全9本

年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学				株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号 E-03
	令和8年 7月	第一分科	第二分科	第三分科		設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	図面名称 電気設備 1階平面図(西側)(改修前)

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



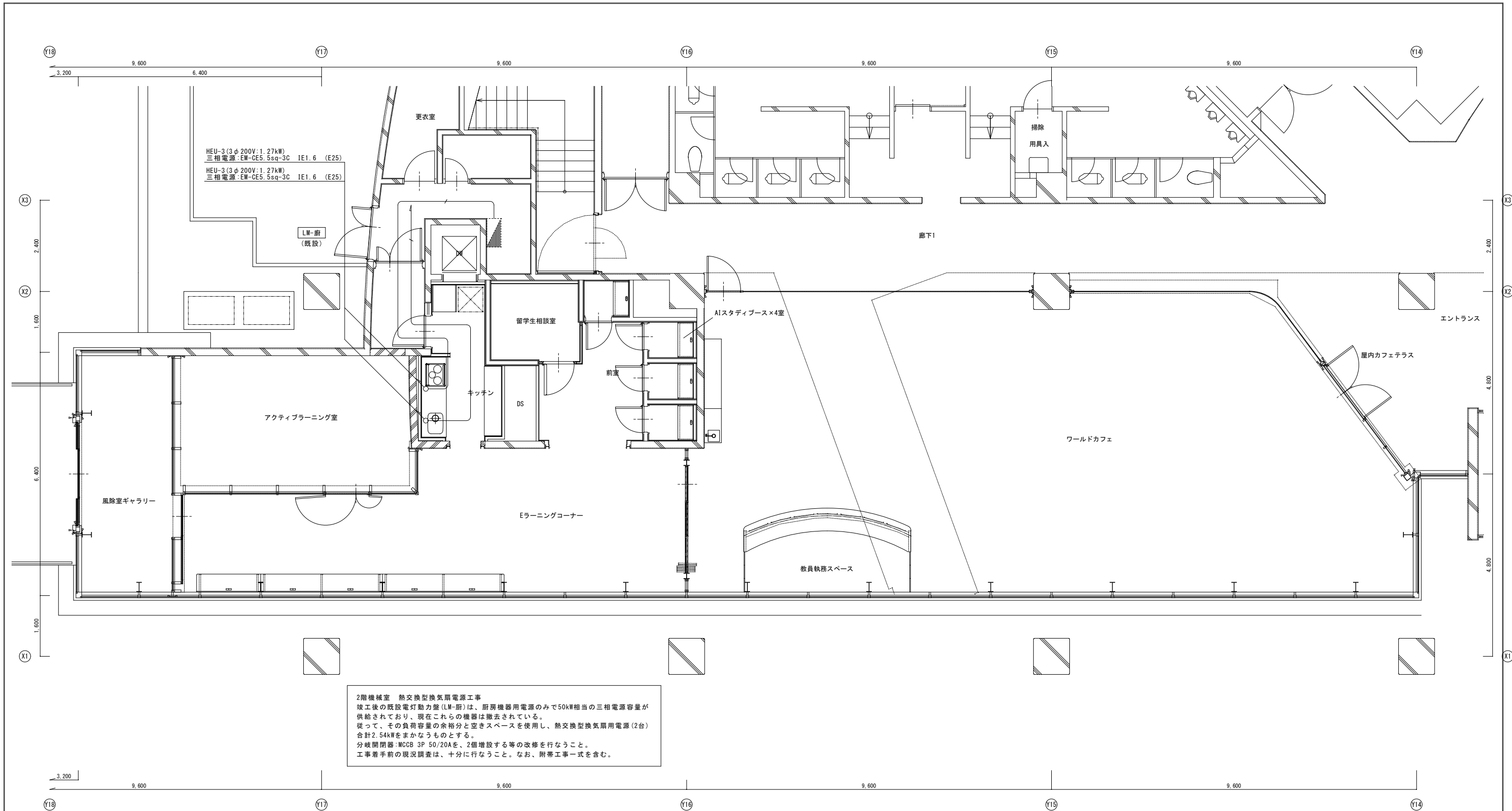
1階 空調電源改修工事  
 本工事では、既設空調設備機器の内、空冷ヒートポンプエアコン：11台に付いて、機器の更新が行われる (HP-1, HP-2及びHP-4)。  
 なお、既設の配管及び配線は再使用するため、空調設備機器の更新に合わせて、配線の取外しと再接続を行なう。  
 合わせて、2階・アクティブラーニング室で使用するパッケージエアコン (PAC-1)：3台の室外機が新設されるので、これに必要な配管及び配線等を新設すること。  
 所要の三相電源は既設動力盤 (1M-1) から供給するものとし、室外機 3台分の分岐開閉器 ELCB 3P 50/30Aを、3個増設する等の改修を行なうこと。  
 工事着手前の現況調査は、十分に行なうこと。なお、附帯工事一式を含む。

- PAC-1 (3φ200V:4.40kW)  
三相電源:EM-CE8sq-3C E2.0 (G28 塗装有り)
- PAC-1 (3φ200V:4.40kW)  
三相電源:EM-CE8sq-3C E2.0 (G28 塗装有り)
- PAC-1 (3φ200V:4.40kW)  
三相電源:EM-CE8sq-3C E2.0 (G28 塗装有り)

ブルボックス  
 300×200×200  
 N=5個 (防水, SUS製)

下記の分岐配線の仕様は  
 共通とする  
 CV5.5sq-3C E5.5sq (PF22)  
 ×全9本

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



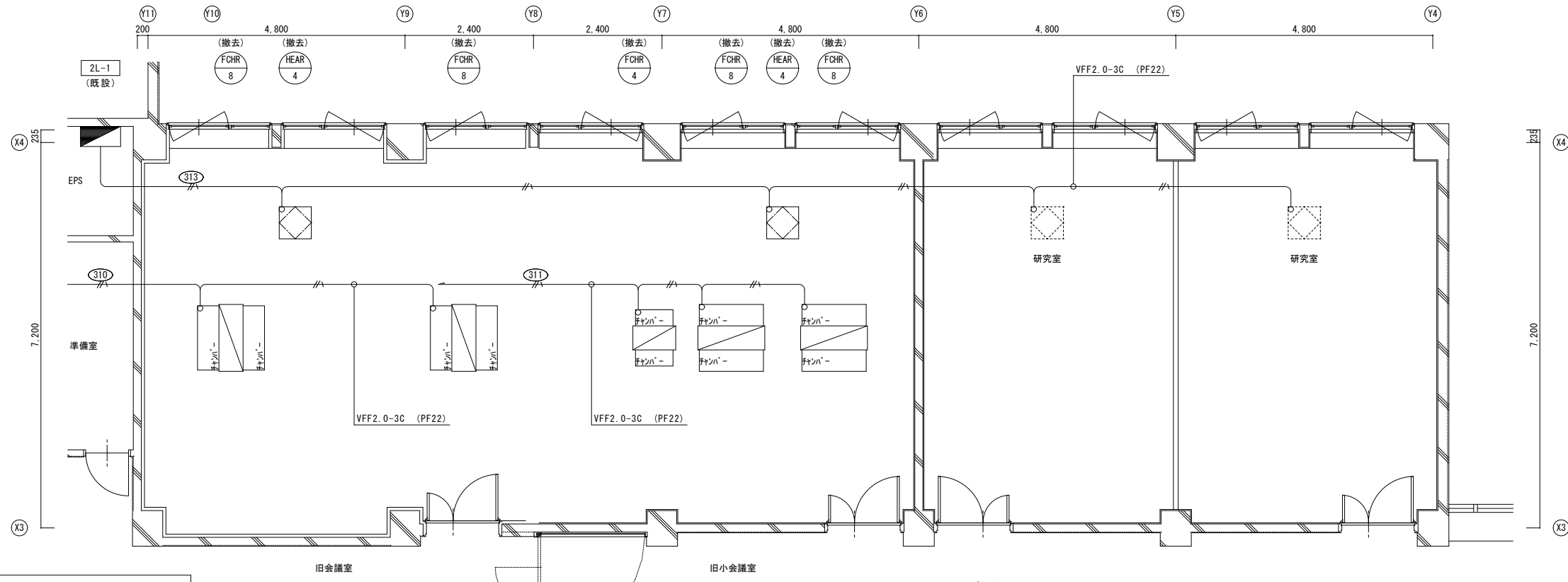
年度別	R8
分区分類	第一分区分類 第二分区分類 第三分区分類 審
令和 8年 7月	審

公立大学法人 福井県立大学
---------------

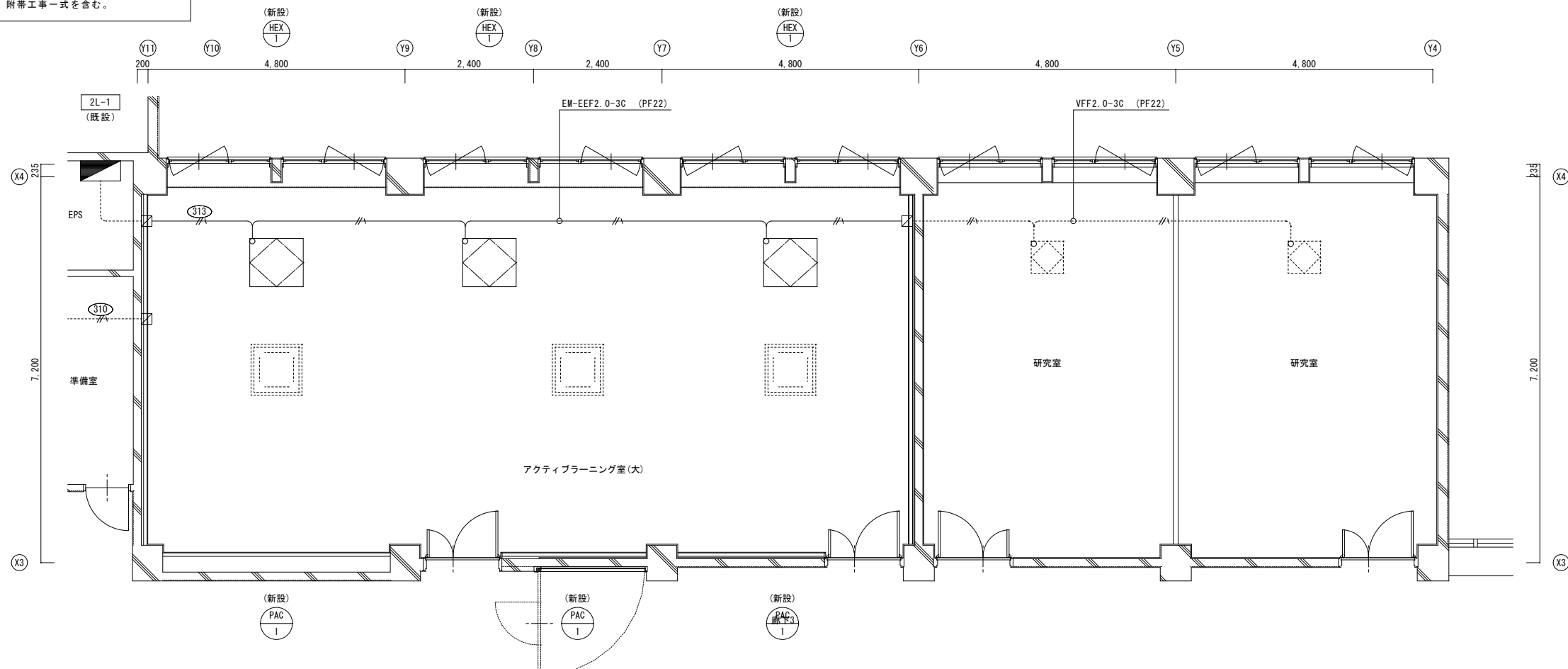
KMR 株式会社 木村建築事務所
1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一

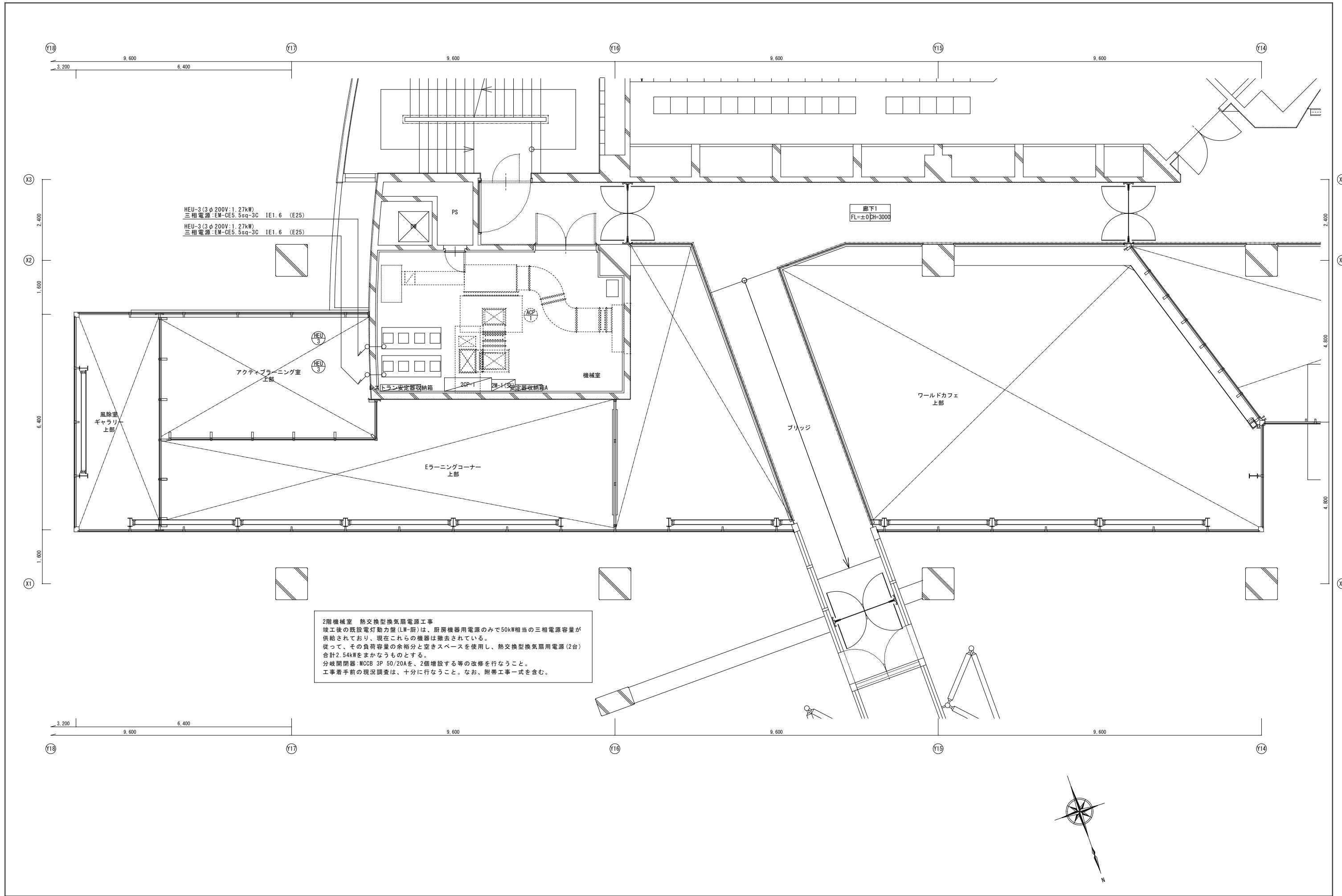
工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号	E-05
設計	一級建築士 第356628号 高澤 徹	縮尺	1:50
図面名称	電気設備 1階平面詳細図(東側)(改修後)		

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



2階 空調電源改修工事  
 本工事では、既設空調設備機器の内、ファンコイルユニット：5台、全熱交換器：2台に付いて、機器の撤去または更新が行われる（FCHR-4、FCHR-8及びHEAR-4）。  
 なお、既設の配管及び配線は再使用するため、空調設備機器の更新に合わせて、配線の取外しと再接続を行なう。必要な部分では、新規配線とする。  
 アクティブラーニング室に新設するパッケージエアコン（PAC-1）：3台の室内機に係わる配線は、機械設備工事で行なう。  
 工事着手前の現況調査は、十分に行なうこと。なお、附帯工事一式を含む。





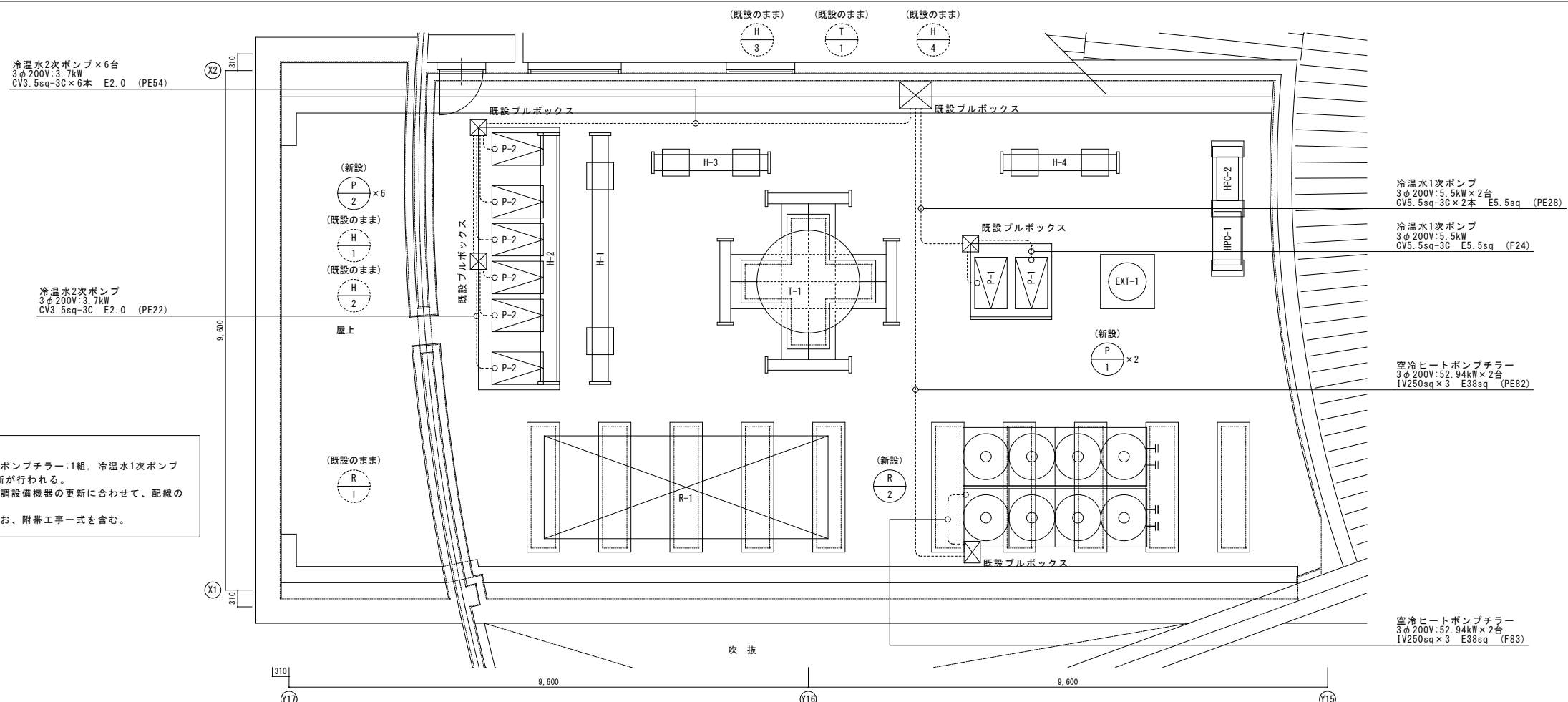
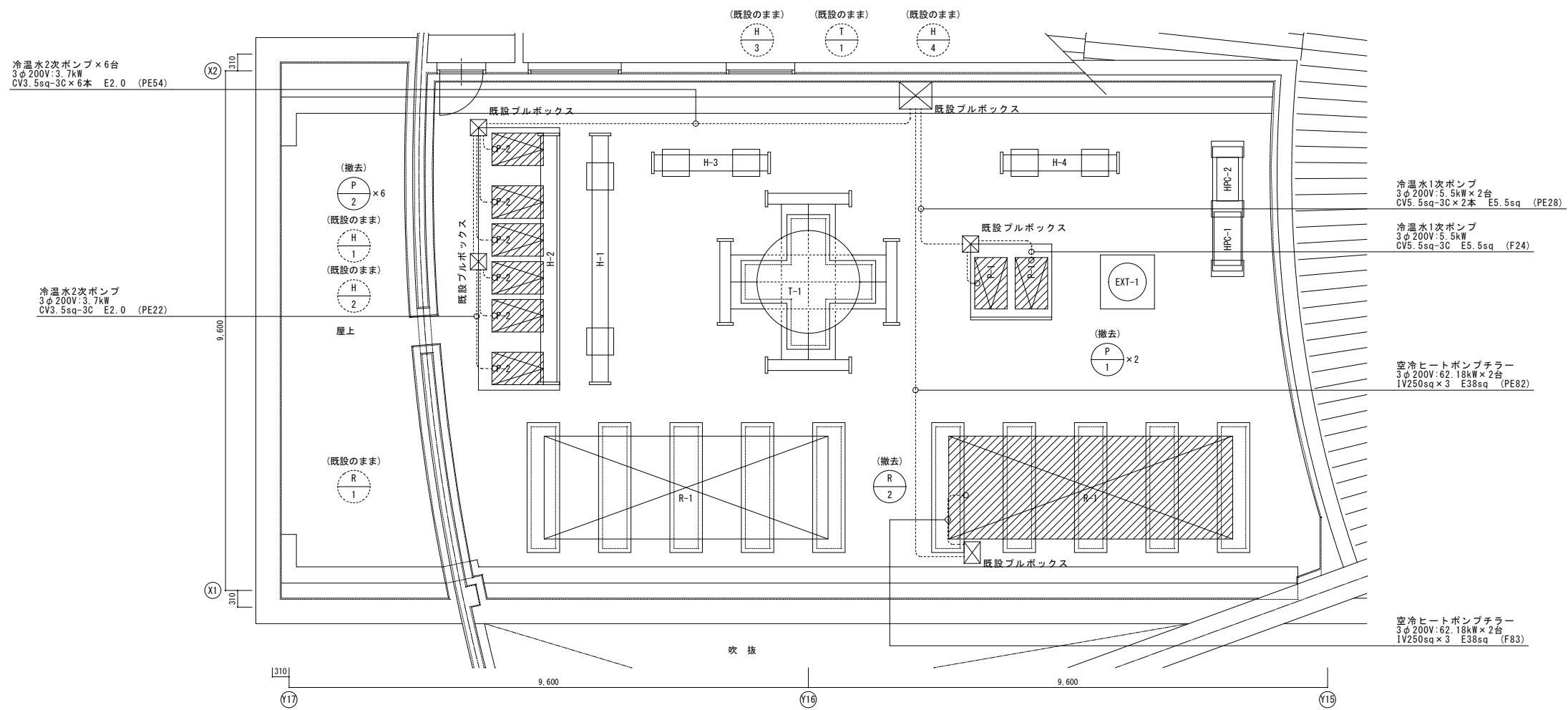
2階機械室 熱交換型換気扇電源工事  
 竣工後の既設電灯動力盤(LM-厨)は、厨房機器用電源のみで50kW相当の三相電源容量が供給されており、現在これらの機器は撤去されている。  
 従って、その負荷容量の余裕分と空きスペースを使用し、熱交換型換気扇用電源(2台)合計2.54kWをまかなうものとする。  
 分岐開閉器:MCCB 3P 50/20Aを、2個増設する等の改修を行なうこと。  
 工事着手前の現況調査は、十分に行なうこと。なお、附帯工事一式を含む。

年度別	R8
公立大学法人	福井県立大学
分類番号	第一分類 第二分類 第三分類 審
令和 8年 7月	審

KMR  
 株式会社 木村建築事務所  
 1級建築士事務所 福井県(L)115号  
 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一

工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号	E-07
設計	一級建築士 第356628号 高澤 徹	縮尺	1:50
図面名称	電気設備 2階平面詳細図(東側)(改修後)		

A1 : 原寸  
 A3 : 50%縮小図



屋上階 空調電源改修工事  
 本工事では、既設空調設備機器の内、空冷ヒートポンプチラー:1組、冷温水1次ポンプ:2台、冷温水2次ポンプ:6台に付いて、機器の更新が行われる。  
 なお、既設の配管及び配線は再使用するため、空調設備機器の更新に合わせて、配線の取外しと再接続を行なう。  
 工事着手前の現況調査は、十分に行なうこと。なお、附帯工事一式を含む。



1 工事概要 (R6.7改訂)

1. 工事名 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事

2. 工事場所 福井県吉田郡永平寺町松岡業定島4-1-1

3. 敷地面積

4. 地域・地区の指定

5. 建物概要

棟名称	構造・階数	延べ面積 (m <sup>2</sup> )	備考
交流センター	RC造・3階	3352.39	部分改修
建築基準法上の用途 ( 大学 )	耐火の種類 ○耐火 ・準耐火 ・その他		

6. 積荷荷重等

最深積雪量 ( 200 ) cm × 3.0 N/m<sup>2</sup>/cm (単位荷重) = ( 6000 ) N/m<sup>2</sup>

基準風速 V<sub>0</sub>(m/s) ○3.0 ・3.2

地表面粗度区分 ( 1 ・ 2 ○3 ・ 4 )

7. 別途工事

福井県立大学 Global Gateway 電気設備工事 福井県立大学 Global Gateway 機械設備工事  
福井県立大学 Global Gateway 建築工事 永平寺キャンパス 交流センター照明器具更新工事

2 建築工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房庁営繕部の「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)により、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下、「標準仕様書」という。)による。

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)」及び「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)」を適用する。

(3) 設計変更の対象事項及び手続きならびに工事一時中止に係る手続き等は、「工事請負契約等におけるガイドライン(総合版)」(福井県土木部)による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は○印の付いたものを適用する。○印が付かない場合は、※印の付いたものを適用する。○印と⊙印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の〔〕内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図または当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の〔〕内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図または当該表を示す。

(5) [G]印は、「福井県グリーン購入推進方針」(以下「グリーン方針」という。)の重点項目を示す。

(6) [環]印は、「福井県公共事業環境配慮ガイドライン」の施工段階における環境配慮事項を示す。(対象工事は、施工計画書の提出が必要な工事)

(7) 改修標準仕様書及び標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により(条例を含む。)抵触する場合には、関係法令等の遵守[守1.1.3]の規程を優先する。

章	項目	特記事項
① 各章共通事項	① 適用基準等	図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による ○建築工事標準詳細図(令和4年版) 国土交通省大臣官房庁営繕部整備課 ○営繕工事写真撮影要領(令和5年版) 国土交通省大臣官房庁営繕部 ・建築物解体工事共通仕様書(令和4年版) 国土交通省大臣官房庁営繕部 ・その他( )
	② 工事実績情報システム(CORINS)への登録	適用する(請負金額500万円以上の場合) (1.1.4) ※完工・変更・完成・訂正時に速やかに登録すること
	③ 工事の記録等	事務処理については福井県営繕工事監督事務処理要領(土木部公共建築課)による。 なお、本工事が公共事業労務費調査の対象となった場合、同調査に対して必要な協力を行い、工期経過後においても、同様とする。 (1.2.4) 改修標準仕様書1.2.4(4)により整備する工事写真については次による。 ○「営繕工事写真撮影要領(平成28年版)」による工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編 平成30年版 国土交通省大臣官房庁営繕部監修情報共有システム(CALS/E/C) ※利用しない(ただし、受注者より利用したい旨の申し入れがあった場合は、発注者はこれを承諾する。) ・利用する(情報共有システム運用ガイドライン福井県版を基に、福井県仕様のシステムに登録し利用すること。)
	④ 電気保安技術者	○適用する [1.3.3]
	⑤ 施工条件	下記以外は現場説明書による。 [1.3.5] 工期中 ・ 執務並行改修 ・ 建物無人(執務者無し)改修 ※図示(※工事用車両の駐車場所 ※資機材置場 ・ 建設発生土仮置場 ・ )
	⑥ 発生材の再資源化等 [環]	本工事は「福井県建設リサイクルガイドライン」の対象建設工事である。 [1.3.1][1.3.12] 工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を、工事完了時に同計画書の実施書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 また、再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を工事現場に掲示すること ・ 現場において再利用するもの( ) ・ 発注者に引渡しを要するもの(※金属類 ・ ) ・ 特別管理産業廃棄物
発生材の種類	処理方法・分析調査	
・ 廃石綿等	みなし処分	
・ P・C B含有物		
・ P・C B含有シーリング材		
・ 発生材の分別解体及び再資源化		
・ 本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日 法第104号)の対象建設工事であり、分別解体等及び特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行う。 ただし、工事契約後にもやむを得ない事情により予定した条件により難い場合は監督職員と協議する。		
分別解体、再資源化の完了時に、再資源化が完了した年月日、再資源化した施設の名称及び所在地、再資源化に要した費用を書面にて監督職員に報告する。		
再資源化等をする施設		
指定副産物の種類	再資源化等をする施設の名称	所在地
○コンクリート		
・ アスファルト・コンクリート		
・ 建設発生木材		
・ 建設発生土(土工事に記載)		
・ 指定副産物以外の搬出 ※構外搬出適切処分		

⑦ 建設機械 [G] [環]

⑧ 建築材料等 [1.4.1~1.4.3]

「排出ガス対策型建設機械指定要領」(国土交通省)による排出ガス対策型建設機械の使用を原則とする。また、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」(国土交通省)による超低騒音型建設機械を使用するよう努力する。

本工事に使用する材料は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマーク表示のない材料及びその製造業者等は、次の1)から6)の事項を満たすものとする。

1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。  
2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。  
3) 安定的な供給が可能であること。  
4) 法令等で定める許可、認可、認定または免許を取得していること。  
5) 設計または施工の実績があり、その信頼性があること。  
6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。

なお、これらの材料を使用する場合は、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料、または外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品または同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受けること。

資材の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。

なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房庁営繕部監修「建築材料、設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」(発注年版)及び福井県工業技術センター、福井県総合グリーンセンターで評価された材料とする。

工事材料や物品等の調達においては、福井県内に主たる営業所を所有する者の中からの調達および県産品の活用を努める。なお、県産品の使用実績については、「県産品使用実績一覧表」(土木部公共建築課制定)により、工事完成時に同表を監督職員に提出する。

「グリーン方針(最新版)」の公共工事調達計画に基づき、重点品目を調達する。

工事完成時にグリーン購入調達記録表を監督職員に提出する。

製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明書を監督職員に提出する。(平成18年9月29日付土木管第1197号)

福井県間伐材認証制度の指定事業者の製の使用に努める。

地域住民への工事に関する情報提供のため、現場表示板を設ける。表示板は、県内間伐材を材料とする木製看板とし、工事名称、発注者名、受注者名、連絡先等を簡明に示す。

化学物質を放散させる材料  
本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1)から5)を満たすものとする。

1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板層積材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙はホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びステレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
3) 接着剤はフタル酸ジネオプテル及びフタル酸ジネオテルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
5) 1)、3)及び4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。

また、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。  
ホルムアルデヒドの放散量 該当する建築材料

規制対象外	規制対象
	1) JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 2) 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 3) 下記表示のあるJIS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種	1) JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 2) 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 3) IJ JISのEo規格品 4) IJ JASのFo規格品

材料 [1.4.1]  
本工事に使用する材料については、標準仕様書1.3.11(2)に準じ、JIS 27253Iによる安全データシート(SDS)等により確認を行い、アスベスト含有建材を使用しない。

事前調査に関する資与資料 [1.5.1]  
分析調査 ・ 行う ・ (定性分析 ・ 定量分析) ○行わない [1.5.1]

⑨ 環境への配慮

⑩ 石綿含有建材

⑪ 特別な材料の工法

改修標準仕様書・標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。また「証明工法による」と特記されたものについては、建設技術審査証明協議会の会員による審査証明または、(一財)日本建築センター、建設技術研究センターで証明された工法とする。

⑫ 施工調査 [1.6.2]

調査項目 ・ 防水改修 ・ 外壁改修  
調査範囲 ※図示 ・ 調査方法 ※図示 ・  
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示 [1.6.3]

⑬ 技能士 [1.7.2]

下記の職種について、○印の付いたものは適用し、それ以外は適用するよう努める。

適用工事種別	技能検定の職種
仮設工事	○とび
防水改修工事	○アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ○アレタゴム系塗膜防水工事作業 ・ FRP防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 建築板金(内外装板金作業) ・ 改質アスファルトシートーチ工法防水工事作業
外壁改修工事	・ 樹脂接着剤注入工事作業 ・ 左官 ・ タイル張り
建具改修工事	・ サッシ施工 ・ ガラス施工
内装改修工事	・ 建築大工 ・ 鋼製下地工事作業 ・ 左官 ・ 建築板金(内外装板金作業) ・ プラスチック系床仕上げ工事作業 ○ボード仕上げ工事作業 ・ カーペット系床仕上げ工事作業 ・ 表装(壁装作業) ・ タイル張り ・ 畳工
塗装改修工事	○塗装(建築塗装作業)
耐震改修工事	○鉄筋施工(鉄筋組立作業) ○型枠施工
環境配慮改修工事	○コンクリート圧送施工 ・ 鉄工(構造物鉄工作業) ・ とび ・ 配管(建築配管作業) ・ 溶融ペイントローカー工事作業 ・ 造園

⑭ 室内空気中の化学物質の濃度測定 [1.7.9]

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン(学校の工事の場合は、ホルムアルデヒド、パラジクロロベンゼン、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン)の濃度を測定し、報告すること。  
測定はバンプ型採取機器により行う。  
測定対象室及び測定箇所数 測定時期 (※完成前 ・ )

測定対象室	測定箇所数
事務室 準備室	計2カ所

⑮ 施工体制

請負者は施工体制表及び施工体系図を作成し、工事現場に備えるとともに監督職員に提出する。請負者は監理技術者、主任技術者(下請負を含む)の工事担当技術者台帳を作成し、施工体制表または施工計画書に添えて監督職員に提出する。  
監理技術者、主任技術者(下請負を含む)は工事現場内では名札を着用する。

⑯ 下請負人の選定

下請負人を選定する場合には、福井県内に主たる営業所を有する者の中から選定すること。ただし、あらかじめ書面による承諾を受けた場合は、この限りではない。(福井県建設工事元請下請関係適正化指針要領第6条)

⑰ 施工図等の取扱い

施工図の著作権に係わる当該建築物に使用権は、発注者に譲渡するものとする。

⑱ 技術検査 [1.8.2]

監督職員の指示による。

⑲ 電子データの提出

※本工事は電子納品対象工事とする。  
1) 電子納品とは、工事における各段階の最終成果を電子データで納品することをいう。ここでは電子データとは、「電子納品の手引き(案)福井県版」(以下「要領等」という。)の最新版に基づいて作成されたものを指す。  
2) 要領等に基づいて作成した電子データを電子媒体(CD-R)で2部提出する。  
要領等で特に記載のない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、要領等の解釈に疑義がある場合は、監督職員と協議のうえ電子化の是非を決定する。  
3) 電子成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルスチェックを実施したうえで提出する。  
4) 完成検査まで(公財)福井県建設技術公社に電子納品保管管理システムの登録料を支払い、完成検査終了後正を監督職員に、副を(公財)福井県建設技術公社に提出する。  
○本工事は電子納品対象工事としない。  
ただし、「完成図」「完成写真」「工事写真」については電子データを提出すること。  
その他の資料及びファイル形式等については監督職員と協議する。

必須納品資料を下表に示す。  
必須納品資料以外については監督職員と協議する。

フォルダ名称	資料大分類	資料小分類	ファイル形式
MEET	打合せ簿	工事打合せ簿	(注1)
MATERIAL	機材関係資料	試験成績書(機材関係)	(注1)
PROCESS	施工関係資料	試験成績書(施工関係) ・ 工事進捗状況報告書 出発形成果表	(注1)
SALVAGE	発生材関係資料	再生資源利用促進実施書(様式1、様式2)	(注1)
DRAWING	完成図	完成図、設計変更図	※SXF(xf)形式及び※CADの標準形式
MAINT	保全に関する資料	主要機材一覧表、官公署届出書一覧表、官公署届出書、安全説明書	(注1)
OTHERS	契約関係資料	現場指示書、県産品使用実績報告書 グリーン購入調達記録表	(注1)
	完成写真	※完成写真(600万画素程度)(注2)	JPEG形式
(注3)	工事写真	※工事写真(着工時、施工中)(100万画素程度)	JPEG形式

注1: MS-EXCEL、MS-WORD及びPDF形式とする。  
注2: 完成写真は電子画像の他、[ ○四つ切 ○キャビネ ]のプリントを( )部提出する。  
注3: フォルダ構成は「営繕工事写真撮影要領令和5年版」(国土交通省大臣官房庁営繕部)による。

⑳ 完成時の提出図書等

標準仕様書による完成図を作成し、監督職員に下記により提出する。 [1.9.1~3]  
電子納品によるほか、提出回数及び作成様式等は下記のとおりとする。

区分	種類	製本	備考
※完成図(変更設計図を含む)		(注)	
※保全資料			
・ 長期保全計画書	2部		

注 完成図白焼製本A1版( )部、A3版2部を提出する。

㉑ 設計図のコピー

・ 設計図白焼製本 A1版( )部、A3版( 2 )部を提出する。

㉒ 設計地盤高

・ 図示 ・ 前面道路中心(最高) + 30.0mm ※監督職員の指示による。

㉓ 責任施工

特記事項中、責任施工の指示があるものは請負人及び専門工事業者(防水工事においては所属する組合または材料メーカーを加える)の連帯責任とし、保証書を監督職員に提出する。

㉔ 特定元方事業者の指名

本工事の請負者を労働安全衛生法第30条第2項に基づく特定元方事業者に指名する。

㉕ 違法な土砂・砕石等の使用の確認

購入土・砕石を使用する場合には事前に品質を証明する資料、採取地を示す書類、採取許可等の写し及び採取業者からの納品証明書など適法に採取していることを示す書類を監督職員に提出する。(H16土管第1481号)

㉖ 一年点検等

○本工事は一年点検対象工事とする。  
・ 本工事は二年点検対象工事とする。  
受注者は、「県有施設一年点検等実施要領」(土木部公共建築課)に基づき一年点検等を実施する。施工に起因する不良箇所があれば補修する。

㉗ 工事成績評定(工事成績評定要領第2条)

※評定する(請負金額500万円以上の場合)  
○評定しない(請負金額500万円未満の場合)  
・ 評定しない(応急工事、取壊れ工事、土砂運搬工事、什器類設置工事、軽微な内装工事等)

㉘ 近接工事の賠償費等の調整について

密接に係わるもの同一区内の工事の受注者と同一施工業者が落ちた場合は、両工事を合計したもので事後後調整を行う

㉙ 設備工事との取合い

工 事 内 容	建築	電気	機械
設備基礎基礎等			
屋内設置	○	○	○
屋上設置			
屋外設置		○	○
集合、アンカーボルト		○	○
特記した基礎	○		
下地補強	○		
S、SRC造梁の貫通部	補強		
R/C造梁・床・壁の貫通部	スリーブ	○	
設備用開口部	補強	○	○
	スリーブ		
	型枠	○	
軽量鉄骨下地天井・壁の開口部	補強	○	
	補強を要する切込み	○	
	補強を要しない切込み	○	○
貫通部・開口部の穴埋め補修		○	○
貫通部・開口部の塵出し		○	○
床、天井点検口		○	
防油堤	オイルサービスタンク	○	
外部取付ガラリ	タクト、チャッカーの接続用フランジを含む	○	
雨水排水	配管、網、蓋		
汚水、雑排水	配管、網、蓋		○
機器(建築工事に含む)等へ直接接続する配管配線		○	
機器(建築工事に含む)付属の制御盤以降の配管配線(接地共)		○	○
機器(建築工事に含む)付属の制御盤への電源供給配管配線		○	
機器(建築工事に含む)と専用スイッチの取り配管配線		○	○
パッケージ型空調機器との2次側配管配線(接地共)		○	○

㉚ 仮設工事

① 騒音・粉じん等の対策 [2.1.3]

・ 防音パネル  
・ 防音シート  
防音パネル等を取り付ける足場等の設置位置  
・ 図示 ・ 監督職員協議 [2.1.3]

② 足場等 [2.2.1]

外部足場 ○設置する(設置範囲 ○工事に必要な範囲 ・ )  
・ 設置しない  
内部足場 ○設置する(※脚立、足場板等 ・ 足場 )  
・ 設置しない  
防護シート ○設置する(設置範囲 ○工事に必要な範囲 ・ )  
・ 設置しない  
材料・搬出等材等の運搬方法 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 [2.2.1][表2.2.1]

③ 養生

既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1]  
既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート ・  
既存ブラインド、カーテン等の養生 ・ 行う(図示) ・ 保管場所( )  
固定家具等の移動 ・ 行う(図示)  
外部開口部の養生 ・ 行う(図示)

④ 仮設間仕切り [2.3.2][表2.3.1]

種 別	下 地	仕上材(厚さ mm)	充てん材	塗 装
・ A種	・ 木下地	両面 ※せつこうボード(※9.5 ・ )	厚さ mm	・ 有り
	※軽量鉄骨	・ 合板(※9.0 ・ )		※無し
・ B種	・ 木下地	片面 ※せつこうボード(※9.5 ・ )		・ 有り
	※軽量鉄骨	・ 合板(※9.0 ・ )		※無し
※C種	・ 畳管下地	防炎シート		
仮設扉	※木製扉	※合板張り程度		※無し
	・ 鋼製扉	※片面フラッシュ程度		・ 有り

⑤ 監督職員事務所 [2.4.1]

・ 設ける(設置する備品等は図示)  
・ 構内に新設する。規模 m<sup>2</sup>  
仕上げの程度(※天井・壁:合板または石膏ボード印塗り 床:ビニルシート張り)  
・ 既存建物内の一部を使用する。  
※設けない

⑥ 工事用水 [2.4.1]

構内既存施設 ・ 利用できる(※有償 ・ 無償) ※利用できない

⑦ 工事用電力 [2.4.1]

構内既存施設 ・ 利用できる(※有償 ・ 無償) ※利用できない

㉛ 防水改修工事

① 一般事項 [2.4.1]

専門工事業者 福井県防水工事協同組合または監督職員の承諾する専門工事業者  
保証年限 ※10年 ・  
(アスファルト防水、改質アスファルトシート防水、合成高分子系ルーフィングシート防水、塗膜防水)

② 降雨等に対する養生方法(と共) [3.1.3][3.8.3]

※改修標準仕様書3.1.3(5)による。

③ 既存防水の処理 [3.1.4][3.2.3~5]

既存保護層の撤去  
○行う(範囲 ○図示 ・ )  
・ 行わない  
既存防水層の撤去  
○行う(範囲 ○図示 ○設備基礎立上り)  
・ 行わない  
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去  
・ 行う(・MAS ・ MASI ・ MAC ・ M41 ・ L4X) ・ 行わない

④ 既存下地の処理 [3.2.6]

既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 ・  
POS工法及びPOSI工法(機械的固定工法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ※[3.2.6(4)④)による  
・ 設備機器架台、配管受部、バラベットの貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付部、当や出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理  
※図示

年度別	R8				
	第一分類	第二分類	第三分類	審	審
令和8年7月					

公立大学法人 福井県立大学	
---------------	--

株式会社 木村建築事務所	
1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村圭一	

工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事			図面番号
図面名称	建築改修工事特記仕様書1		縮尺	N.S

5. アスファルト防水 (責任施工) 既存屋根が保護防水の場合 [3.3.2~5] 新設防水層の種類 改修工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 断熱用シート

改質アスファルト防水 (責任施工) 新設防水層の種類 改修工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 仕上塗料 高日射反射率 備考

6. 改質アスファルトシート防水 (責任施工) 新設防水層の種類 改修工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 仕上塗料 高日射反射率 備考

改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※[表3.4.1~3]による

7. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (責任施工) 新設防水層の種類 改修工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 仕上塗料 高日射反射率 備考

改質アスファルトシート防水 (責任施工) 新設防水層の種類 改修工法 種別 施工箇所 断熱材 [G] 仕上塗料 高日射反射率 備考

9. 漏水試験 10. 施工確認

⑪ シーリング シーリングの工法、種類、施工箇所 下記以外は、改修標準仕様書表3.7.1による

12. とい といの材種 ※配管用鋼管 [3.8.2][表3.8.1]

⑫ アルミニウム製笠木 14. 長尺金属板蓋 (責任施工) ※標準仕様書による

15. 折板葺 (責任施工) ※標準仕様書による 16. 粘土瓦葺 (責任施工) ※標準仕様書による

4. 外壁改修工事 1. 施工数量調査 調査範囲 ・外壁改修範囲 ・図示 [1.6.2][1.6.3]

4-2 モルタル塗り仕上げ外壁(責任施工)	3. 欠損部改修工法	<p>※充填工法 [4.1.4]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エポキシ樹脂モルタル</li> <li>ポリマーセメントモルタル</li> </ul>	5. 欠損部改修工法	<p>・タイル部分張替え工法 [4.1.4][4.4.5~8]</p> <p>接着材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ポリマーセメントモルタル</li> <li>・変成シリコン樹脂 (JIS A 5557)</li> </ul> <p>・タイル張替え工法</p> <p>張付け用材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接着材 JIS A5557に基づく一液反応硬化形変成シリコン樹脂系</li> <li>・張付けモルタル(・現地調査材料 ・既調合モルタル)</li> </ul> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置</p> <p>※[表4.4.2]による ・図示による</p> <p>・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法</li> <li>・改良圧着張り</li> <li>・ユニットタイル(・マスク張り ・モザイクタイル張り)</li> </ul> <p>・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法</li> </ul> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>	5. 建築物改修工事	<p>新規仕上材の種類 [4.1.5][4.5.2][表4.5.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> <th>仕上げの形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">・薄付け仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材 S i</td> <td>・</td> <td>・砂壁状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材 S</td> <td>・</td> <td>・ゆず肌状(・吹付け ・ローラー塗り)</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材 E</td> <td>・</td> <td>・さざ波状 ・平坦状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材 E</td> <td>・</td> <td>・凹凸状(・吹付け ・こて塗り)</td> </tr> <tr> <td>・防水形外装薄塗材 E</td> <td>・</td> <td>・着色骨材砂壁状(・吹付け ・こて塗り)</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材 C</td> <td>・</td> <td>・砂壁状じゅらく</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">・厚付け仕上塗材</td> <td>・外装厚塗材 C</td> <td>・</td> <td>・吹放し ・凸部処理 ・平坦状</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材 S i</td> <td>・</td> <td>・凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材 E</td> <td>・</td> <td>・上塗材 ・適用する</td> </tr> <tr> <td>・複層仕上塗材</td> <td>・</td> <td>・複層塗材 C E</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・上塗材</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 S i</td> <td>・</td> <td>・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">・複層仕上塗材</td> <td>・複層塗材 C E</td> <td>・</td> <td>・溶媒 ※水系 ・溶剤系</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 S i</td> <td>・</td> <td>・溶媒 ※水系 ・溶剤系</td> </tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材 C E</td> <td>・</td> <td>・樹脂 ※アクリル系</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材 C E</td> <td>・</td> <td>・外観 ※つやあり ・つやなし</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・メタリック</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">・可とう形改修用仕上塗材</td> <td>・可とう形改修塗材 E</td> <td>・</td> <td>・平坦状 ・さざ波状 ・ゆず肌状</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・上塗材</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材 C E</td> <td>・</td> <td>・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・溶媒 ※水系 ・溶剤系</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材 C E</td> <td>・</td> <td>・樹脂 ※アクリル系</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材 R E</td> <td>・</td> <td>・外観 ※つやあり ・つやなし</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材 S i	・	・砂壁状	・可とう形外装薄塗材 S	・	・ゆず肌状(・吹付け ・ローラー塗り)	・外装薄塗材 E	・	・さざ波状 ・平坦状	・可とう形外装薄塗材 E	・	・凹凸状(・吹付け ・こて塗り)	・防水形外装薄塗材 E	・	・着色骨材砂壁状(・吹付け ・こて塗り)	・外装薄塗材 C	・	・砂壁状じゅらく	・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平坦状	・外装厚塗材 S i	・	・凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし	・外装厚塗材 E	・	・上塗材 ・適用する	・複層仕上塗材	・	・複層塗材 C E	・複層塗材 R E	・	・上塗材	・複層塗材 S i	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種	・複層仕上塗材	・複層塗材 C E	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系	・複層塗材 R E	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種	・複層塗材 S i	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系	・可とう形複層塗材 C E	・	・樹脂 ※アクリル系	・防水形複層塗材 C E	・	・外観 ※つやあり ・つやなし	・防水形複層塗材 R E	・	・メタリック	・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材 E	・	・平坦状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・可とう形改修塗材 R E	・	・上塗材	・可とう形改修塗材 C E	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種	・可とう形改修塗材 R E	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系	・可とう形改修塗材 C E	・	・樹脂 ※アクリル系	・可とう形改修塗材 R E	・	・外観 ※つやあり ・つやなし
	種 類	呼び名	防火材料	仕上げの形状																																																																																		
	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材 S i	・	・砂壁状																																																																																		
		・可とう形外装薄塗材 S	・	・ゆず肌状(・吹付け ・ローラー塗り)																																																																																		
・外装薄塗材 E		・	・さざ波状 ・平坦状																																																																																			
・可とう形外装薄塗材 E		・	・凹凸状(・吹付け ・こて塗り)																																																																																			
・防水形外装薄塗材 E		・	・着色骨材砂壁状(・吹付け ・こて塗り)																																																																																			
・外装薄塗材 C		・	・砂壁状じゅらく																																																																																			
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平坦状																																																																																			
	・外装厚塗材 S i	・	・凹凸状 ・ひき起し ・かき落とし																																																																																			
	・外装厚塗材 E	・	・上塗材 ・適用する																																																																																			
	・複層仕上塗材	・	・複層塗材 C E																																																																																			
	・複層塗材 R E	・	・上塗材																																																																																			
	・複層塗材 S i	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種																																																																																			
・複層仕上塗材	・複層塗材 C E	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系																																																																																			
	・複層塗材 R E	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種																																																																																			
	・複層塗材 S i	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系																																																																																			
	・可とう形複層塗材 C E	・	・樹脂 ※アクリル系																																																																																			
	・防水形複層塗材 C E	・	・外観 ※つやあり ・つやなし																																																																																			
	・防水形複層塗材 R E	・	・メタリック																																																																																			
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材 E	・	・平坦状 ・さざ波状 ・ゆず肌状																																																																																			
	・可とう形改修塗材 R E	・	・上塗材																																																																																			
	・可とう形改修塗材 C E	・	・耐候性 ※耐候形 3種 ・耐候形 1種																																																																																			
	・可とう形改修塗材 R E	・	・溶媒 ※水系 ・溶剤系																																																																																			
	・可とう形改修塗材 C E	・	・樹脂 ※アクリル系																																																																																			
	・可とう形改修塗材 R E	・	・外観 ※つやあり ・つやなし																																																																																			
1. 専門事業者	<p>※監督員の承諾する専門事業者</p> <p>保証期間 ※5年間</p>	6. 浮き部改修工法	<p>[4.1.4][4.4.5.9~15][4.5.9~15]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">10センチの本数(本/m<sup>2</sup>)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/m<sup>2</sup>)</th> <th rowspan="2">充填量 (nl/箇所)</th> <th rowspan="2">注入量 (nl/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> </tbody> </table>	改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50	・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	—	—	—	—	※25	※25																							
改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)																																																																																
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																		
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50																																																																																
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50																																																																																
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	—	—	—	—	※25	※25																																																																																
2. ひび割れ部改修工法	<p>※樹脂注入工法 [4.1.4][4.3.5~8]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (nl/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~1.0未満</td> <td>200~300</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上~0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.5以上~1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> </tr> </tbody> </table> <p>注入状況の確認方法</p> <p>コア抜き確認 ・行う (抜き取り箇所 ・500mm毎及びその端につき1個)</p> <p>コア抜き確認方法 ・図示</p> <p>・ウカットシール材充填工法 [4.3.7]</p> <p>・シーリング材充填</p> <p>・シーリング材の種類</p> <p>・シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>	種 類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (nl/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上~1.0未満	150~250	※130	7. 目地改修工法	<p>・目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.4.16]</p> <p>既成調合モルタル ・使用する</p> <p>・伸縮目地改修工法 [4.1.4][4.4.16]</p> <p>伸縮目地の位置 ※図示</p> <p>伸縮目地の寸法 幅 (mm) :</p> <p>深さ (mm) :</p>																																																															
種 類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (nl/m)																																																																																			
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	200~300	※130																																																																																			
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	※40																																																																																			
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	※70																																																																																			
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上~1.0未満	150~250	※130																																																																																			
3. 欠損部改修工法	<p>※充填工法 [4.1.4]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリマーセメントモルタル</li> <li>エポキシ樹脂モルタル</li> <li>モルタル塗替え工法</li> <li>現場調合材料</li> <li>(セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による)</li> <li>既調合材料 ( )</li> <li>既製目地材 ・使用する (形状 )</li> <li>仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 [4.3.10]</li> </ul>	7. 目地改修工法	<p>[4.1.4][4.3.11~16]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">10センチの本数(本/m<sup>2</sup>)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/m<sup>2</sup>)</th> <th rowspan="2">充填量 (nl/箇所)</th> <th rowspan="2">注入量 (nl/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン</p> <p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。</p> <p>注入口付アンカーピン</p> <p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm</p> <p>・タイル部分張替え工法 [4.1.4][4.4.7]</p> <p>1か所当たりの張替え面積 0.25m<sup>2</sup>超 ・図示</p> <p>接着材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ポリマーセメントモルタル</li> <li>・変成シリコン樹脂 (JIS A 5557)</li> </ul> <p>・タイル張替え工法 [4.1.4][4.4.8]</p> <p>張付け用材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接着材 JIS A5557に基づく一液反応硬化形変成シリコン樹脂系</li> <li>・張付けモルタル(・現地調査材料 ・既調合モルタル)</li> </ul> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置</p> <p>※[表4.4.2]による ・図示による</p> <p>・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法</li> <li>・改良圧着張り</li> <li>・ユニットタイル(・マスク張り ・モザイクタイル張り)</li> </ul> <p>・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法</li> </ul> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>	改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50																														
改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)																																																																																
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																		
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50																																																																																
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50																																																																																
4. 浮き部改修工法	<p>[4.1.4][4.3.11~16]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">10センチの本数(本/m<sup>2</sup>)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/m<sup>2</sup>)</th> <th rowspan="2">充填量 (nl/箇所)</th> <th rowspan="2">注入量 (nl/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>※25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※50</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン</p> <p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。</p> <p>注入口付アンカーピン</p> <p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm</p> <p>充填工法用材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エポキシ樹脂モルタル</li> <li>ポリマーセメントモルタル</li> <li>モルタル塗替え工法用材料</li> <li>現場調合材料</li> <li>(セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による)</li> <li>既調合材料 ( )</li> <li>既製目地材 ・使用する (形状 )</li> <li>仕上げ厚または全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 [4.3.10]</li> </ul>	改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25	・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50	・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25	・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50	7. 目地改修工法	<p>[4.1.4][4.4.16]</p> <p>・目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.4.16]</p> <p>既成調合モルタル ・使用する</p> <p>・伸縮目地改修工法 [4.1.4][4.4.16]</p> <p>伸縮目地の位置 ※図示</p> <p>伸縮目地の寸法 幅 (mm) :</p> <p>深さ (mm) :</p>																														
改修工法の種類	10センチの本数(本/m <sup>2</sup> )		注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 (nl/箇所)	注入量 (nl/箇所)																																																																																
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																		
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※25																																																																																
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25	※50																																																																																
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※25																																																																																
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25	※50																																																																																

14. 軽鋼シャッター	スラット及びシャッターケース用鋼板 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12またはF12	[5. 11. 3]
	耐風圧性能 ( ) N/m <sup>2</sup> スラット 材質 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z06またはF06 ・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※AZ90 形状 ・インターロック型形 ・オーバーラッピング形	[5. 12. 2][表5. 12. 1] [5. 12. 2] [5. 12. 3] [5. 12. 4]
15. オーバーヘッドドア	セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材質 ※スチールタイプ ※バルーン式 ・スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ・ステンレス鋼板 ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイリフト形 ・パーチカル形	[5. 13. 2][5. 13. 3]
16. ガラス	風圧力による強さの区分 (・50 ・75 ・100 ・125 ) 電動式の場合の保護装置 ・図示	[5. 13. 2] [5. 13. 2]
17. ガラスとめ材	ガラスの種類は、次による。ただし、その種類及び厚さごとの使用箇所、図示。 ・フロート板ガラスの厚さによる種類等 ※図示 < > ・型板ガラスの品質及び厚さによる種類等 ※図示 < > ・網入り板ガラスの品質及び厚さによる種類等 ※図示 < > ・合わせガラスの合計厚さ及び特性等による種類等 ※図示 < > ・強化ガラスの板ガラスの種類及び特性等による種類等 ※図示 < > ・熱線吸収ガラスの種類及び厚さによる種類等 ※図示 < > ・複層ガラスの板ガラスの種類及び特性等による種類等 ※図示 < > ・熱線反射ガラスの種類及び厚さによる種類等 ※図示 < > ・倍強度ガラスの板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※図示 < >	[5. 14. 2]
18. ガラスブロック積み	建具の種類 ガラスとめ材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガスケット ※建具製作所の仕様による ・ ※グレイジングチャンネル形 ・ 樹脂製 ・建築用ガスケット ・グレイジングビート 鋼製及び鋼製軽量 ・ ステンレス製 ・	[5. 14. 2][5. 14. 3]
	表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 目地幅(mm) 伸縮調整目地(mm) 正方形 ・125×125 80 ・ ・ ※8~15 外側 ※6m以下毎に ・160×160 95 ・ ・ ※15~25 10~25 ・200×200 95 ・125 ・ ・ ・320×320 95 ・ ・ 内側 長方形 ・250×125 80 ・ ・ ※6以上 ・320×160 95 ・ ・	[5. 14. 5]
	曲面積の曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 壁用金属枠及び補強材 ・設ける (形状 ※図示 ) 石膏 ※ステンレス鋼 (SUS304) 径5.5mm はしご形状複筋及び単筋 目地部の横方向の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による。 化粧目地モルタルの色 ( ) [5. 14. 5] シーリング材 ※改修標準仕様書表3. 7. 11による [5. 14. 5] 金属製化粧カバー [5. 14. 5] 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法: 建築基準法に基づく風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力	[5. 14. 5] [5. 14. 5] [5. 14. 5] [5. 14. 5] [5. 14. 5] [5. 14. 5]

製材 [G]	[6. 5. 2(2)]
※「製材の日本農林規格」による製材 ・下地用針葉樹製材	
施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 保存処理 含水率	・1級 ※2級
・造作用針葉樹製材	
施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 保存処理 含水率	・上小節
・広葉樹製材	
施工箇所 樹種 寸法(mm) 等級 形状 保存処理 含水率	・特等※1等・2等
・「製材の日本農林規格」以外の製材	
施工箇所 樹種名 寸法(mm) 材面の品質 含水率 防虫処理	
造作材の材面の品質 ※A種 ・B種	[6. 5. 2(2)]
造作用集成材 [G]	[6. 5. 2(3)]
・造作用集成材 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外)	
施工箇所 樹種名 寸法(mm) 見付け材面品質 見付け材面	※1等・2等
・化粧ばり造作用集成材 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外)	
施工箇所 化粧薄板の樹種名 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面品質	※1等・2等
化粧薄板: 芯材:	
・化粧ばり造作用集成柱 (※「集成材の日本農林規格」・「集成材の日本農林規格」以外)	
施工箇所 化粧薄板の樹種名 寸法(mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面品質	※1等・2等
化粧薄板: 芯材:	
造作用単板積層材 [G]	[6. 5. 2(4)]
造作用単板積層材 (※「単板積層材の日本農林規格」・「単板積層材の日本農林規格」以外)	
施工箇所 厚さ(mm) 表面の品質 防虫処理	※天然木化粧加工 ・する ・塗装加工 ・しない ・加工しない (・1等・2等・3等)
C.L.T (直交集成板) [G]	[6. 5. 2(5)]
施工箇所 品名 曲げ性能 (強度等級) 種別 接着性能 (使用環境) 樹種 寸法mm	
合板等 [G]	[6. 5. 2(6)]
・「合板の日本農林規格」による普通合板 (下地用)	
施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 表板の樹種名 板面の品質 防虫処理 その他の処理	広葉樹・1等※2等 針葉樹 ※C-D ・しない
・「合板の日本農林規格」による構造用合板 (下地用)	
施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 等級 表板の樹種名 板面の品質 防虫処理 強度等級	※12.0 ※1類 ・特類 ※2級 ・
・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [G]	
施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 防虫処理	・1類 ・2類
・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [G]	
施工箇所 厚さ(mm) 接着の程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理	
・パーティクルボード	
施工箇所 厚さ(mm) 表表面の区分 曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> ) 耐水性 難燃性	※15.0 ・素地 ・単板張り ・化粧
・構造用パネル	
施工箇所 厚さ(mm) 等級	・1級・2級・3級・4級

・MDF [G]	
施工箇所 厚さ(mm) 表面の状態による区分 曲げ強さにによる区分 接着剤による区分 難燃性による区分	
5. 接合具等	
造作材の化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち 諸金物 ※かすがい、産金、箱金物、短冊金物 改修標準仕様書6. 5. 3 (2) (7)による (形状: 寸法: 材質: ) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6. 5. 3] [6. 5. 3] [6. 5. 3]
6. 木れんが	
接着工法に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6. 5. 4]
7. 防虫・防蟻処理	
・防虫、防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位: ( ) ・薬剤の加圧注入による防虫、防蟻処理 適用部位 保存処理性能区分 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4	[6. 5. 5] [6. 5. 5]
・薬剤の塗布等による防虫、防蟻処理 適用部位 処理の方法 薬剤の種類 ※改修標準仕様書6. 5. 5 (1) (b)② 7~1による ※JIS K 1571に適合又は同等品	[6. 5. 5]
・薬剤の接着剤への混入による防虫、防蟻 適用部位: ( ) ・合板等の加圧注入処理等の適用 適用部位: ( )	[6. 5. 5] [6. 5. 5]
8. 内部間仕切組及び床組み	
間仕切組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) ※杉 床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) ※杉	[6. 5. 6] [6. 5. 6]
9. 窓、出入口その他	
・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) ※吊元材、水廻りの下枠及び敷居はひのき、その他は杉	[6. 5. 7]
10. 床板張り	
・縁革及び上がりがまちに用いる木材 (製材を用いる場合) ※ひのき	[6. 5. 8]
11. 壁及び天井下地	
・壁及び天井下地に用いる木材 (製材を用いる場合) ※杉	[6. 5. 9]
12. 軽量鉄骨天井下地	
野縁等の種類 [6. 6. 2][表6. 6. 1] 屋外 (・19型 ※25型) 屋内 (※19型 ・25型) 屋外の軒天井、ピロティ天井等 [6. 6. 3] 補強方法 ※図示 [6. 6. 3] 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示 [6. 6. 3] 野縁の間隔 ※図示 [6. 6. 3] 既存の埋込みインサート ・使用する ・使用しない [6. 6. 4] あと施工アンカーの施工後の確認試験 ・行う ・行わない [6. 6. 4] 引張試験の箇所数及び引張試験にて確認する強度 ※改修標準仕様書6. 6. 4 (1) (9)による [6. 6. 4] 吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 [6. 6. 4] 天井のふところ3mを超える場合の補強方法 ※図示 [6. 6. 4] 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ・行う (※図示 ) ・行わない [6. 6. 4] 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ・行う (※図示 ) ・行わない [6. 6. 4]	
13. 軽量鉄骨壁下地	
スタッド、ランナーの種類 ※改修標準仕様書表6. 7. 11による。 スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示 出入口及びこれに準じた開口部の補強 ※改修標準仕様書6. 7. 4 (5)による	[6. 7. 3][表6. 7. 1] [6. 7. 3]
14. ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り [G]	
接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質下地以外の場合のゴム床タイル用接着剤の主成分による区分 ・図示による [6. 8. 2] [表6. 8. 1]	[6. 8. 2] [6. 8. 2]
ビニル床シート張り 材料 [6. 8. 2]	
※FS	※無地 ※2.0 ・2.5
接合部の処理 ※熱溶接工法	[6. 8. 3]
ビニル床タイル張り 材料 [6. 8. 2]	
記号 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm)	※無地 ・300×300 ※2.0 ・450×450 ・500×500
※T T (単層ビニル床タイル) ※K T (コンポジションビニル床タイル) ・F T (複層ビニル床タイル) ・F O A (置敷きビニル床タイル) ・F O B (薄型置敷きビニル床タイル)	
特殊機能床 材料 [6. 8. 2]	
シート・タイルの種類 性能 厚さ、寸法、形状	
・帯電防止床シート 厚さ:	
・帯電防止床タイル 寸法: 厚さ:	
・視覚障害者用床タイル 形状:	
・耐動荷重性床タイル 厚さ:	
・防滑性床シート 厚さ:	
・防滑性床タイル 寸法: 厚さ:	

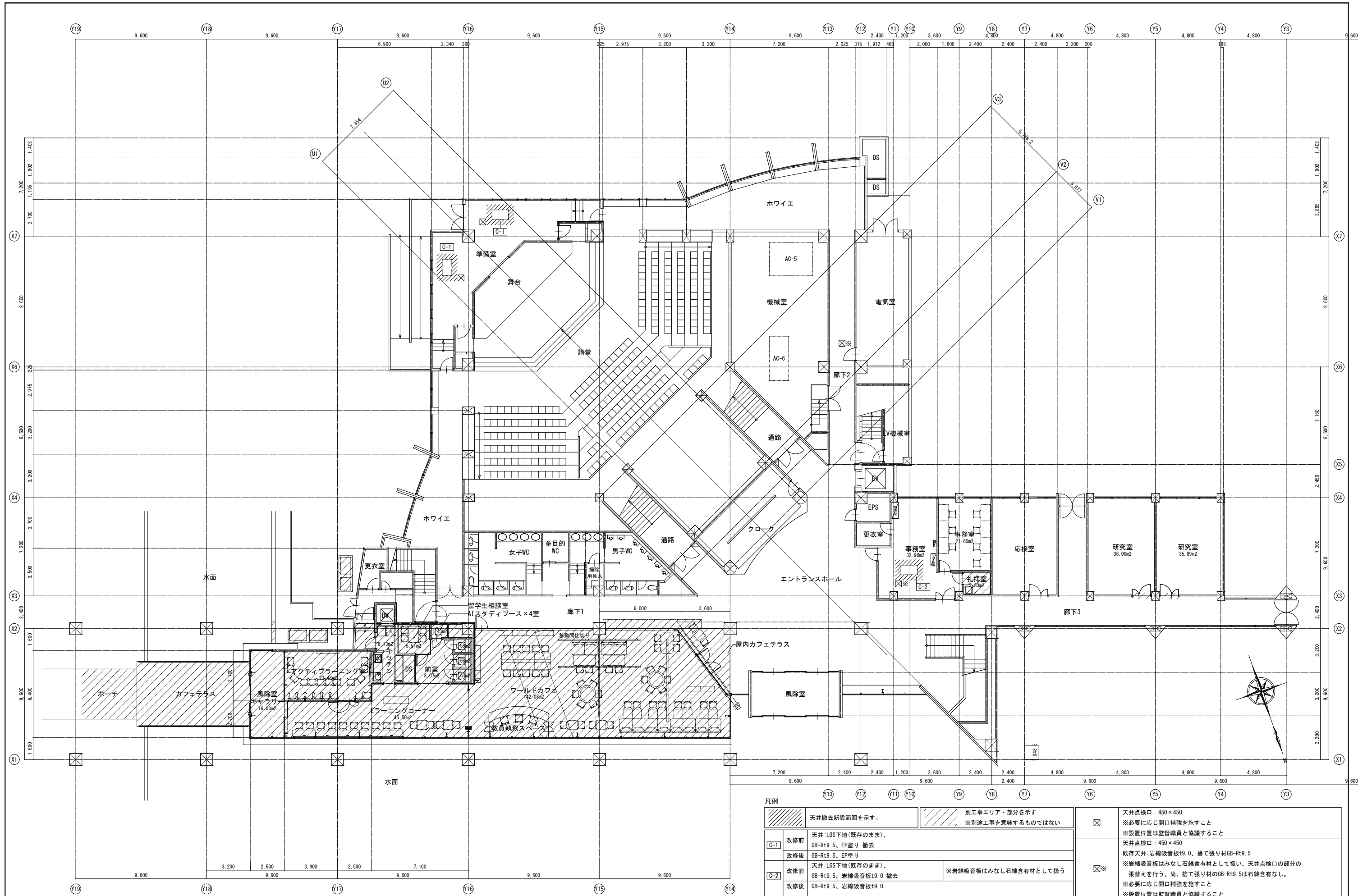
ビニル幅木 材質 ※軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・75 ・100 厚さ (mm) ※1.5	[6. 8. 2]
ゴム床タイル 種類 ・単層品 ・複層品 色柄 ( ) 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 (mm) ( )	[6. 8. 2]
下地の施工 改修標準仕様書6. 8. 3. (1) (7)から (9) 以外の下地の工法 ・図示による	[6. 8. 3]
15. カーベット敷き	
縫じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 [6. 9. 2][表6. 9. 1] タフテッドカーベット [6. 9. 2~6. 9. 3]	
種 別 バイル形状 帯電性 織り方 色柄等 備考	
・A種 ・カットバイル ※人体帯電圧 ・ウィルトンカーベット ・無地 ・B種 ・ループバイル ※人体帯電圧 ・ダブルフェースカーベット ・柄物 ・C種 ・カット、ループ併用 ※人体帯電圧 3kV以下 ・アキスミンスターカーベット (標準品)	
縫じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 [6. 9. 3] タフテッドカーベット [6. 9. 2~6. 9. 3]	
バイル形状 バイル長さ (mm) 工 法 帯電性 備考	
・カットバイル ※5~7 ※全面接着工法 ※人体帯電圧 ・ループバイル ※4~6 ・グリッパー工法 3kV以下	
・レベルループバイル ※4 ・カット、ループ併用 ・	
タイルカーベット [6. 9. 2]	
バイル形状 種 別 施工箇所 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 備考	
※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・	
・カットバイル ・カット、ループ併用	
帯電性 ・人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲) 敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し [6. 9. 3] 階段部分 ※模様流し ・市松敷き	
下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号呼び厚さ8mm [6. 9. 2] 見切り、押さえ金物 ・適用する (材質、形状等 ※図示 ) [6. 9. 2] 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6. 9. 2]	
16. 合成樹脂塗床	
塗床材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6. 10. 2] [6. 10. 2][表6. 10. 4~6. 10. 8]	
種 別 施工箇所 仕上げの種類	
厚膜型塗床材 ・弾性ウレタン塗床 ※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ	
・エポキシ樹脂塗床 ・薄膜流し展べ工法 (・平滑 ・防汚) ・厚膜流し展べ工法 (・平滑 ・防汚) ・樹脂モルタル工法 (・平滑 ・防汚)	
17. フローリング張り [G]	
フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ [6. 11. 2] 単層フローリング [6. 11. 2~6][表6. 11. 1][表6. 11. 3][表6. 11. 5]	
種 別 工 法 樹 種 厚さ (mm) 大きさ (mm) 仕上げ	
・フローリングボード1等 ・釘留め工法 ※なら ・15 幅75以上 ・塗装品 ・根太張り工法 ・直張り工法 ・接着工法	
・フローリングブロック1等 ・接着工法 ※なら ※15 ※303×303	
複合フローリング [6. 11. 2~6][表6. 11. 2][表6. 11. 4][表6. 11. 6]	
樹 種 工 法 種 別 厚さ・大きさ 防湿処理 仕上げ	
※なら ・釘留め工法 ・A種 ・根太張り工法 ・B種 ・直張り工法 ・接着工法 繊維材 ※合成樹脂発泡シート	・行う ・行う ・行う ・行う
・樹脂8mm以上 ・板幅75mm以上 ・板長さ900以上	・塗装品 ・無塗装品
接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート [6. 11. 5] 現場塗装 [6. 11. 6]	
・行う (施工箇所) ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り	
18. 畳敷き	
種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (畳床 ) [6. 12. 2][表6. 12. 1] ホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆ 畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする。 衝撃緩和型畳 (畳表: ・C1 ・C2 ) [6. 12. 2]	

年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号 A-04
令和 8年 7月	分 類 第一分類 第二分類 第三分類 審 査	図面名称 建築改修工事特記仕様書4	縮 尺 N.S
		設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	
		1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村 幸一	

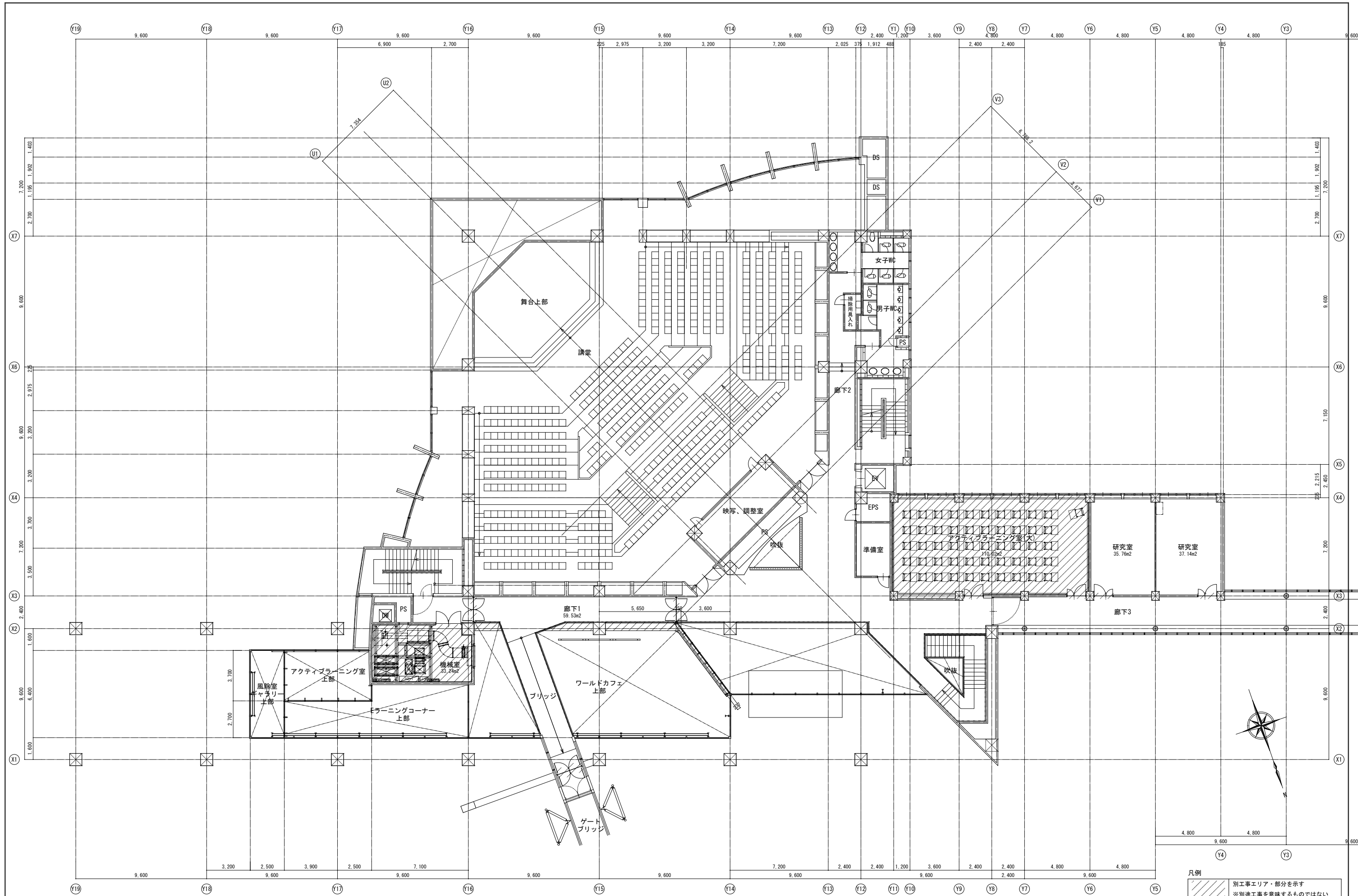


<p>③鉄筋の加工及び組立</p> <p>鉄筋の種類に応じた継手工法 [8.3.4][8.4.2][8.4.3]</p> <table border="1"><tr><th>部 位</th><th>継 手 方 法</th><th>径 (mm)</th></tr><tr><td>柱・梁の主筋</td><td>※ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td>※重ね継手 ・</td><td></td></tr></table> <p>継手位置 [8.3.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による</li></ul> <p>柱及び梁の主筋の重ね継手長さ [8.3.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による</li></ul> <p>耐力壁の重ね継手の長さ [8.3.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による</li></ul> <p>鉄筋の定着長さ [8.3.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による</li></ul> <p>機械式定着工法 [8.3.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・適用する</li><li>適用箇所 ・図示による</li><li>種類</li><li>・摩擦圧接結合 ・縦合グラウト固定 ・</li><li>工法 ※第三者機関の評定等を取っている工法とする</li><li>必要定着長さ ※評定等の評価内容による</li><li>補強筋形状 ※評定等の評価内容による</li><li>かぶり厚さ ※評定等の評価内容による</li><li>品質確認 ※評定等の評価内容による</li><li>検査 ※評定等の評価内容による</li></ul> <p>鉄筋のかぶり厚さ [8.3.5]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※改修標準仕様書表8.3.6による ・図示 ・</li></ul> <p>4.機械式継手 [8.4.2]</p> <p>適用箇所 ・図示による ( ) ・</p> <p>H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・ A級 ・</p> <p>種類 ・図示による ( ) ・</p> <p>工法 ※第三者機関の評定等を取っている工法</p> <p>鉄筋相互のあき、品質の確認、検査</p> <p>※評定等の評価内容による ・</p> <p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外観試験</li><li>試験対象 ※全数 ・</li><li>試験項目 ・評定等の評価内容による</li><li>試験方法 ・評定等の評価内容による</li><li>超音波探傷試験</li><li>試験項目 ※JIS Z 3064による ・</li><li>試験数量 ・抜き取り検査 ・</li><li>試験ロット ・</li></ul> <p>不合格となった場合の措置</p> <p>5.溶接継手 [8.4.3]</p> <p>適用箇所 ・図示による ( ) ・</p> <p>H12建設省告示第1463号に適合する性能 ・ A級 ・</p> <p>溶接継手の工法 ・図示による ( ) ・</p> <p>施工完了後の溶接部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外観試験</li><li>試験対象 ※全数 ・</li><li>試験項目 ・評定等の評価内容による</li><li>試験方法 ・評定等の評価内容による</li><li>超音波探傷試験</li><li>試験項目 ※JIS Z 3063による ・</li><li>試験数量 ・抜き取り検査 ・</li><li>試験ロット ・</li></ul> <p>不合格となった場合の措置</p> <p>6.柱の配筋 [8.3.4][参考図1.1]</p> <p>帯筋の組立ての形の種別</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・H形 ・W-I形 ・W-II形 (フレア溶接部を2箇所としたもの)</li></ul> <p>7.梁の配筋 (参考図3.2)</p> <p>あばら筋の種類、径及び間隔 ※図示 ・</p> <p>8.壁の配筋及び補強 [8.3.7]</p> <p>壁の配筋及び壁開口部の補強 ※図示 ・</p> <p>9.各部配筋 (5.3.7)</p> <p>※標準仕様書の各部配筋参考図の図及び表による ・図示 ・</p> <p>10.ガス圧接 [8.3.8][5.4.9]</p> <p>圧接完了後の試験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・超音波探傷試験 ・引張試験</li></ul> <p>11.割製補強筋 [8.21.6][8.22.7]</p> <p>割製補強筋の適用</p> <table border="1"><tr><th>種 類</th><th>材 料</th><th>材 質</th><th>径</th><th>本数ピッチ等</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>※スライバル筋</td><td>※鉄筋コンクリート用棒鋼</td><td>※S R235</td><td>※φ6</td><td>スパイラルの径 (mm)</td><td>※図示</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・9φ</td><td>( 100 )</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>スパイラルのピッチ (mm)</td><td></td></tr><tr><td>・はしご筋</td><td>※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)</td><td>・S D295A</td><td>・D10</td><td>( 壁面内方向筋 )</td><td>( )</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>( 壁面外方向筋 )</td><td>( )</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・9φ</td><td>( 100×100 )</td><td></td></tr></table>	部 位	継 手 方 法	径 (mm)	柱・梁の主筋	※ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手		その他	※重ね継手 ・		種 類	材 料	材 質	径	本数ピッチ等	適用箇所	※スライバル筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼	※S R235	※φ6	スパイラルの径 (mm)	※図示				・9φ	( 100 )						スパイラルのピッチ (mm)		・はしご筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・S D295A	・D10	( 壁面内方向筋 )	( )					( 壁面外方向筋 )	( )				・9φ	( 100×100 )		<p>③骨材 [8.2.5]</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・ B</p> <p>④混和材料 [8.2.5]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・混和剤の種類 ※標準仕様書8.2.5(4)(a)による ・</li><li>・混和剤の種類 ※標準仕様書8.2.5(4)(b)による ・</li></ul> <p>5.構造体用モルタル [8.2.6]</p> <p>構造体用モルタル</p> <p>圧縮強度 ( ) フロー値 ( )</p> <p>⑥構造体強度補正值及び適用期間 [8.2.5][6.3.2][表6.3.2][6.12.2]</p> <table border="1"><tr><th>地区</th><th>補正值</th><th>3 N</th><th>番中6 N</th><th>6 N</th></tr><tr><td>福井・丹南地区</td><td>3/7~7/3</td><td>9/8~11/18</td><td>7/4~9/7</td><td>11/19~3/6</td></tr><tr><td>大野・勝山地区</td><td>3/15~7/10</td><td>8/30~11/9</td><td>7/11~8/29</td><td>11/10~3/14</td></tr><tr><td>敦賀地区</td><td>2/28~7/3</td><td>9/10~11/28</td><td>7/4~9/9</td><td>11/29~2/27</td></tr><tr><td>小浜地区</td><td>3/6~7/5</td><td>9/5~11/21</td><td>7/6~9/4</td><td>11/22~3/5</td></tr></table> <p>・構造体強度補正值 ( ) N</p> <p>・高炉セメントB種</p> <table border="1"><tr><th>地区</th><th>補正值</th><th>3 N</th><th>番中6 N</th><th>6 N</th></tr><tr><td>福井・丹南地区</td><td>4/2~7/3</td><td>9/8~10/22</td><td>7/4~9/7</td><td>10/23~4/1</td></tr><tr><td>大野・勝山地区</td><td>4/7~7/10</td><td>8/30~10/15</td><td>7/11~8/29</td><td>10/16~4/6</td></tr><tr><td>敦賀地区</td><td>3/30~7/3</td><td>9/10~10/30</td><td>7/4~9/9</td><td>10/31~3/29</td></tr><tr><td>小浜地区</td><td>4/3~7/5</td><td>9/5~10/24</td><td>7/6~9/4</td><td>10/25~4/2</td></tr></table> <p>・構造体強度補正值 ( ) N</p> <p>⑦寒中コンクリートの適用期間 (6.11.1)</p> <table border="1"><tr><th>種 類</th><th>普通ポルトランドセメント</th><th>混合セメントのA種</th><th>高炉セメントB種</th></tr><tr><td>地区</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>福井・丹南地区</td><td>1/1~ 2/20</td><td></td><td></td></tr><tr><td>大野・勝山地区</td><td>12/11~ 3/10</td><td></td><td></td></tr><tr><td>敦賀・小浜地区</td><td>1/11~ 2/20</td><td></td><td></td></tr></table> <p>8.無筋コンクリート [8.11.1]</p> <p>コンクリートの種類 ・普通コンクリート ・</p> <p>設計基準強度 ※18N/mm<sup>2</sup> ・</p> <p>スランプ ※15cmまたは18cm</p> <p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種またはフライアッシュセメントA種</li><li>・高炉セメントB種 [G]</li><li>・フライアッシュセメントB種 [G]</li></ul> <p>適用箇所 ・図示 ・</p> <p>9.打継ぎの位置、打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 (6.6.4)(6.8.1)</p> <p>打継ぎの位置</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※標準仕様書6.6.4.(1)による ・図示による ( )</li></ul> <p>目地目法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※標準仕様書9.7.3.(1)(7)による ・図示による ( )</li></ul> <p>ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による ( )</li></ul> <p>10.せき板合板等の材質等 [8.2.7]</p> <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・合板 (※12mm ) [G]</li><li>・メッシュ型枠JIS G 3302 (使用部位 埋設とある基礎、基礎梁及び関連する柱部分 (ただし、見えがかりで仕上げの無い部分は除く) とする。その際、コンクリートは10mmふかすこととし、寒中コンクリートの養生方法、型枠締付け方法については、監督職員の承諾を得ること。</li><li>・断熱材兼用型枠 (使用部位 )</li><li>・MCR工法用シート (使用部位 打増し厚さ ・ 20mm )</li><li>・床型枠用鋼製デッキプレート (使用部位 )</li></ul> <p>スリーブの材質及び規格等 [8.2.7]</p> <p>改修標準仕様書表8.2.6による</p> <p>円形スリーブ (溶接垂れめっき鋼板) は、筒形の両側を外側に折り曲げてつばを設ける。</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。</p> <p>⑪型枠工事 [8.7.8]</p> <p>シアコネクタをセパレーターとして使用</p> <p>使用箇所 ・図示による ( ) ・</p> <p>外部に面するコンクリートの打ち増し厚さ ※図示 [8.7.8]</p> <p>⑫コンクリートの打込み工法等 [8.21.8][8.23.5]</p> <table border="1"><tr><th>種 類</th><th>打 設 工 法</th><th>部 位</th></tr><tr><td>現場打ちコンクリート</td><td>・流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]</td><td>・全ての増設壁 ・図示</td></tr><tr><td>壁の増設工事</td><td>○圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]</td><td>○全ての増設壁 ・図示</td></tr><tr><td></td><td>・工法指定なし</td><td>・全ての増設壁 ・図示</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・図示</td></tr><tr><td>鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び縦横間隔クープ巻き工法</td><td>○流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]</td><td>○全ての補強柱 ・図示</td></tr><tr><td></td><td>・圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]</td><td>・全ての補強柱 ・図示</td></tr><tr><td></td><td>・工法指定なし</td><td>・全ての補強柱 ・図示</td></tr></table> <p>鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 [8.23.6]</p> <p>柱頭柱脚の隙間部間の型枠</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※発泡プラスチック保温材等を埋込む ・</li></ul> <p>柱頭柱脚の隙間寸法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※図示</li></ul> <p>あと打ちコンクリートまたは構造用モルタルの厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※図示 ・ mm</li></ul> <p>補強後の仕上げ ※図示による</p> <p>打ち直し仕上げ [8.1.4][表8.1.4]</p> <table border="1"><tr><th>種 別</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○A種</td><td>設備基礎</td></tr><tr><td>・B種</td><td></td></tr><tr><td>・C種</td><td></td></tr></table> <p>仕上げ平たかさ [8.1.4][表8.1.5]</p> <table border="1"><tr><th>種 別</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○a種</td><td>設備基礎、保護コンクリート</td></tr><tr><td>・b種</td><td></td></tr><tr><td>・c種</td><td></td></tr></table>	地区	補正值	3 N	番中6 N	6 N	福井・丹南地区	3/7~7/3	9/8~11/18	7/4~9/7	11/19~3/6	大野・勝山地区	3/15~7/10	8/30~11/9	7/11~8/29	11/10~3/14	敦賀地区	2/28~7/3	9/10~11/28	7/4~9/9	11/29~2/27	小浜地区	3/6~7/5	9/5~11/21	7/6~9/4	11/22~3/5	地区	補正值	3 N	番中6 N	6 N	福井・丹南地区	4/2~7/3	9/8~10/22	7/4~9/7	10/23~4/1	大野・勝山地区	4/7~7/10	8/30~10/15	7/11~8/29	10/16~4/6	敦賀地区	3/30~7/3	9/10~10/30	7/4~9/9	10/31~3/29	小浜地区	4/3~7/5	9/5~10/24	7/6~9/4	10/25~4/2	種 類	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種	高炉セメントB種	地区				福井・丹南地区	1/1~ 2/20			大野・勝山地区	12/11~ 3/10			敦賀・小浜地区	1/11~ 2/20			種 類	打 設 工 法	部 位	現場打ちコンクリート	・流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]	・全ての増設壁 ・図示	壁の増設工事	○圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]	○全ての増設壁 ・図示		・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示			・図示	鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び縦横間隔クープ巻き工法	○流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]	○全ての補強柱 ・図示		・圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]	・全ての補強柱 ・図示		・工法指定なし	・全ての補強柱 ・図示	種 別	施 工 箇 所	○A種	設備基礎	・B種		・C種		種 別	施 工 箇 所	○a種	設備基礎、保護コンクリート	・b種		・c種		<p>④-4 あと施工アンカー工事</p> <p>①あと施工アンカーの材料 [8.2.4]</p> <p>あと施工アンカーの種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・金属系</li></ul> <table border="1"><tr><th>セット方式</th><th>呼び径 (mm)</th><th>埋込深さ (mm)</th><th>引張耐力 (kN)</th><th>せん断耐力 (kN)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※本体打込み式改良型</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>接合部の種類、径、長さ ※図示</p> <p>○接着系</p> <table border="1"><tr><th>種 類</th><th>呼び径 (mm)</th><th>埋込深さ (mm)</th><th>引張耐力 (kN)</th><th>せん断耐力 (kN)</th></tr><tr><td>※カセル式 回転・打撃式</td><td>13</td><td>100</td><td>8.85</td><td>9.64</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>アンカー筋の径及び埋込み深さ ※図示</p> <p>接着剤の品質 ※有機系 ・無機系</p> <p>アンカー筋の種類 ※表8.2.1の異形棒鋼 ・図示</p> <p>アンカー筋の新設壁内への定着長さ ※頭部ナット付き 20d</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・頭部ナット無し 30d (dはアンカー筋径)</li></ul> <p>性能確認試験 [8.2.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※実施しない</li><li>・実施する (試験方法及び試験数 ・図示 ・ )</li></ul> <p>施工確認試験 [8.12.7]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※実施する</li><li>試験方法 ※引張試験 ・</li><li>1ロット ※1日に施工されたものの径及び仕様ごととする ・</li><li>試験箇所数 ※1ロットに対し3本とし、ロットから無作為に抜き取る</li><li>確認強度 ※図示</li><li>・実施しない</li></ul> <p>穿孔前の埋込み配管等の探査 [8.12.4]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※鉄筋探知器 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う</li><li>・はつり出しによる</li></ul> <p>3.シアコネクタ</p> <p>現場打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※金属拡張系あと施工アンカーの異形差筋アンカー</li></ul> <p>径 (mm) ※D10</p> <p>長さ (mm) ※8d (d:シアコネクタの径) ・</p> <p>埋込み深さ (mm)</p> <p>間隔 (mm) ※500×500 ・</p> <p>4.穿孔機械</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ハンマードリル</li><li>※低騒音、低振動型穿孔機 (ダイヤモンドコアドリル、ハイブリッドコアドリル、ミストドリル、ソノドリル等)</li></ul> <p>8-5 鉄骨工事</p> <p>1.鉄骨製作工場 [8.1.5][7.1.3]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※建築基準法第6条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場または同等以上の能力のある工場 ( ・S ・H ・R ・J ) グレード以上</li><li>・監督職員の承諾する工場</li></ul> <p>2.施工管理技術者 [8.1.5]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※適用する ・適用しない</li></ul> <p>3.鋼材 [8.2.8][表8.2.7]</p> <table border="1"><tr><th>種類の記号</th><th>規 格 等</th><th>使 用 箇 所</th></tr><tr><td>—</td><td>SS400</td><td>図示</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>4.高力ボルト [8.2.9]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・トルシア形高力ボルト</li><li>・JIS形高力ボルト</li></ul> <p>ナット回転の場合、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・溶接垂れめっき高力ボルト</li><li>・摩擦面処理 ・プラスト処理</li><li>・りん酸塩処理</li></ul> <p>ずり試験の実施 [8.14.2]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実施する ( ・ずり係数試験 ・ずり耐力試験 ) ・実施しない</li></ul> <p>高力ボルトの継ぎ距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示 [8.13.2]</p> <p>5.普通ボルト [8.13.2]</p> <p>ボルトの継ぎ距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示 [8.13.8]</p> <p>母屋又は鋼縁の取付けに使用するボルトの孔径</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※ねじの呼び径+1.0mm</li></ul> <p>6.アンカーボルトの設置等 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・構造用アンカー</li><li>材質 ※SNR400B</li><li>アンカーフレームの形状及び寸法 ※図示</li><li>・建方用アンカー</li><li>材質 ※SS400</li><li>アンカーボルトの保持及び埋込み工法</li><li>種別 ・A種 ※B種 ・C種</li><li>均しモルタルの厚さ ※50mm ・30mm</li></ul> <p>ボルトの継ぎ距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示 [8.13.2]</p> <p>7.溶接材料 [8.2.10]</p> <p>溶接材料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ [8.2.10(1)及び(2)] による</li></ul> <p>8.スタッド [8.2.11]</p> <table border="1"><tr><th>種類等</th><th>呼び名</th><th>呼び長さ (mm)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td></td><td>・16</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・19</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・22</td><td></td><td></td></tr></table> <p>9.仮組 [8.13.10]</p> <p>仮組の実施 ・実施する ( ) ・実施しない</p> <p>10.技能資格者 [8.15.3]</p> <p>溶接作業における技能資格者の技量付加試験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実施する ( ) ※実施しない</li></ul> <p>11.溶接接合 [8.15.4]</p> <p>開先の形状 ※図示 [8.15.7]</p> <p>スカラップの形状 ※図示 [8.15.7]</p> <p>鋼製エンドタブの切除部分 [8.15.7]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・見え掛り部となる部分 ・見え隠れ部となる部分 ・切除する部分なし</li></ul>	セット方式	呼び径 (mm)	埋込深さ (mm)	引張耐力 (kN)	せん断耐力 (kN)	備 考	※本体打込み式改良型												種 類	呼び径 (mm)	埋込深さ (mm)	引張耐力 (kN)	せん断耐力 (kN)	※カセル式 回転・打撃式	13	100	8.85	9.64						種類の記号	規 格 等	使 用 箇 所	—	SS400	図示				種類等	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所		・16				・19				・22			<p>鋼製エンドタブの切断範囲 [8.15.7]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。</li><li>なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</li></ul> <p>鋼製エンドタブの切断面の仕上げ [8.15.7]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ [8.15.7(1)(3)(b)(2)] による</li></ul> <p>12.溶接部の試験 [8.15.12]</p> <p>H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験の方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「実合わせ継手の食い違い仕口ずれの検査・補強マニュアル (独立行政法人建築研究所) 」</li><li>3.5.2による受入検査</li><li>・抜き取り検査① ※抜き取り検査②</li></ul> <p>JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」の付則3「溶接」に関する試験方法等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ JASS6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)、までによる。ただし、溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。</li></ul> <p>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※全数試験とする</li></ul> <p>13.錆止め塗装 [8.17.2]</p> <p>塗装の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"><li>耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による ( )</li><li>耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※標準仕様書7.8.2(1)(7)~(9)</li><li>・図示による ( )</li></ul> <p>7.4.2</p> <p>塗料の種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>鉄鋼面にEP-G塗りの場合 ※B種 ・</li><li>垂れめっき鋼面にSOP塗りの場合 ※A種 ・</li></ul> <p>鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨で溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※A種 ・</li></ul> <p>耐火被覆材の接着する面への塗装 ・行わない ・行う [8.17.4]</p> <p>14.耐火被覆材の種類及び性能 [8.18.2]~[8.18.8]</p> <table border="1"><tr><th>種 類</th><th>材 料 ・ 工 法 等</th><th>性 能 (耐火時間)</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td>・耐火材吹付け</td><td>・乾式吹付ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・半乾式吹付ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>・湿式ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・耐火板張り</td><td>・繊維混入ケイ酸カルシウム板</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・耐火材巻付け</td><td>・高断熱ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ラス張りモルタル塗り</td><td>—</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・耐火塗料</td><td>—</td><td></td><td></td></tr></table> <p>材料及び工法は、建築基準法に基づき指定または認定を受けたものとする</p> <p>15.鉄骨ブレース設置後の仕上げ [8.28.9]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図示による ( )</li></ul> <p>8-6 グラウト工事</p> <p>1.モルタル及びグラウト材 [8.2.6][8.2.12][表8.2.5]</p> <p>構造体用モルタル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※ [8.2.6] による</li></ul> <p>柱底均しモルタル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※無収縮モルタル</li></ul> <p>8.2.12</p> <p>グラウト材</p> <p>無収縮グラウト材 プレミックス及び現場調合形</p> <p>混和材料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>セメント系 (酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする</li></ul> <p>セメント</p> <ul style="list-style-type: none"><li>JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通または早強ポルトランドセメントとする</li></ul> <p>砂</p> <ul style="list-style-type: none"><li>土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する</li></ul> <p>無収縮グラウトの品質及び試験方法 (現場調合形においては標準使用量・配合値における品質)</p> <p>フリージング</p> <ul style="list-style-type: none"><li>練り混ぜ時間後のフリージング率 : 2.0%以下</li></ul> <p>凝結時間</p> <ul style="list-style-type: none"><li>凝結開始時間 : 1時間以上</li><li>最終凝結時間 : 10時間以内</li></ul> <p>無収縮性</p> <ul style="list-style-type: none"><li>材齢 7日 収縮率 0.30%以下</li></ul> <p>圧縮強度</p> <ul style="list-style-type: none"><li>材齢 3日 20N/mm<sup>2</sup>以上</li><li>材齢 28日 40N/mm<sup>2</sup>以上</li></ul> <p>付着強度</p> <ul style="list-style-type: none"><li>材齢 28日 2.5N/mm<sup>2</sup>以上</li></ul> <p>塩化物量</p> <ul style="list-style-type: none"><li>0.30%以下</li></ul> <p>試験方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>日本道路公団規格 (JHS) 「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999</li><li>によるプレミックス形と現場調合形で混和材料が同一の場合はプレミックスのみ試験を行う</li></ul> <p>②既存構造体と増設壁との取合部の処理方法 [8.21.9]</p> <table border="1"><tr><th>部 位</th><th>処 理 方 法</th><th>備 考</th></tr><tr><td>○増設壁の上部</td><td>※グラウト材を注入</td><td>寸法は図示による</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>8-7 連続繊維補強工事</p> <p>連続繊維補強工法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針第4章補強工事の施工による工法または同等の性能を有する工法</li></ul> <p>連続繊維の材料 [8.2.13]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・ガラス繊維</li></ul> <p>連続繊維の形状</p> <ul style="list-style-type: none"><li>※一方向織物または一方向シート ・一方向プレブリグ ・二方向織物</li></ul> <p>連続繊維の強度</p> <ul style="list-style-type: none"><li>引張強度 (含浸硬化後)</li><li>・ ( ) N/mm<sup>2</sup></li><li>ヤング係数 (含浸硬化後)</li><li>・ ( ) N/mm<sup>2</sup></li></ul> <p>・下地処理</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ひび割れ部補修</li></ul> <p>8.24.6</p> <ul style="list-style-type: none"><li>範囲 ・図示による ( )</li><li>工法の種類</li><li>・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ [8.24.6]</li><li>・図示による</li><li>※工法の評価内容により半径は20mmまたは30mmとする</li></ul>	種 類	材 料 ・ 工 法 等	性 能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付ロックウール				・半乾式吹付ロックウール				・湿式ロックウール			・耐火板張り	・繊維混入ケイ酸カルシウム板			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・ラス張りモルタル塗り	—			・耐火塗料	—			部 位	処 理 方 法	備 考	○増設壁の上部	※グラウト材を注入	寸法は図示による			
部 位	継 手 方 法	径 (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																					
柱・梁の主筋	※ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手																																																																																																																																																																																																																																																																						
その他	※重ね継手 ・																																																																																																																																																																																																																																																																						
種 類	材 料	材 質	径	本数ピッチ等	適用箇所																																																																																																																																																																																																																																																																		
※スライバル筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼	※S R235	※φ6	スパイラルの径 (mm)	※図示																																																																																																																																																																																																																																																																		
			・9φ	( 100 )																																																																																																																																																																																																																																																																			
				スパイラルのピッチ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																			
・はしご筋	※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・S D295A	・D10	( 壁面内方向筋 )	( )																																																																																																																																																																																																																																																																		
				( 壁面外方向筋 )	( )																																																																																																																																																																																																																																																																		
			・9φ	( 100×100 )																																																																																																																																																																																																																																																																			
地区	補正值	3 N	番中6 N	6 N																																																																																																																																																																																																																																																																			
福井・丹南地区	3/7~7/3	9/8~11/18	7/4~9/7	11/19~3/6																																																																																																																																																																																																																																																																			
大野・勝山地区	3/15~7/10	8/30~11/9	7/11~8/29	11/10~3/14																																																																																																																																																																																																																																																																			
敦賀地区	2/28~7/3	9/10~11/28	7/4~9/9	11/29~2/27																																																																																																																																																																																																																																																																			
小浜地区	3/6~7/5	9/5~11/21	7/6~9/4	11/22~3/5																																																																																																																																																																																																																																																																			
地区	補正值	3 N	番中6 N	6 N																																																																																																																																																																																																																																																																			
福井・丹南地区	4/2~7/3	9/8~10/22	7/4~9/7	10/23~4/1																																																																																																																																																																																																																																																																			
大野・勝山地区	4/7~7/10	8/30~10/15	7/11~8/29	10/16~4/6																																																																																																																																																																																																																																																																			
敦賀地区	3/30~7/3	9/10~10/30	7/4~9/9	10/31~3/29																																																																																																																																																																																																																																																																			
小浜地区	4/3~7/5	9/5~10/24	7/6~9/4	10/25~4/2																																																																																																																																																																																																																																																																			
種 類	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種	高炉セメントB種																																																																																																																																																																																																																																																																				
地区																																																																																																																																																																																																																																																																							
福井・丹南地区	1/1~ 2/20																																																																																																																																																																																																																																																																						
大野・勝山地区	12/11~ 3/10																																																																																																																																																																																																																																																																						
敦賀・小浜地区	1/11~ 2/20																																																																																																																																																																																																																																																																						
種 類	打 設 工 法	部 位																																																																																																																																																																																																																																																																					
現場打ちコンクリート	・流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]	・全ての増設壁 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
壁の増設工事	○圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]	○全ての増設壁 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
		・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び縦横間隔クープ巻き工法	○流込み工法 [8.21.8(1)(7)、(2)]	○全ての補強柱 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・圧入工法 [8.21.8(1)(4)、(3)]	・全ての補強柱 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
	・工法指定なし	・全ての補強柱 ・図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
種 別	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																						
○A種	設備基礎																																																																																																																																																																																																																																																																						
・B種																																																																																																																																																																																																																																																																							
・C種																																																																																																																																																																																																																																																																							
種 別	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																						
○a種	設備基礎、保護コンクリート																																																																																																																																																																																																																																																																						
・b種																																																																																																																																																																																																																																																																							
・c種																																																																																																																																																																																																																																																																							
セット方式	呼び径 (mm)	埋込深さ (mm)	引張耐力 (kN)	せん断耐力 (kN)	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																		
※本体打込み式改良型																																																																																																																																																																																																																																																																							
種 類	呼び径 (mm)	埋込深さ (mm)	引張耐力 (kN)	せん断耐力 (kN)																																																																																																																																																																																																																																																																			
※カセル式 回転・打撃式	13	100	8.85	9.64																																																																																																																																																																																																																																																																			
種類の記号	規 格 等	使 用 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																					
—	SS400	図示																																																																																																																																																																																																																																																																					
種類等	呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																																																																																																																																																																																																																																																																				
	・16																																																																																																																																																																																																																																																																						
	・19																																																																																																																																																																																																																																																																						
	・22																																																																																																																																																																																																																																																																						
種 類	材 料 ・ 工 法 等	性 能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																																																																																																																																																																																																																																				
・耐火材吹付け	・乾式吹付ロックウール																																																																																																																																																																																																																																																																						
	・半乾式吹付ロックウール																																																																																																																																																																																																																																																																						
	・湿式ロックウール																																																																																																																																																																																																																																																																						
・耐火板張り	・繊維混入ケイ酸カルシウム板																																																																																																																																																																																																																																																																						
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																																																																																																																																																																																																																																						
・ラス張りモルタル塗り	—																																																																																																																																																																																																																																																																						
・耐火塗料	—																																																																																																																																																																																																																																																																						
部 位	処 理 方 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																					
○増設壁の上部	※グラウト材を注入	寸法は図示による																																																																																																																																																																																																																																																																					





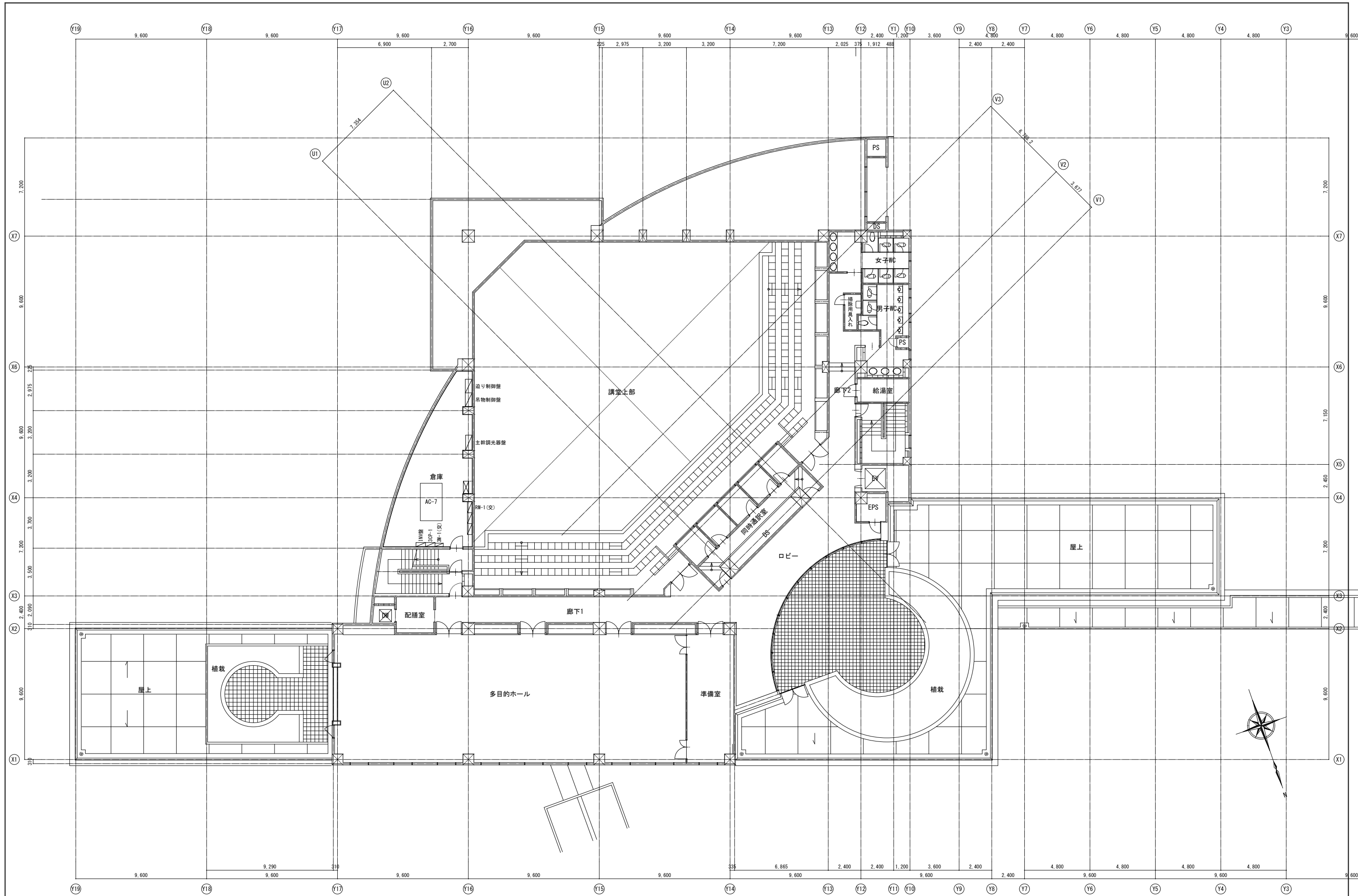
凡例		別工事エリア・部分を示す		天井点検口・450×450	
	天井撤去新設範囲を示す。		※別途工事を意味するものではない		※必要に応じ開口補強を施すこと ※設置位置は監督職員と協議すること
C-1	改修前 天井-LGS下地(既存のまま)、 GB-Rt9.5、EP塗り 撤去		※岩綿吸音板はみなし石綿含有材として扱う		天井点検口・450×450 既存天井・岩綿吸音板t9.0、捨て張り材GB-Rt9.5 ※岩綿吸音板はみなし石綿含有材として扱い、天井点検口の部分の 張替えを行う。尚、捨て張り材のGB-Rt9.5は石綿含有なし。 ※必要に応じ開口補強を施すこと ※設置位置は監督職員と協議すること
C-2	改修前 天井-LGS下地(既存のまま)、 GB-Rt9.5、岩綿吸音板t9.0 撤去				
	改修後 GB-Rt9.5、岩綿吸音板t9.0				



凡例  
 // 別工事エリア・部分を示す  
 ※別途工事を意味するものではない

年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学	KMR 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村重一	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事 図面名称 2階平面図	図面番号 A-09 原寸 1:125
令和8年7月	第一分科 第二分科 第三分科 審 業 業 業 業		設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	

A1: 原寸  
A3: 50%縮小



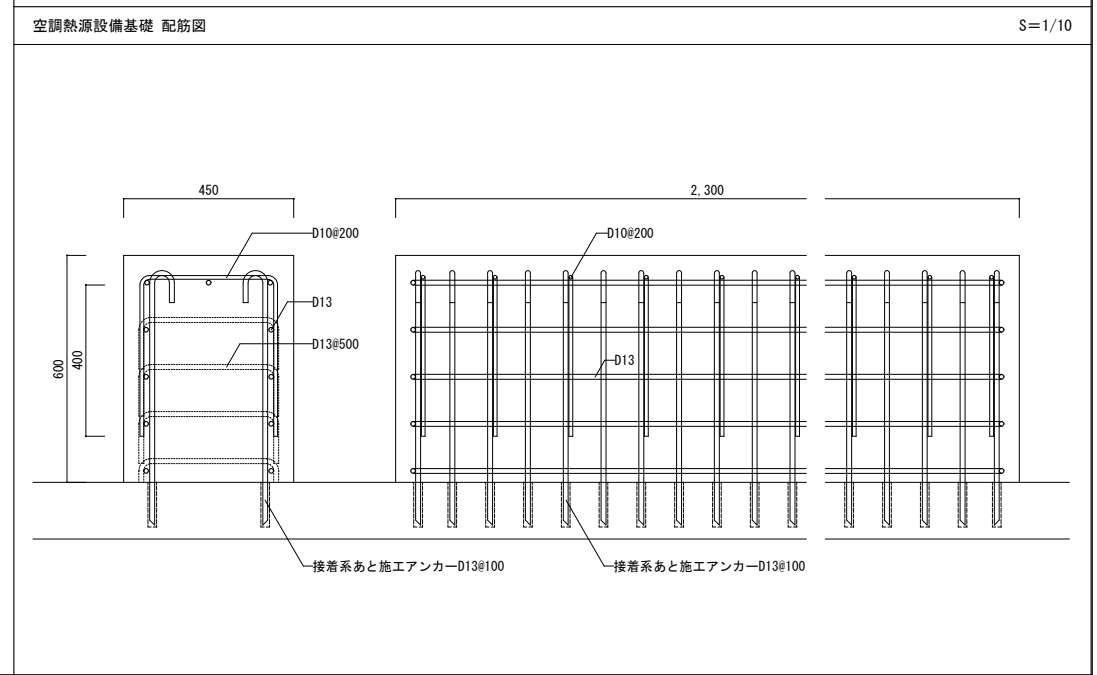
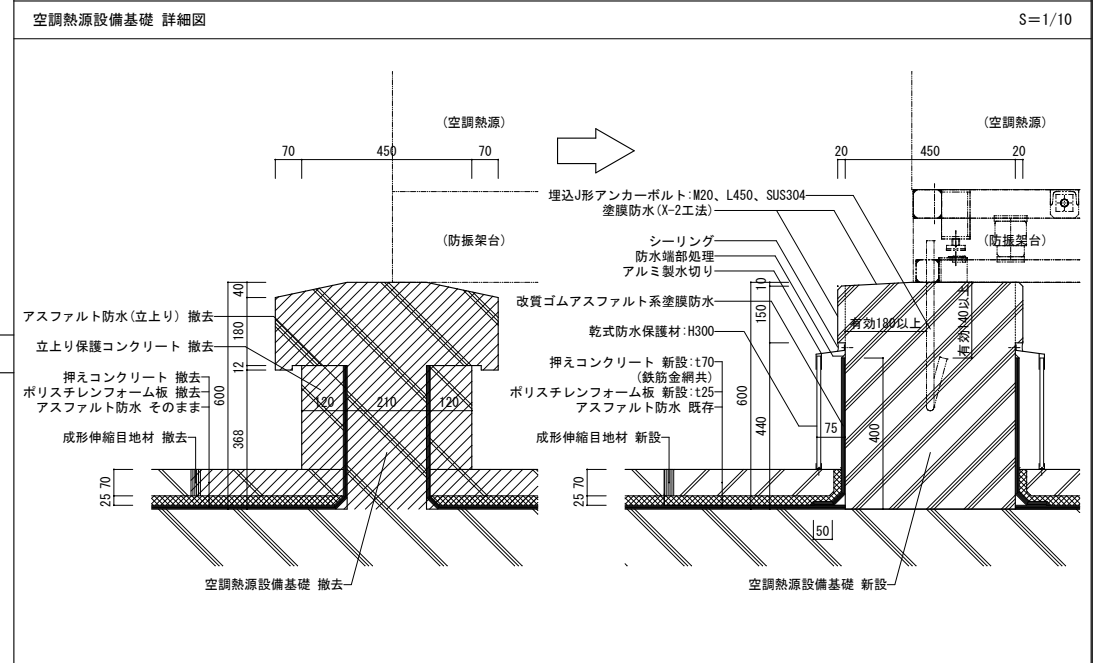
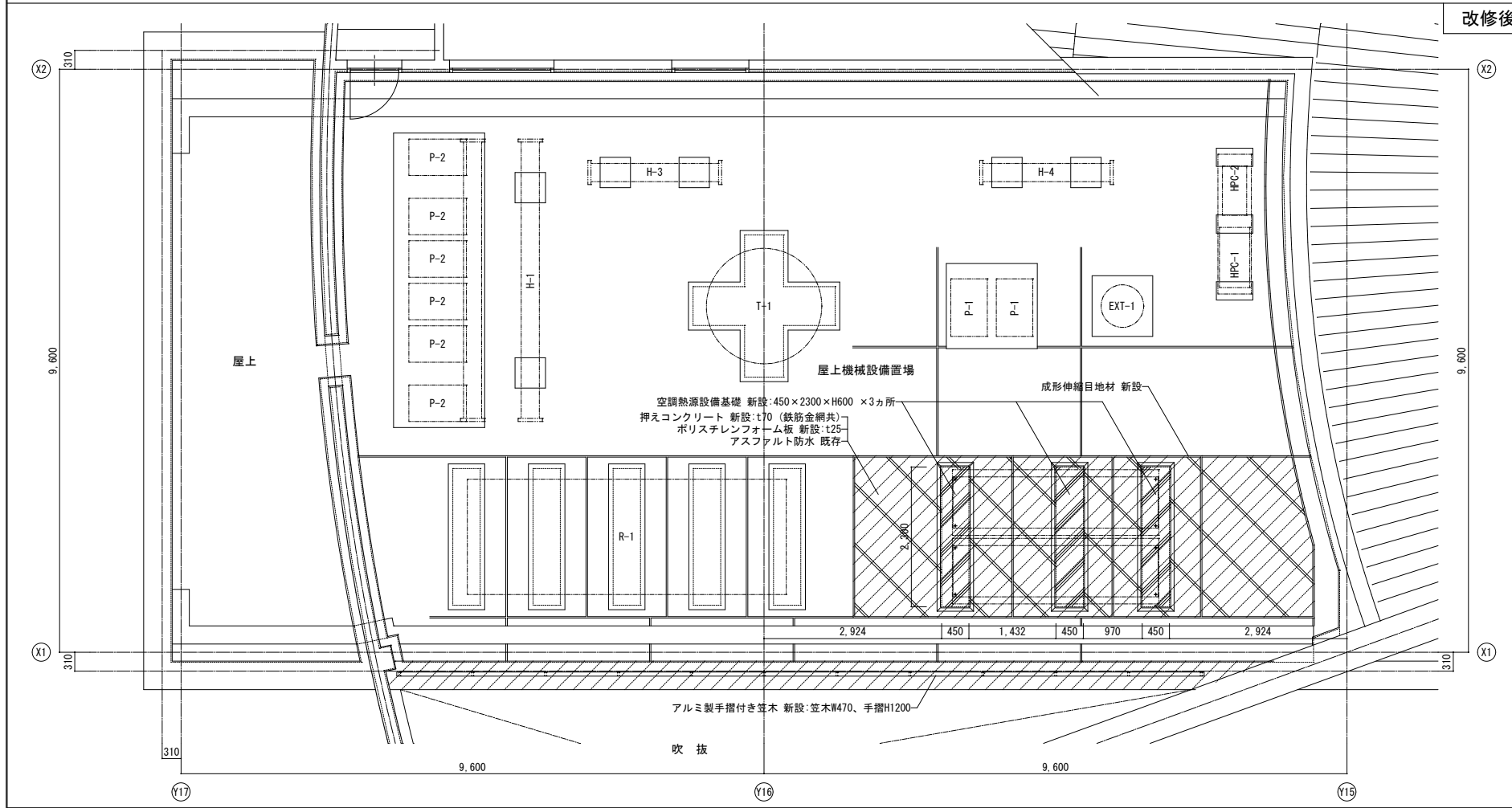
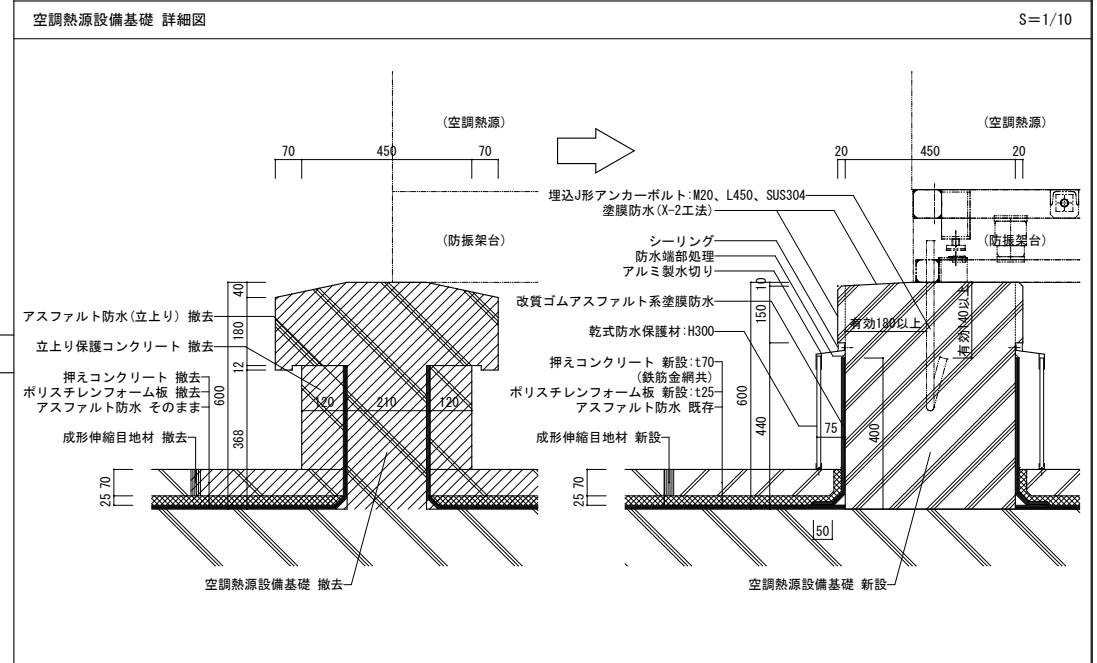
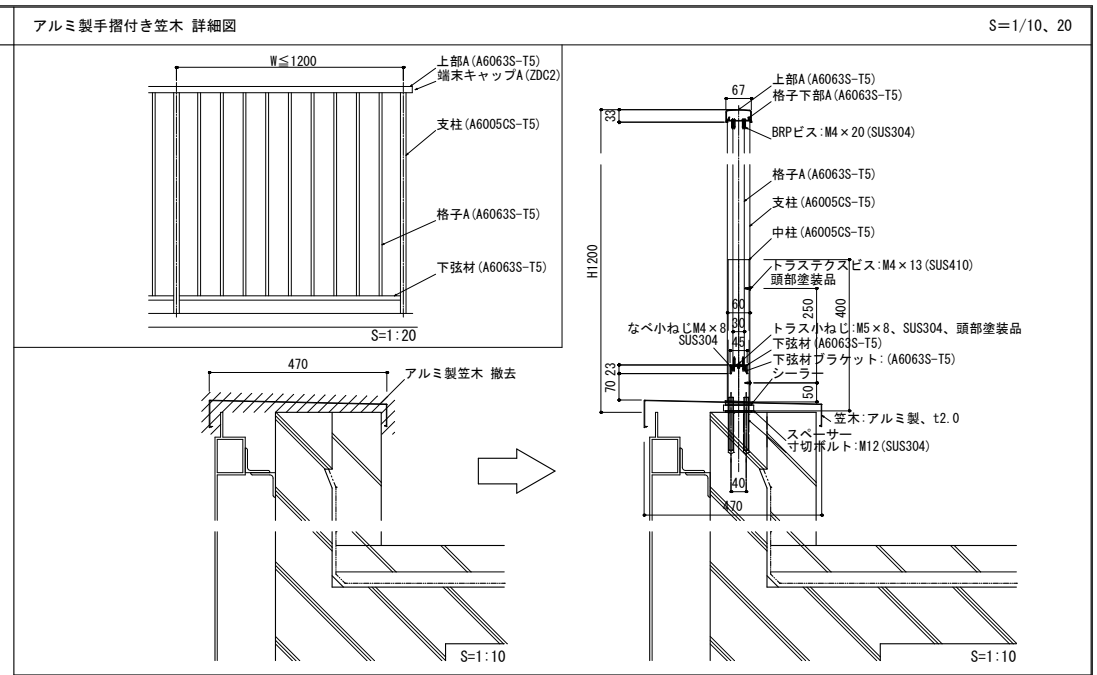
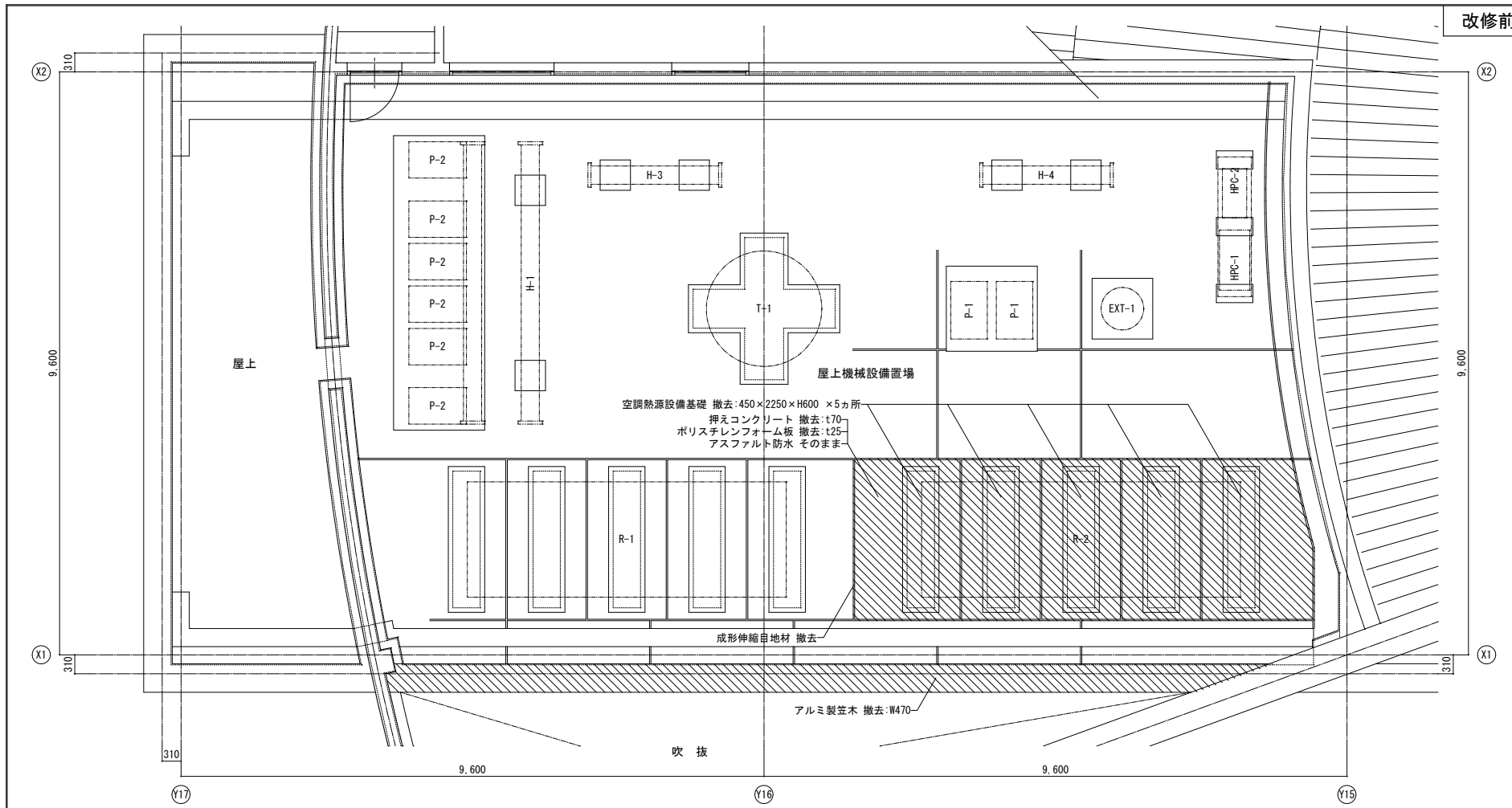
年度別	R8
分室番号	
第一分室	
第二分室	
第三分室	
審	
令和 8年 7月	

公立大学法人 福井県立大学

KMR 株式会社 木村建築事務所  
 1級建築士事務所 福井県(L)115号  
 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村重一

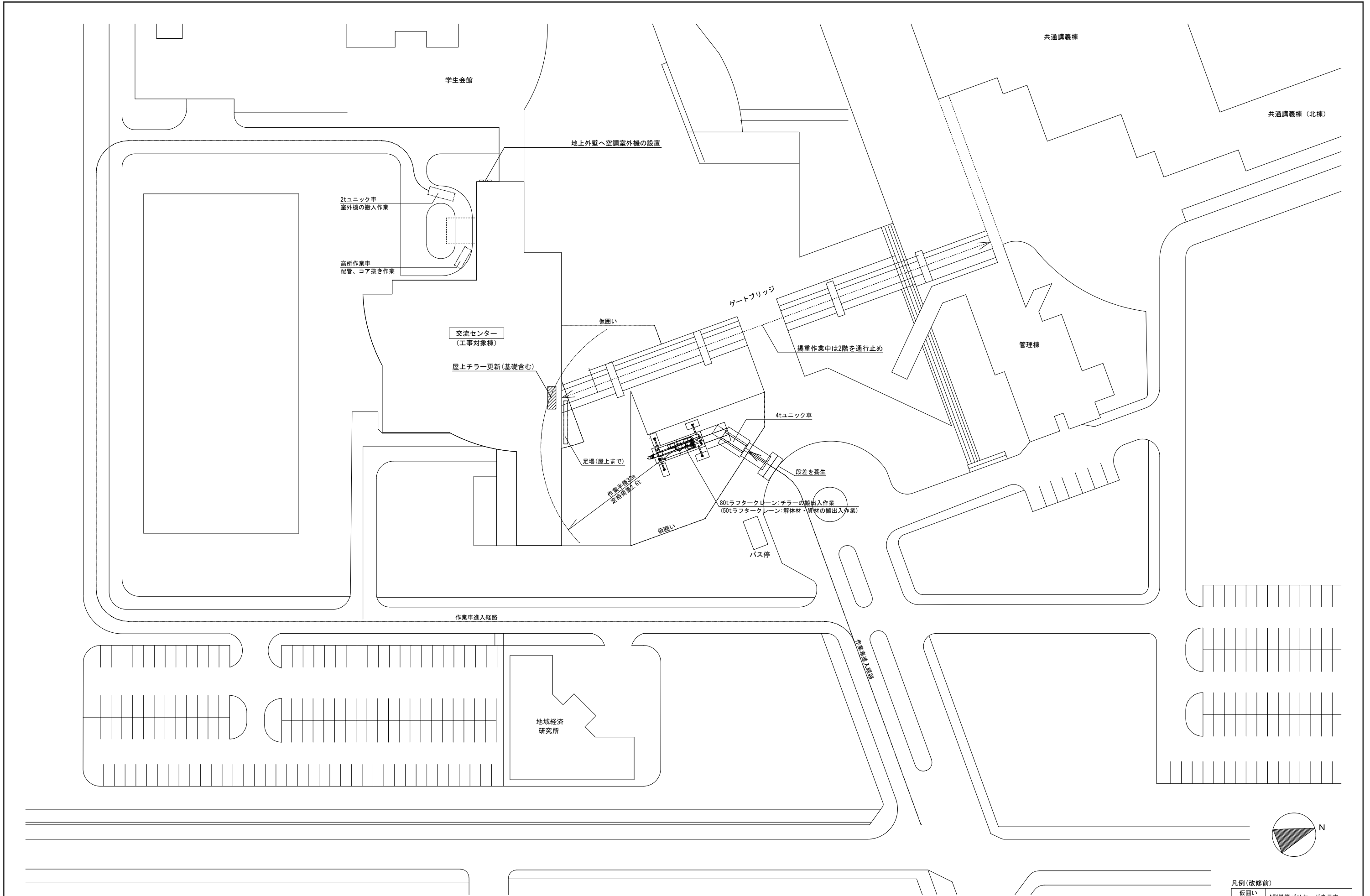
工事名称	永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号	A-10
設計	一級建築士 第356628号 高澤 徹	縮尺	1:125
図面名称	3階平面図【参考】		

A1 : 原寸  
A3 : 50%縮小図



年度別 R8	公立大学法人 福井県立大学	KMR 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村重一	工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事	図面番号 A-11
令和8年 7月			設計 一級建築士 第356628号 高澤 徹	図面名称 R階平面詳細図、部分詳細
				縮尺 1:50, 20, 10

A1: 原寸  
A3: 50%縮小図



凡例(改修前)  
 ---仮囲い--- A型単管バリケードを示す

年度別	R8			
令和 8年 7月	第一分類	第二分類	第三分類	審
				査

公立大学法人 福井県立大学 地域経済研究所
--------------------------

KMR 株式会社 木村建築事務所 1級建築士事務所 福井県(L)115号 管理建築士 一級建築士 第167899号 木村憲一
---

工事名称 永平寺キャンパス 交流センター空調熱源改修工事 図面名称 仮設計画図	図面番号 A-12 縮尺 1:400
--	-----------------------------

A1 : 原寸  
 A3 : 50%縮小図